

X市中学生パネル学力調査
——第一次調査報告

堤 孝晃・須藤康介 編

東京大学社会科学研究所研究シリーズ No.60

東京大学社会科学研究所

東京大学社会科学研究所研究シリーズ No. 60

X 市中学生パネル学力調査 第一次調査報告

堤孝晃・須藤康介 編

2016 年 3 月

目次

序章 調査の概要	3
1. 研究の概要	3
2. 調査データについて	4
3. 学力スコアの指標化	5
4. 脱落サンプルの分析	6
5. 調査結果の概要	9
 第1章 学力不振は挽回できるか —小学6年生から中学1年生にかけての基礎的分析	17
1. はじめに	17
2. 変数と手続き	18
3. 分析1：全体スコア（中学1年）の分析	20
4. 分析2：領域別分析	25
5. まとめ	31
 第2章 中学生の進路選択過程—学科選択に着目して	33
1. 問題設定	33
2. 分析	34
3. まとめと今後の展望	43
 第3章 部活動・通塾・ケータイ所有と生活行動の関連 —生活時間および生活状況の変化の実態分析	45
1. 問題設定	45
2. データの意義と限界	46
3. 小6から中1への変化	47
4. 部活動・通塾・ケータイ所有と生活行動の変化	50
5. まとめと結論	56

第4章 小中学生のいじめ規範意識の差異とその変化	
—小学6年生と中学1年生のパネルデータを用いた分析.....	59
1. 本章の目的.....	59
2. 「いじめ規範意識」の基本的分布と独立変数の確認.....	62
3. 小学生および中学生のいじめ規範意識とその比較.....	67
4. いじめ規範意識の変化に関する分析	75
5. まとめと課題.....	78
第5章 なぜ「中1ギャップ」が発生するのか	
—小学校6年時と中学校1年時のパネルデータから	81
1. 問題設定	81
2. 先行研究の整理	83
3. 分析の準備.....	84
4. 分析結果—クロス集計.....	87
5. 分析結果—二項ロジスティック回帰分析	94
6. 結論.....	95
調査票①.....	99
調査票②.....	113
付表	117

序章 調査の概要

須藤 康介（明星大学）

中西 啓喜（早稲田大学）

豊永 耕平（東京大学大学院）

1. 研究の概要

本報告書は、「学校教育と学力」研究会が 2015 年度より実施している「X 市中学生パネル学力調査」の第一次報告書である。

本研究会の目的は、都市部の郊外に位置する X 市教育委員会と連携し、X 市内の中学生を対象とした 3 年間の悉皆パネル調査を実施し、中学生の学力や生活の変化の実態を明らかにすることである。パネル調査は、X 市に在籍する 2015 年度における中学 1 年生のコーホート（約 600 人）に対して 3 年間実施する。小学 6 年時には調査を実施しないが、X 市から文部科学省 2014 年度「全国学力・学習状況調査」のデータの提供を受ける。パネル調査は、ベネッセコーポレーションに委託した「総合学力調査」（学習到達度調査・学習意識調査）と、当該調査に研究会が追加した別紙の質問紙調査から構成される。また、国語教科担任に対する質問紙調査も年度末に実施し、生徒調査データとマッチングさせる。これらの調査を通して、中学生の学力の規定要因などを高い信頼性で導くことを企図している。図表序-1 が、2015 年 12 月時点での研究計画の概要である。

図表序-1 2015 年 12 月時点での研究計画

	2015年度	2016年度	2017年度
4月		第2回生徒調査 (ベネッセ調査)	第3回生徒調査 (全国学力・学習状況調査)
5月			
6月			
7月	第1回生徒調査 (ベネッセ調査)		
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			第4回生徒調査 (ベネッセ調査)
1月			
2月	第1回教員調査	第2回教員調査	第3回教員調査
3月			

研究計画が示すように、学力の規定要因などの厳密な分析を行うためには、2017 年度まで調査を進め、3 年間のデータ蓄積が必要である。本報告書は、2015 年度の生徒調査が終了したことを受け、現時点で得られている知見を整理し、今後の展望を示すためのものである。いくつか暫定的な知見も含まれるが、それでも本報告書を刊行するのは、小学 6 年生から中学 1 年生にかけての学力や生活の変化を捉えるだけでも、中 1 ギャップが注目されている現在において、貴重な知見を提供できるだろうと判断したためである。

なお、2015 年度の教員調査（国語教科担任が対象）は 2 月に実施予定であるため、その分析結果は含まれていない。本報告書内で扱われるのは、2014 年度小学 6 年生の「全国学力・学習状況調査」と 2015 年度中学 1 年生の「総合学力調査」（学習到達度調査・学習意識調査）および研究会が追加した別紙の質問紙調査のマッチングデータである。

2. 調査データについて

X 市内で 2014 年度小学 6 年生の「全国学力・学習状況調査」に参加した児童数は、655 人である。悉皆調査であるため、当日欠席者を除く市立小学生全員が対象となっている。学力調査は国語 A・国語 B・算数 A・算数 B からなる。研究会の分析では、さらに国語 A と国語 B を連続した一つの学力調査と見なした正答率、算数 A と算数 B を連続した一つの学力調査と見なした正答率も算出している。学力調査の設問、質問紙調査の項目について、国立教育政策研究所のホームページに掲載されている。

2015 年度中学 1 年生の「総合学力調査」（学習到達度調査・学習意識調査）および研究会が追加した別紙の質問紙調査に参加した生徒数は、597 人である。この調査も X 市教育委員会の協力の下で悉皆調査であるので、当日欠席者を除く市立中学生全員が対象となっている。2014 年度「全国学力・学習状況調査」と比べて人数が減少しているのは、私立中学校進学などで、市立学校在籍者が減少したためである（本章 4 節で詳述）。ベネッセコーポレーションが作成した学力調査（学習到達度調査）の設問は非公開であるが、国語・数学それぞれの中で「基本問題」に該当する設問と「応用問題」に該当する設問が含まれており、それぞれおよび全体の正答率が算出されている。さらに、単元別・領域別の正答率のデータも含まれている。質問紙調査の項目については、本報告書の巻末に掲載した。

今回の調査データの特長は、小学 6 年生の 4 月から、中学 1 年生の 7 月にかけての同一個人の学力などの変化を捉えられる点にある。さらに、悉皆調査であるため、回収率に由来するタイプのデータのバイアスをほぼ 0 と見なすことができる。一方、調査の限界としては、X 市という一つの小規模な自治体に限定したデータであるという点が挙げられる。X 市は西日本の都市部の郊外に位置し、極めて特殊な産業構造などを有するわけではないが、日本全国の縮図とは言い難い。在籍している児童・生徒数が少ないことで、分析において統計的に有意な関連を見出しづらいという課題もある。その点で、本報告書はあくまで事例研究であり、知見の一般化には慎重になる必要がある。

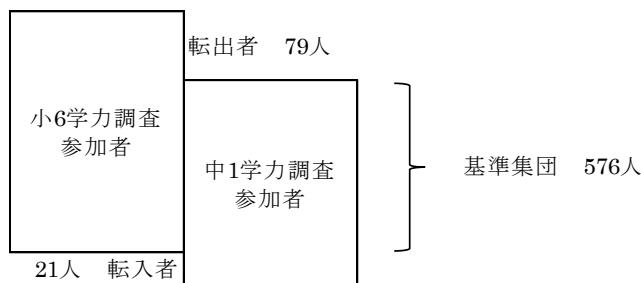
3. 学力スコアの指標化

今回のような、パネル学力調査を分析する上で、設問も形式も異なる二つの学力調査の結果をどのように一つのデータとして分析するかが論点となる。たとえば、ある子どもについて、小学6年生のときの算数正答率が60%で、中学1年生のときの数学正答率が55%だった場合、学力が5ポイント「低下」したと言うことはできない。なぜなら、仮に2つの学力調査がまったく同じ種類の学力を測定しているのだと仮定しても、小学6年生の学力調査の設問と中学1年生の学力調査の設問は難度が異なり、単純に正答率を比較することはできないからである。事実、本データでは、小学6年生の算数正答率の平均値は67.7%であり、中学1年生の数学正答率の平均値は55.9%である。つまり、12ポイントほど正答率が低下するのが「普通」なのである。

このような場合、両学力調査に共通の設問が含まれていれば、項目反応理論を用いて、2つの調査で比較可能なスコアを算出できるが、文部科学省の「全国学力・学習状況調査」とベネッセコーポレーションの「学習到達度調査」は別の調査であり、そのような設計にはなっていない。したがって、本調査データから、絶対的な水準として、学力が向上したのか低下したのかを知ることはできない。

そこで本研究では、次善の方策として、各年度の正答率について標準化を行い、調査対象者の中での相対的な学力を表すスコア（調整標準化スコアと名づける）を算出する。標準化を行うことで、あくまで相対的な水準としてはあるが、その子どもの学力が小学6年生から中学1年生にかけて向上したのか、低下したのかを知ることができる。具体的には、図表序・2で示した「基準集団」における正答率の平均値・標準偏差を算出し、基準集団において平均値が50、標準偏差が10になるように正答率を換算する。

図表序-2 学力スコア算出の基準集団



あくまで基準集団において平均値50、標準偏差10となるように算出しているため、小学6年生全体・中学1年生全体の平均値／標準偏差は50／10とならないことには注意が必要である。図表序・3に、調整標準化スコアの記述統計量を示す。

図表序-3 調整標準化スコアの記述統計量

	有効度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
小6国語Aスコア	650	22	65	50.2	9.94
小6国語Bスコア	648	28	70	50.1	10.13
小6算数Aスコア	649	19	62	50.0	10.17
小6算数Bスコア	646	29	67	50.2	10.12
小6国語スコア	647	24	69	50.2	10.05
小6算数スコア	644	24	66	50.1	10.13
中1国語基本スコア	595	11	71	49.8	10.06
中1国語応用スコア	595	30	66	49.8	10.03
中1数学基本スコア	596	22	67	49.8	10.20
中1数学応用スコア	596	36	83	49.9	10.00
中1国語スコア	595	13	72	49.8	10.06
中1数学スコア	596	23	71	49.8	10.18

以下、本報告書の中で、特に断りなく「スコア」と記述されていた場合は、この調整標準化スコアを意味するものとする。たとえば、「〇〇のような生徒では、小学 6 年生から中学 1 年生にかけて、国語スコアが向上している」という記述は、「〇〇のような生徒は、他の生徒と比べて国語の学力が向上しやすい」という意味である。

(須藤 康介)

4. 脱落サンプルの分析

4.1 パネルデータを分析するメリットと脱落サンプル

教育は「発達のプロセス」だからこそ、追跡的なデータ分析が必要である(中澤 2014)。近年、日本ではパネル調査の実施が増加傾向ではあるものの、学齢期の児童生徒を対象としたパネル調査は極めて少なく、測定された「学力」の変数を含んだ調査はなおさら少ない。その点において、本データは極めて貴重なデータとなっていくことが見込まれる。

パネルデータを用いることで、クロスセクションデータでは把握困難な知見を得ることができる。例えば、「学力の変化」を分析する場合には、回顧的な学力の自己評価を回答してもらいつつ、一度の調査を行うことがしばしば見られる。しかし、学力の自己評価は妥当性を欠くばかりか、回顧的情報は信頼性を欠くことも多く、データの正確さという点でパネルデータは優れている。また、複数の学年を対象として学年横断的なデータを構築し、その分析結果を「学力の変化」として捉えることもある。しかし、この方法は集団における変化は捉えることは可能であるが、児童生徒個人々人の変化を把握することができない。つまり、パネルデータおよびそれに適した分析手法を用いることで、こうした問題を回避し、データをより適切に分析することが可能となる。その他にも、自由度が増すことで推定値の効率性の改善が期待できることや、「観測不可能な個体特有の効果」を取り除いた推

定が可能となることがパネルデータの長所として知られている(北村 2005、村上 2011)。

こうした個人の変化を捉える分析を行うために、パネル調査の調査票には「繰り返し項目」を中心に設定する必要がある。それらは同一の文言で、質問紙の全体的な構造も維持すべきであるという(中澤 2012)。ただし、学齢児童を対象とする場合には、例えば、小学校低学年の児童を対象とする場合の質問文は平易にしないと調査そのものの実施が難しい場合がある。そのため、学齢児童対象のパネル調査は、対象者の学年・年齢に応じて質問項目を変更する必要がある。

上記の通り、パネルデータはクロスセクションデータでは得られないメリットを多分に含む。しかし一方で、サンプルの脱落が問題となる。パネルデータは調査ウェーブを重ねるほどにサンプル脱落が不可避であり、脱落が大きく偏ったサンプルを分析するということは「偏った分析結果」を得ることになる。そこで、ここでは本パネルデータの脱落サンプルの傾向を分析していく。なお、欠損データには、①調査対象者が協力しない／接触できない、という場合の **Unit nonresponse**、②回答してくれてはいるが、質問項目ベースで見ると部分的に回答してくれない、という場合の **Item nonresponse** の 2 つがあるが、本節では **Unit nonresponse** についての分析を行う。

欠損データのメカニズムには次の 3 つがあることが知られている。1 つ目は、**Missing Completely At Random (MCAR)** である。これは脱落サンプルが完全にランダムな場合であり、また脱落が発生するメカニズムはどのような要因にも依存しないとされる。2 つ目は、**Missing At Random (MAR)** である。これは脱落が観察可能な変数にのみ依存することを意味する。3 つ目が、**Non-ignorable** ないし **Missing At No Random (MANR)** と呼ばれるものである。これは脱落サンプルが脱落時点以降の情報などの観測不可能なものに依存している場合である。これらのような欠損データへの対応であるが、いずれの欠損パターンを想定するかによって対応が異なる。

まず、**MCAR** を仮定する場合には、①分析で用いる変数がすべて揃っているデータセットに限定して分析を行う。ただし、多くの対象者の情報を失うことにもなるため、データの代表性を失うこともある。②もう一つは、平均値や前時点における回答情報を代入し、対応することがある。

次に、**MAR** を仮定する場合には、プロビットモデルや傾向スコアなどの何かしらの推定手法を用いて、追跡回答者の属性(性別、出身社会階層など)を推計し、その回答確率を用いて重みづけし、欠損データを補う²⁾。

本報告書の分析では、2 時点調査が完全に接続されたデータを分析していくため、基本的には **MCAR** を仮定することになる。それゆえに、脱落サンプルの傾向を把握しておくという作業は重要な意味を持つ。

4.2 想定される脱落パターンとその分析

それでは、本データの脱落パターンを検討してみよう。図表序-2 に示されているように、小6時に調査対象となったのは655人であった。そして中1時点で実際に追跡できたのは576人だったため、79人が脱落したことになる。図表序-4には改めて表に示した。追跡率は87.9%である。

既述の通り、本調査は学区を限定した追跡調査で、調査は教育委員会へ依頼し、学校を通じたクラスでの集合自記式で行われている。学齢期の児童生徒を追跡した調査の脱落サンプルの傾向を分析した中西・耳塚（2013）を参考にすれば、脱落のパターンは以下の3つが想定される。

ケース1：調査当日に欠席した。

ケース2：調査期間中に引っ越した。

ケース3：中学進学時に、調査対象校以外の学校へ進学した。

図表序-4 脱落・追跡サンプルサイズ

	人数	回収率
小6サンプル	655	100.0%
脱落サンプル	79	12.1%
追跡サンプル	576	87.9%

調査方法が、学校での集合自記式であり、また回収率の高さから考えれば、ケース1はそれほど多くはないだろうし、一般的に考えるとケース2も少数に留まるだろう。そこで本節では、ケース3（中学進学時に、調査対象校以外の学校へ進学した）の可能性を主たる要因として分析してみよう。

当該調査の対象エリアは、統計資料によればそれほど都市規模が大きくはない。しかし、鉄道などの交通手段を用いれば十分に通学可能な私立中学校が多数存在しているため、調査エリア外の中学校へ進学した可能性を十分想定できる。

図表序-5 が脱落サンプルを「1」に設定したロジスティック回帰分析の結果である³⁾。通塾ダミーが5%水準でプラスに有意である。これが示唆するのは、今回の脱落サンプルの傾向には、私立学校への受験・入学者が関わっているということである。私立中学校への受験・入学は、Bright Flight (Kariya and Rosembaum 1999) やリッチ・フライト (藤田 2006) と呼ばれ、富裕層が子どもの教育達成をより有利にすることを目的とし、私立学校へ進学させる現象とされている。通塾ダミーが有意であることは、私立中学校への受験を目指して小学6年時点で通塾していたためだということが示唆されよう。

図表序-5 脱落サンプルの規定要因（ロジスティック回帰分析）

	回帰係数	オッズ比	有意確率
通塾ダミー	0.654	1.923	*
小6国語スコア	0.023	1.023	
小6数学スコア	-0.006	0.994	
(定数)	-3.269	0.038	***
有効度数		641	
Cox-Snell決定係数		0.014	
Nagelkerke決定係数		0.027	
尤度比のカイ二乗検定		p=0.031	

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 + p<0.1

以上の分析結果より、本パネルデータの脱落サンプルの傾向は、小6時に通塾していた子どもだということになる⁴⁾。つまり、本データの脱落サンプルには統計的に有意な脱落の傾向があるため、MCARを仮定することは難しいということである。よって、小6を母集団と見なした場合には、以降から得られる知見はこうした追跡のバイアスがあることを承知されたい。

(中西 啓喜)

5. 調査結果の概要

本節では、小学校6年時と中学校1年時の2時点間で継続して調査している調査項目の変動を検討することを通じて、小学校6年生から中学校1年生への基本的な変化を確認しておきたい。前節で述べられていたように、パネル調査は同じ質問項目を繰り返し尋ねることで、時間の変化に伴うある個人の行動や意識の変化を検討できる点にメリットがある。しかしながら、調査初年時にあたる今回の報告書では、小学校6年時と中学校1年時で継続した質問項目を検討することに若干の困難が存在していることを指摘しておきたい。

小学校6年時の調査は、文部科学省による2014年度「全国学力・学習状況調査」を分析することができる。他方で、中学校1年時の調査は、第1節で述べたようにベネッセコーポレーションに調査の実施を委託している。したがって、両者は厳密には同じ調査ではないため、小学校6年時と中学校1年時で質問項目が若干異なっている場合がありうる。たとえば、小学校6年時では「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」と訊いていた質問項目が、中学校1年時では「夜は決まった時間に寝ている」の項目に関して、「1.とてもあてはまる～4.まったくあてはまらない」で回答してもらっている場合が存在しているのである。もちろん、どちらも同一のことを尋ねているには違いないが、2つの質問項目を単純に同一のものとして比較することは若干の困難が伴うだろう。

そこで、本節では次善の策として、行動に関しては「行っている」「行っていない」の2値で、意識に関しては「あてはまる」「あてはまらない」の2値で変動を検討することに

した。なぜなら、4 件法のままでクロス集計を行うと、極端に度数が少ないセルが生じるため、2 値でクロス集計することによって、解釈する上での妥当性が高まると判断したからである。なお、変数名を紹介する際には、小学校 6 年時の質問項目を基準とし、質問項目が異なる場合には（ ）内に中学校 1 年時の質問項目を掲載している。

5.1 生活習慣に関する質問項目

まず、小学校 6 年時と中学校 1 年時の生活習慣の変動について確認してみたい。小学校 6 年時と中学校 1 年時で継続して調査している生活習慣に関する項目は、「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の 4 つの質問項目が検討可能である。結果を示すと、以下の図表序-6～図表序-9 のようになる。

図表序-6 朝食を毎日食べていますか（朝食を毎日食べている）

		中学校1年時		合計	有効度数
		行っている	行っていない		
小学校6年時	行っている	89.1%	6.1%	95.3%	(543)
	行っていない	1.6%	3.2%	4.7%	(27)
合計		90.7%	9.3%	100.0%	(570)
マクネマー検定		p=0.000			

図表序-6 は「朝食を毎日食べていますか」について検討したものである。確認すると、89.1%の生徒が小学校 6 年時から継続して朝食を毎日食べており、全体の大部分を占めることが明らかになった。しかしながら、小学校 6 年時には朝食を毎日食べていたのに、中学校 1 年時になると朝食を毎日食べなくなった生徒も 6.1%存在しており、今後継続して調査を行う中で、徐々に朝食を毎日食べない生徒が増えてくるかもしれない。

図表序-7 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか（夜決まった時間にねている）

		中学校1年時		合計	有効度数
		行っている	行っていない		
小学校6年時	行っている	34.5%	40.5%	75.0%	(428)
	行っていない	6.7%	18.4%	25.0%	(143)
合計		41.2%	58.8%	100.0%	(571)
マクネマー検定		p=0.000			

図表序-7 は、「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」について検討したものである。確認すると、小学校 6 年時から継続して毎日同じくらいの時刻に寝ているのは 34.5%であり、40.5%もの生徒が中学校 1 年生になると決まった時間に就寝しなくなっている。他方

で、18.4%の生徒が、小学校 6 年時から継続して決まった時間に就寝していない。

図表序-8 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか

		中学校1年時		合計	有効度数
		行っている	行っていない		
小学校6年時	行っている	65.6%	12.1%	77.7%	(438)
	行っていない	14.4%	8.0%	22.3%	(126)
合計		80.0%	20.0%	100.0%	(564)
マクネマー検定 $p=0.326$					

図表序-8 は、「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」について検討したものである。確認すると、小学校 6 年時から継続して家の人と学校での出来事について話しているのは、全体の 65.6%であり大部分を占めていることが分かる。しかしながら、12.1%が中学校に入学すると家の人と学校での出来事について話をしなくなり、14.4%が逆に、入学すると家の人と学校での出来事について話をするようになっていく。全体としては、X 市で 8 割もの生徒が家の人と学校での出来事を会話している。

図表序-9 今住んでいる地域の行事に参加していますか

		中学校1年時		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
小学校6年時	あてはまる	31.2%	17.8%	49.0%	(272)
	あてはまらない	16.6%	34.4%	51.0%	(283)
合計		47.7%	52.3%	100.0%	(555)
マクネマー検定 $p=0.664$					

図表序-9 は、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について検討したものである。確認すると、小学校 6 年時から継続して地域の行事に参加している生徒は 31.2%であり、継続して参加していない生徒は、34.4%である。他方で、小学校 6 年時には参加していたのに、中学校に入学すると地域の行事に参加しなくなってしまう生徒が、17.8%存在している。しかしながら、16.6%の生徒が中学校に入学すると、新たに地域の行事に参加していることが確認できる。

5.2 学校に関する質問項目

次に、小学校 6 年時と中学校 1 年時の学校に関する質問項目の変動について確認してみたい。小学校 6 年時と中学校 1 年時で継続して調査している学校に関する質問項目は、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の 3

つ項目が検討可能である。結果を以下に示すと、図表序-10～図表序-12 のようになる。

図表序-10 学校に行くのは楽しいと思いますか（学校に行くのが楽しい）

		中学校1年時		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
小学校6年時	あてはまる	69.9%	12.1%	82.0%	(468)
	あてはまらない	9.6%	8.4%	18.0%	(103)
合計		79.5%	20.5%	100.0%	(571)
マクネマー検定		p=0.243			

図表序-10 は、「学校に行くのは楽しいと思いますか」について検討したものである。確認すると、小学校6年時から継続して、学校が楽しいと感じているのは69.9%であり、ほとんどの生徒が、学校が楽しいと感じている。しかしながら、12.1%が中学校に入学すると、学校が楽しいと感じなくなっており、小中間の移行に何らかの障壁があるのかもしれない。ただし、9.6%の生徒が中学校に入学すると学校が楽しいと感じるようになっている。

図表序-11 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか

（私は、学校や授業で発言している人の話を最後までしっかり聞いている）

		中学校1年時		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
小学校6年時	あてはまる	72.6%	18.6%	91.2%	(515)
	あてはまらない	5.3%	3.5%	8.8%	(50)
合計		77.9%	22.1%	100.0%	(565)
マクネマー検定		p=0.000			

図表序-11 は、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」について検討したものである。確認すると、小学校6年時から継続して、友達の話や意見を最後まで聞くことができているのは、72.6%であり、全体の大部分を占めている。しかしながら、18.6%が中学校に入学すると、最後まで聞くことができなくなっていることが確認できる。もちろん、質問項目の違いの影響もあるかもしれないが、話を最後までしっかり聞いている生徒が減少しているのがおおまかに確認できるであろう。

図表序-12 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

	中学校1年時		合計	有効度数
	あてはまる	あてはまらない		
小学校6年時	あてはまる	90.6%	96.0%	(534)
	あてはまらない	3.1%	4.0%	(22)
合計		93.7%	100.0%	(556)
マクネマー検定 $p=0.079$				

図表序-12 は、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」について検討したものである。確認すると、90.6%もの生徒が、小学校 6 年時から継続して「いじめはどんな理由があってもいけないことである」と感じている。しかしながら、5.4%の生徒が、中学校に入学すると、「あてはまらない」と考えるようになっている。しかるに、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」を肯定する生徒は、96.0%から 93.7%へと減少している。ただし、小学校 6 年時には否定していたものの、中学校に入学してからいけないことだと感じるようになる生徒が 3.1%存在している。

5.3 その他の意識に関する質問項目

最後に、小学校 6 年時と中学校 1 年時における「意識」や「意欲」の変動について確認してみたい。小学校 6 年時と中学校 1 年時で継続して調査している「意識」や「意欲」に関する項目は、「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標をもっていますか」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の 4 つの質問項目が検討可能である。それぞれの結果を示すと、図表序-13～図表序-16 のようになる。

図表序-13 自分にはよいところがあると思いますか

	中学校1年時		合計	有効度数
	そう思う	そう思わない		
小学校6年時	そう思う	59.9%	100.0%	(428)
	そう思わない	10.8%	100.0%	(136)
合計		70.7%	100.0%	(564)
マクネマー検定 $p=0.022$				

図表序-13 は、「自分にはよいところがあると思いますか」について検討したものである。確認すると、59.9%の生徒が継続して自分にはよいところがあると感じている。しかしながら、16.0%の生徒が中学校に入学すると自分にはよいところがあると思わなくなっており、13.3%の生徒が小学校 6 年時から継続して自分にはよいところがあるとは思っていない。他方で、10.8%の生徒が中学校に入学すると肯定するようになっている。

図表序-14 将来の夢や目標を持っていますか

	中学校1年時		合計	有効度数
	あてはまる	あてはまらない		
小学校6年時	あてはまる	70.2%	14.3%	84.5% (479)
	あてはまらない	8.3%	7.2%	15.5% (88)
合計		78.5%	21.5%	100.0% (567)
マクネマー検定 $p=0.003$				

図表序-14 は、「将来の夢や目標を持っていますか」について検討したものである。確認すると、70.2%の生徒が継続して将来の夢や目標を持っていると回答している。しかしながら、14.3%の生徒が中学校に入学すると、将来の夢や目標を失っており、7.2%が小学校6年生から継続して、将来の夢や目標をもっていないことが確認できる。

図表序-15 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか

	中学校1年時		合計	有効度数
	あてはまる	あてはまらない		
小学校6年時	あてはまる	72.6%	18.6%	91.2% (565)
	あてはまらない	5.3%	3.5%	8.8% (50)
合計		77.9%	22.1%	100.0% (565)
マクネマー検定 $p=0.000$				

図表序-15 は、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」について検討したものである。確認すると、72.6%の生徒が継続して、ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあると感じている。しかしながら、18.6%の生徒が、中学校に入学するとそれを否定するようになり、3.5%の生徒が小学校6年時から継続して、そのような経験をしていないことが確認できる。

図表序-16 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか

(難しいことでも、失敗をおそれないで、取り組んでいる)

	中学校1年時		合計	有効度数
	あてはまる	あてはまらない		
小学校6年時	あてはまる	54.0%	20.2%	74.2% (422)
	あてはまらない	12.0%	13.9%	25.8% (147)
合計		65.9%	34.1%	100.0% (569)
マクネマー検定 $p=0.000$				

図表序-16 は、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」について検討したものである。確認すると、54.0%の生徒が小学校6年時から継続して、難しいことにも失

敗を恐れないで挑戦している。しかしながら、13.9%の生徒が小学校 6 年時から継続して、難しいことに挑戦しておらず、20.2%の生徒が中学校に入学すると挑戦することをやめてしまっている。中学校に入学すると失敗を恐れて挑戦しにくくなるのだろう。

5.4 調査結果の概要のまとめ

本節では、小学校 6 年時と中学校 1 年時の継続質問項目を用いて、その変動を検討してきた。そこから明らかになったことは、1 年の間に児童・生徒の意識や行動は大きく変化するということである。たとえば、「自分にはよいところがあると思う」を肯定する児童・生徒が減少していることや、「将来の夢や目標を持っている」を小学校 6 年時には肯定しているにもかかわらず、中学校 1 年時には否定している生徒が確認できた。もちろん、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」のように、あまり変化しない質問項目もあった。しかしながら、多くの児童・生徒の意識や行動に関する質問項目で、小学校 6 年時と中学校 1 年時の 1 年の間に変化が見られたのである。ここから小学校 6 年生から中学校 1 年生への変化は、予想以上に大きいことが読み取れるだろう。

(豊永 耕平)

[注]

- 1) 日本で学齢児童を対象とした学力パネル調査は、「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 Japan Education Longitudinal Study (JELS)」(研究代表：お茶の水女子大学・耳塚寛明)、平成 21 年度および 23 年度の文部科学省委託研究「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」(研究代表：広島大学・山崎博敏)(山崎 2013)がある。
- 2) 以上は坂本(2015)による整理を参照している。なお、ここではかなり簡略化して記述したが、MAR を仮定した場合の対応はより細分化された手法がいくつもある。具体的には、岩崎(2002)などに詳しい。
- 3) 独立変数に用いた変数の加工は以下の通りである。通塾ダミーは、「学習塾に通っていない」を 0 とし、それ以外の回答(「学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している」、「学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している」、「上記の両方(予習用学習・復習用学習)の内容を勉強している」、「上記の両方(予習用学習・復習用学習)のどちらともいえない」)を 1 としている。小 6 国語スコア、小 6 算数スコアは第 3 節で述べられている通りである。記述統計量は図表序-17 に示した。

図表序-17 使用変数の記述統計量

	有効度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
全体					
通塾ダミー	648	0.0	1.0	0.5	0.50
小6国語スコア	647	23.6	69.0	50.2	10.05
小6算数スコア	644	24.1	65.6	50.1	10.13
追跡サンプル					
通塾ダミー	572	0.0	1.0	0.5	0.50
小6国語スコア	573	23.6	69.0	50.0	10.00
小6算数スコア	571	25.7	65.6	50.0	10.00
脱落サンプル					
通塾ダミー	76	0.0	1.0	0.6	0.49
小6国語スコア	74	29.5	67.1	51.7	10.35
小6算数スコア	73	24.1	65.6	50.8	11.15

- 4) データの分析には組み込むことが不可能であるが、教育委員会への聞き取りによれば、脱落サンプルの79人のうち、私立中学校へ進学したのは約50人程度であるという。

[参考文献]

- 藤田英典, 2006, 『教育改革のゆくえ——格差社会か共生社会か』岩波ブックレット.
- 岩崎学, 2002, 『不完全データの統計解析』エコノミスト社.
- Kariya, T. and Rosenbaum, J., 1999, “Bright Fright: Unintended Consequences of Detracking Policy in Japan”, *American Journal of Education* 107:210-30.
- 北村行伸, 2005, 『パネルデータ分析』岩波書店.
- 村上あかね, 2011, 「離婚による女性の社会経済的状況の変化」『社会学評論』62(3):319-335.
- 中西啓喜・耳塚寛明, 2013, 「学齢児童を対象とした縦断的研究の意義と課題—青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 (Japan Education Longitudinal Study: JELS) から」『中央調査報』666 (<http://www.crs.or.jp/backno/No666/6661.htm>, 2015年12月22日取得).
- 中澤渉, 2012, 「なぜパネル・データを分析するのが必要なのか——パネル・データ分析の特性の紹介」『理論と方法』27(1):23-40.
- 中澤渉, 2014, 「教育データを解釈する—教育社会学における計量分析」『生産と技術』66(1):75-77.
- 坂本和靖, 2015, 「サンプル脱落がもたらす推計バイアスに関する考察」『2015 Japanese Stata User Group Meeting』配布資料 (2015年8月28日).
- 山崎博敏, 2013, 「小学校4年から中学校2年までの児童生徒の学力の変化——3時点の学力調査データを連結したパネル分析の試み」『中央調査報』674 (<http://www.crs.or.jp/backno/No674/6741.htm>, 2015年12月22日取得).

第1章 学力不振は挽回できるか

——小学6年生から中学1年生にかけての基礎的分析——

中西啓喜（早稲田大学）

本章では、「一度獲得した学力は、次の時点の学力にどの程度反映されるのか」について分析し、こうした素朴な疑問に答えるとともに、本パネルデータの基礎的な資料を提示したい。本章の分析による知見は、①国語でも算数・数学でも、一度獲得した学力は次の段階の学力に影響する、②その影響は、各教科内の知識領域によってやや異なる、③そして、一度獲得した学力の影響は、国語よりも算数・数学の方が大きい傾向がある、ということであった。

1. はじめに

一度獲得した学力は、次の時点の学力にどの程度反映されるのか。本章では、こうしたシンプルな疑問について分析し、本パネル調査の基礎的な資料とすることを目的としている。

上記のような問いに答えていくには、当然、2 時点以上の学力データが必要となる。しかし、耳塚（2007）も指摘したように、学力データは日本の教育研究者にとってはアクセスが難しいものであった。加えて、手間やコストが膨大となるパネル調査での学力データとなると日本では極めて稀であった。序章で詳述されている通り、本調査は現段階で、小学6年生と中学1年生の学力データが揃っている。そこで本章では、小6の学力スコアが中1へ学力スコアに対して、どの程度影響があるのかを分析していく。

学力のパネルデータは日本では極めて少ないものの、管見の限りでは2つの調査研究を紹介できよう。1 つ目は、「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究（Japan Education Longitudinal Study: JELS）」（研究代表：お茶の水女子大学・耳塚寛明）、2 つ目は、平成21年度および23年度の文部科学省委託研究「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」（研究代表：広島大学・山崎博敏）である。これら2つの調査研究では、本章の分析課題である「一度獲得した学力は、次の時点の学力にどの程度反映されるのか」について共通の知見が提示されている。すなわち、一度獲得した学力は次の時点の学力に反映される、という知見である。

まずは、山崎ら（2013）の分析結果を具体的に紹介しよう。当該研究チームでは、小4から中2までの3時点での学力水準を上位から下位へ25%単位で4つに区分し、対象者の学力水準の変化を分析した。その結果、小4時に最下位グループにあった児童の66%は小6時にも最下位グループに留まっており、最上位層へと移動できたのは1%でしかなかった。この結果は、小6から中2にかけても同様の傾向であったため、山崎ら（2013）は、「学力の固定化の傾向が見られることを示している」と結論づけており、学力不振の挽回は難

しいといえる。

また、「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究」の学力パネルデータを分析した中西（2015）も同様の知見を指摘していることに加え、一度獲得した学力が下位だった児童が上位に上がる割合が、出身社会階層によって異なることも指摘している。すなわち、一度学力不振となったがその後に挽回しやすいのは、恵まれた家庭背景の児童生徒であるということである。

本章の分析課題は、こうした他の学力パネルデータ分析の知見を再検証するとともに、本パネルデータの第一次報告として位置づけることになる。

2. 変数と手続き

2.1 学力スコアについて

本レポートで「学力」と定義する各スコアは、全て偏差値化（標準化後に 10 倍して 50 を加算）した変数を用いる。学力スコアについては、序章でも詳述されているが、本章では以下のような手続きを行った変数を用いる。

2.1.1 小学 6 年時学力スコア

序章でも述べられているように、小 6 時の学力スコアは平成 26 年度に文部科学省が主体となり実施された「全国学力・学習状況調査」のデータである。よく知られているように、文部科学省の学力調査は、国語と算数・数学が実施されており、それぞれが「A 問題」と「B 問題」に分かれている。

A 問題の出題内容は「知識」であり、「身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など」の測定が目指されている。

B 問題の出題内容は「活用」であり、「知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など」の測定が目指されている。

以下の分析で「A 問題」、「B 問題」と表記する際には、こうした出題形式の違いがあることを承知されたい¹⁾。

2.1.2 中学 1 年時学力スコア

これも序章で述べられているが、中 1 時の学力スコアは、ベネッセコーポレーションが実施した「学習到達度調査」である。この学力調査は、文科省のものとは異なり、A 問題・B 問題というように分かれてはいない。そのため、「中 1 国語スコア」と「中 1 数学スコア」として用いる。

本章の分析では、全体スコアの分析に加えて、知識領域別の分析を行う。国語について

は、「音声言語」、「説明的文章」、「文学的文章」、「言語事項」に分かれており、数学については、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」に分かれている。当該学力調査の調査票は非公開とされているが、出題形式は以下のように整理できる。

国語

- ・ 音声言語：日本語の音声問題を聞き取り、設問に解答する。
- ・ 説明的文章：事物について論じた文章を読んで、設問に解答する。
- ・ 文学的文章：物語を読んで、設問に解答する。
- ・ 言語事項：あるテーマについて議論している場面が提示され、そこに適切な文言を考え解答する。接続詞や慣用句の適切な使用に関する出題。

数学

- ・ 数と計算：いわゆる「計算問題」で、分数の計算が主たる出題。
- ・ 量と測定：距離・時間・速度の関連、重さや広さなどの単位の変換に関する出題。
- ・ 図形：図形の対称・非対称、拡大・縮小などへの理解についての出題。
- ・ 数量関係：関数などの理解についての出題。

2.2 統制変数

家庭の文化的要因を統制するために用いる変数は次の通りである。「朝食を毎日食べている」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」については、「している＝4」、「どちらかといえば、している＝3」、「あまりしていない＝2」、「全くしていない＝1」として得点化した。

性別については、男子＝1、女子＝0とした「男子ダミー」を用いる²⁾。

2.3 記述統計量

分析に用いる記述統計量は図表 1-1 に示した通りである。

学力スコアは基本的に「偏差値化」しているが、領域別の正答率は全体としての得手・不得手を確認するために元の正答率を示している。確認すると、国語では「音声言語」の正答率が 90.1%とかなり高い一方で、「説明的文章」の正答率が 47.8%に留まる。また、数学では、「数と計算」が 66.7%の正答率であるが、「図形」の正答率は 46.2%である。このように「学力スコア」とは一言でいっても、領域によって正答率にかなりバラつきがあることがわかる。

図表 1-1 使用変数の記述統計量

	N	Mean	S.D.	Min.	Max.
男子ダミー	576	0.5	0.50	0.0	1.0
朝食を毎日食べている	572	3.8	0.52	1.0	4.0
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	572	3.0	0.84	1.0	4.0
毎日、同じくらいの時刻に起きている	572	3.5	0.71	1.0	4.0
小6時の学力変数					
小6国語Aスコア	575	50.0	10.00	21.7	64.8
小6国語Bスコア	573	50.0	10.00	28.3	70.5
小6算数Aスコア	574	50.0	10.00	19.2	62.1
小6算数Bスコア	571	50.0	10.00	29.3	66.8
中1時の学力変数					
領域別正答率					
国語：音声言語正答率	575	90.1	14.60	0.0	100.0
国語：説明的文章正答率	575	47.8	26.09	0.0	100.0
国語：文学的文章正答率	575	56.2	26.41	0.0	100.0
国語：言語事項正答率	575	64.1	15.95	0.0	100.0
数学：数と計算正答率	576	66.7	27.96	0.0	100.0
数学：量と測定正答率	576	51.4	26.67	0.0	100.0
数学：図形正答率	576	46.2	22.73	0.0	100.0
数学：数量関係正答率	576	58.6	23.53	0.0	100.0
標準化スコア					
国語：音声言語正答率	575	50.0	10.00	-11.7	56.8
国語：説明的文章正答率	575	50.0	10.00	31.7	70.0
国語：文学的文章正答率	575	50.0	10.00	28.7	66.6
国語：言語事項正答率	575	50.0	10.00	9.8	72.5
数学：数と計算正答率	576	50.0	10.00	26.2	61.9
数学：量と測定正答率	576	50.0	10.00	30.7	68.2
数学：図形正答率	576	50.0	10.00	29.7	73.7
数学：数量関係正答率	576	50.0	10.00	25.1	67.6
全体スコア					
中1国語スコア	575	50.0	10.00	13.1	71.9
中1数学スコア	576	50.0	10.00	22.8	71.1

3. 分析 1：全体スコア（中学 1 年）の分析

3.1 箱ひげ図による分析

ここでは、小 6 時点での国語の学力スコアが中 1 時点での国語の学力スコアにどの程度影響を与えるのかを分析していく。まずは箱ひげ図を用いて、小 6 時の国語スコアの影響を A 問題と B 問題に分けて分析しよう。

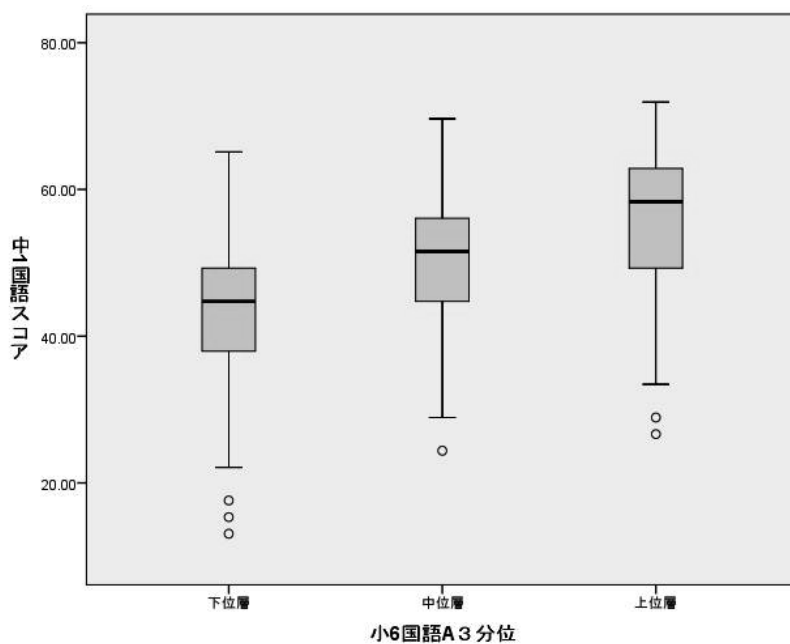
箱ひげ図は、異なる複数のデータのバラつきを比較することができる。具体的には、箱ひげ図は四分位を用いてデータの散らばりを表す。四分位とはデータを昇順に並べて、4 等分したものであり、小さい値から数えて、総数の 1/4 番目に当たる値が第 1 四分位、真ん中に当たる値が第 2 四分位（つまり、中央値）、3/4 番目に当たる値が第 3 四分位となる。箱ひげ図は、最大値と最小値も同時に確認することができる。なお、箱ひげ図の上下に散見される「○」は外れ値である³⁾。

それでは、まず国語の結果について見てみよう。図表 1-2 および図表 1-3 は、小 6 国語

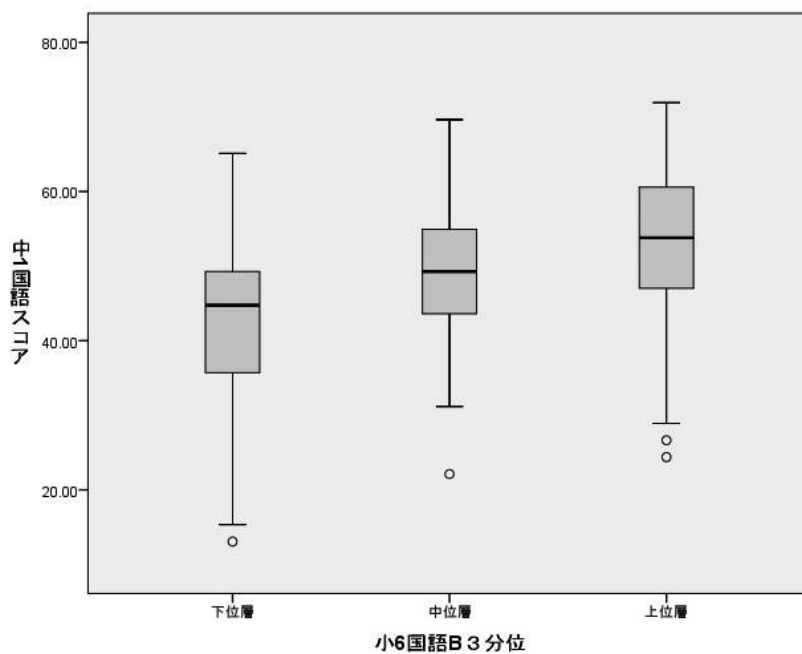
スコア 3 分位と中 1 国語スコアの関連を箱ひげ図で示したものである⁴⁾。図表 1-2 は小 6 国語 A、図表 1-3 は小 6 国語 B の結果である。結果はわかりやすく、なおかつ我々の経験的な感覚と整合的であろう。つまり、A 問題でも B 問題でも、小 6 時に国語の学力スコアが高かいほど、中 1 での学力スコアが高いというものである。

次に算数・数学の結果について確認する。図表 1-4、図表 1-5 の横軸にはそれぞれ、小 6 算数 A、小 6 算数 B を設定している。結果は、概ね国語と同様である。つまり、小 6 時に算数のスコアが高かった児童ほど、中 1 でも数学のスコアが高いということである。算数・数学についてやや特徴的な点を挙げるならば、図表 1-5 において、算数 B スコアの下位層の中 1 数学スコアのバラつきが大きいという点であろう。

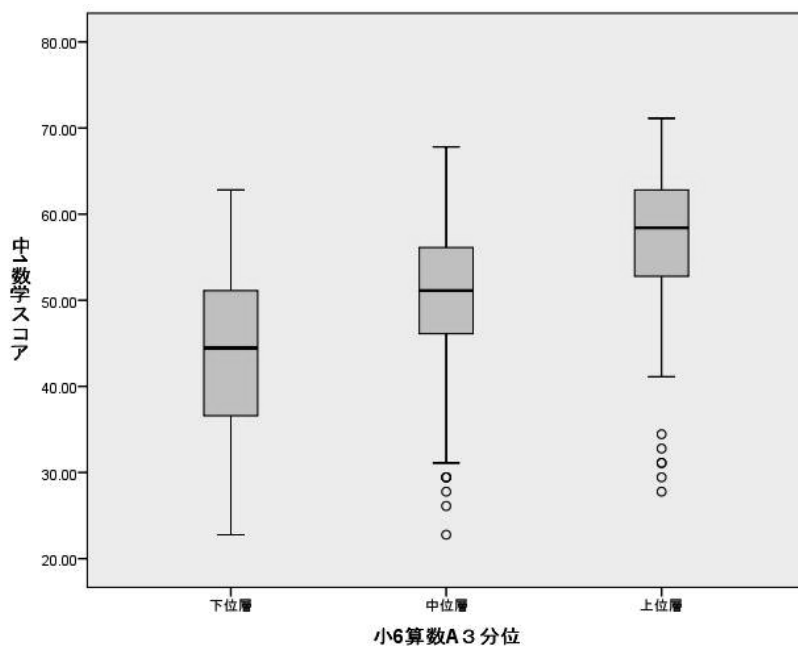
図表 1-2 小 6 国語 A スコア 3 分位と中 1 国語スコアの関連



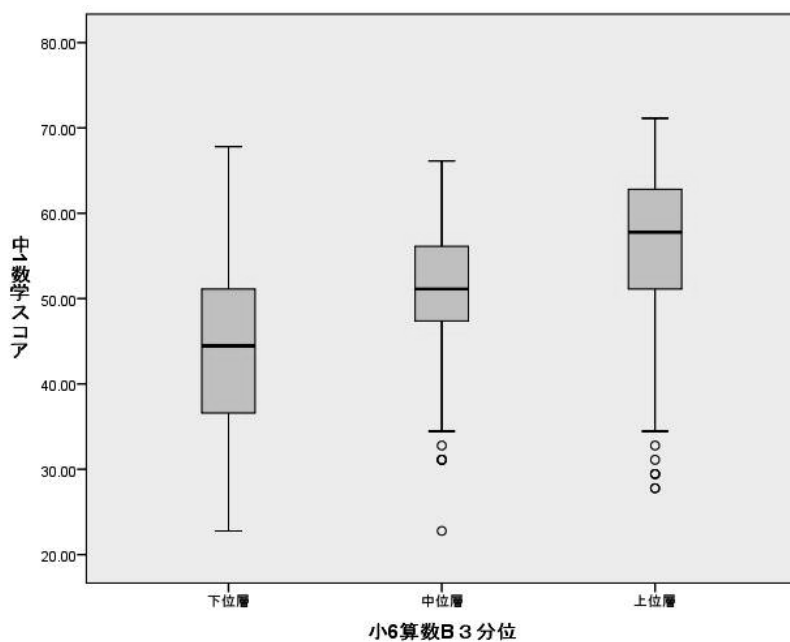
図表 1-3 小 6 国語 B スコア 3 分位と中 1 国語スコアの関連



図表 1-4 小6算数Aスコア3分位と中1数学スコアの関連



図表 1-5 小6算数Bスコア3分位と中1数学スコアの関連



3.2 重回帰分析

ここでは、中1時点での学力スコアに対する小6時学力スコアの影響を明らかにするために重回帰分析を行う。重回帰分析により算出される「標準化回帰係数」を比較することによって、A問題とB問題の影響力を比較することができる。加えて、「自由度調整済み決定係数」によって中1時学力スコアの分散がどれくらい説明されるのかを確認できる。なお、統制変数として、性別、家庭での生活習慣に関する変数を同時に投入する。

まずは、中1の国語スコアから確認しよう（図表1-6）。標準化回帰係数を見ると、小6国語Aスコアが0.236、小6国語Bスコアが0.300となっており、B問題スコアの方が値がやや大きい。また、自由度調整済み決定係数は0.257であり、これは投入した独立変数によって中1時国語スコアの説明される分散が約25.7%であることを意味している。

次に、中1の数学スコアの結果を確認する（図表1-7）。標準化回帰係数を見ると、小6算数Aスコアが0.282、小6算数Bスコアが0.303となっており、国語同様に、B問題スコアの方が値がやや大きい。また、自由度調整済み決定係数は0.324であり、中1時数学スコアが投入した独立変数によっての説明される分散が約32.4%であることがわかる。

以上の結果を踏まえると、①小6時の学力スコアは中1時の学力スコアに影響すること、②A問題スコアに比して、B問題スコアの方が次の時点の学力スコアへの影響力がやや大きい、③前段階の学力スコアが次時点の学力スコアの分散を説明する割合は、国語よりも算数・数学の方がやや大きい、という3点が把握できた。

図表 1-6 中1国語スコアの重回帰分析

	回帰係数	標準化回帰係数	有意確率
男子ダミー	-1.632	-0.082	
朝食を毎日食べている	0.992	0.052	
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	0.187	0.016	
毎日、同じくらいの時刻に起きている	-1.287	-0.093	+
小6国語Aスコア	0.235	0.236	***
小6国語Bスコア	0.298	0.300	**
(定数)	24.359		***
有効度数		569	
決定係数		0.316	
自由度調整済み決定係数		0.257	
回帰のF検定		p=0.000	

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 + p<0.1

図表 1-7 中 1 数学スコアの重回帰分析

	回帰係数	標準化回帰係数	有意確率
男子ダミー	-0.546	-0.027	
朝食を毎日食っている	2.053	0.108	
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	-0.005	0.000	
毎日、同じくらいの時刻に起きている	-0.227	-0.016	+
小6算数Aスコア	0.281	0.282	***
小6算数Bスコア	0.301	0.303	**
(定数)	14.202		***
有効度数		570	
決定係数		0.332	
自由度調整済み決定係数		0.324	
回帰のF検定		p=0.000	

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 + p<0.1

4. 分析 2：領域別分析

4.1 相関係数および箱ひげ図による分析

ここでは中 1 の学力スコアを国語と数学それぞれについて、領域別に分析する。図表 1-1 で確認した通り、一言で「学力」とはとっても領域別に正答率が大きく異なっている。それゆえに、どのような領域の学力スコアが、前時点の学力スコアに影響されやすいのかを明らかにしたい。

まずは、それぞれの中 1 時の領域スコアと小 6 時スコアで相関係数を示したものが図表 1-8 (国語) と図表 1-9 (算数・数学) である。国語の相関係数を見ると、中 1 時の領域別スコア相関係数だと、B 問題に比べて A 問題の方が相関係数大きいことがわかる。また、数学の領域別スコアについては、A 問題と B 問題に相関係数の差はあまりないことがわかる。

次に、箱ひげ図によって国語スコアの関連を示したのが図表 1-10 である。「音声言語」については、全員が高得点をマークしているので、小 6 時スコアの高低とはほぼ無関係といえる。「説明的文章」については、A 問題も B 問題も、上位層のみが中 1 で高くなっている。「文学的文章」は、A 問題も B 問題も、下位層だけが中 1 スコアが低い。「言語事項」は、階層的に小 6 時スコアが高い児童ほど中 1 時スコアが高いという関連になっている。

また、算数・数学スコアの関連を箱ひげ図によって示したのが図表 1-11 である。「数と計算」では、小 6 時スコアが高い児童ほど中 1 時スコアが高いという階層的な関連になっているが、上位層はほぼ高得点で天井効果、下位層はできる人とそうでない人でのバラつきがかなり大きいことがわかる。「量と測定」でも、小 6 時スコアが高い児童ほど中 1 時スコアが高いという階層的関連になっている。「図形」も同様に、小 6 時スコアが高い児童ほど中 1 時スコアが高いという階層的関連が見られる。「数量関係」も同様に階層的関連といえる。

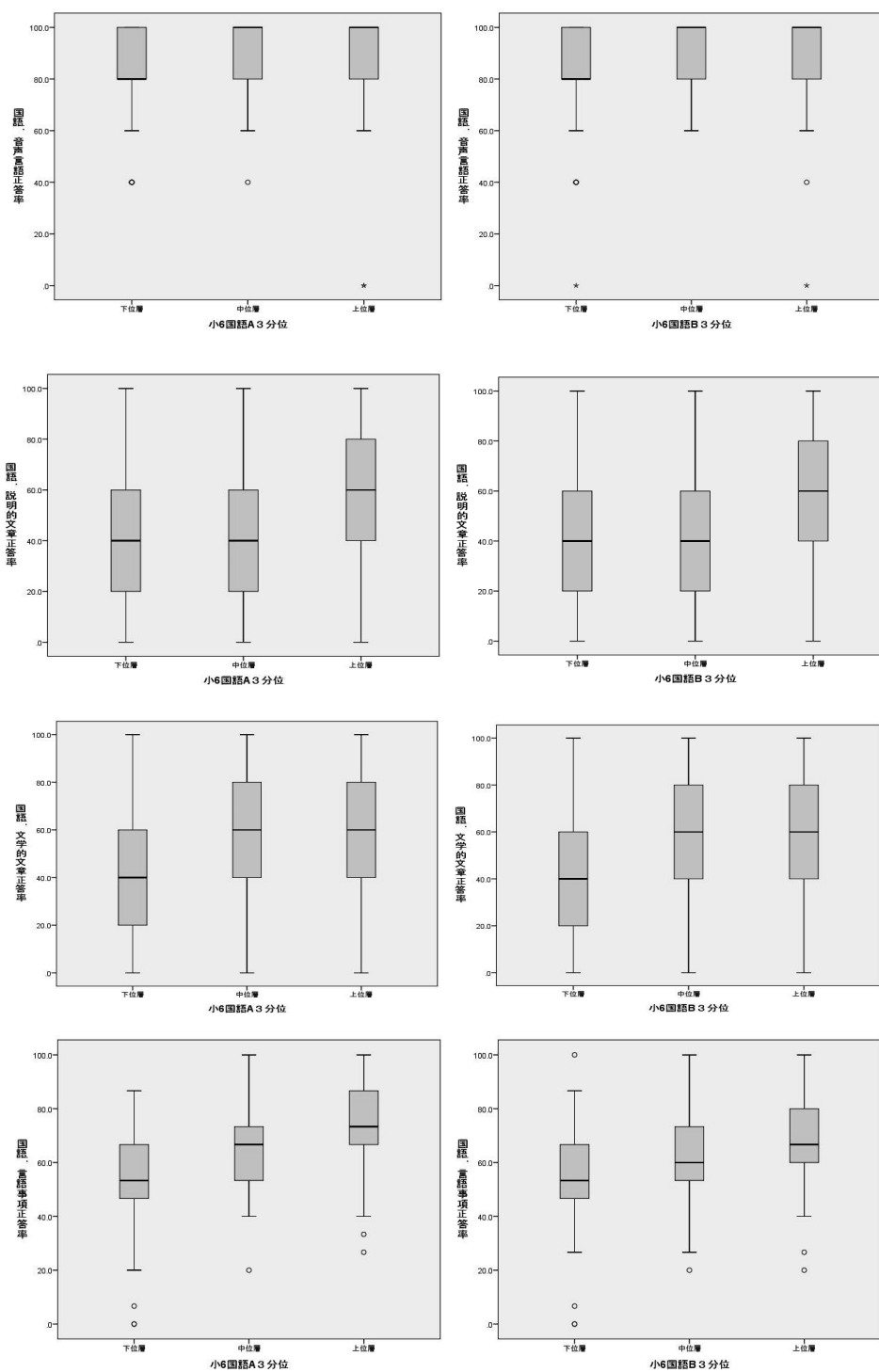
図表 1-8 小6と中1の国語スコアの相関係数

		小6国語			
		Aスコア		Bスコア	
	音声言語正答率	0.291	***	0.281	***
中1国語:	説明的文章正答率	0.400	***	0.350	***
領域別スコア	文学的文章正答率	0.368	***	0.295	***
	言語事項正答率	0.480	***	0.373	***
中1国語：全体スコア		0.536	***	0.440	***
*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 + p<0.1					

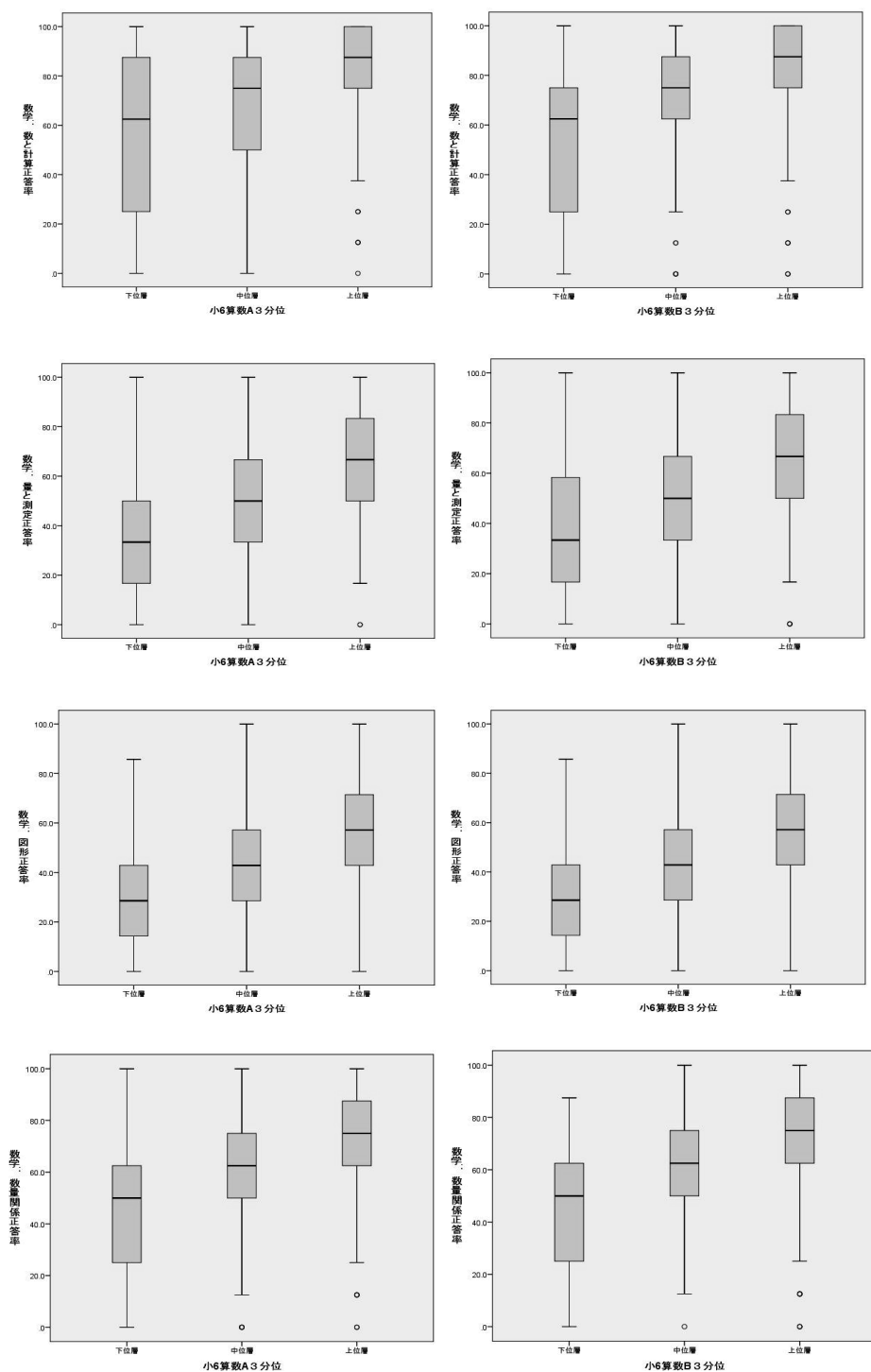
図表 1-9 小6と中1の算数・数学スコアの相関係数

		小6算数			
		Aスコア		Bスコア	
	数と計算正答率	0.419	***	0.414	***
中1国語:	量と測定正答率	0.408	***	0.401	***
領域別スコア	図形正答率	0.460	***	0.471	***
	数量関係正答率	0.441	***	0.461	***
中1数学：全体スコア		0.527	***	0.533	***
*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 + p<0.1					

図表 1-10 小6国語スコア3分位と中1国語領域別スコアの関連



図表 1-11 小 6 算数スコア 3 分位と中 1 数学領域別スコアの関連



4.2 重回帰分析

それでは最後に、こうした中 1 時の領域別スコアに対する小 6 時スコアの影響を重回帰分析によって検討しよう。重回帰分析を用いることで、先に述べた通り、標準化回帰係数を比較することで、A 問題と B 問題のどちらの影響が強いのかを確認できる⁵⁾。

まずは図表 1-12 から国語の標準化回帰係数を確認する。「音声言語」では、A 問題と B 問題の影響の差はあまり違いない。これは先の箱ひげ図で見られたように、天井効果による影響であろう。「説明的文章」については、A 問題の方が B 問題よりも強い影響がある。「文学的文章」も同様に、A 問題の方が B 問題に比して強い影響である。「言語事項」も A 問題の方が B 問題よりも強い影響となっている。

加えて自由度調整済み決定係数を見ると、「言語事項」は、他の領域に比べると値がやや大きい。このことは、「言語事項」については、他の国語領域に比べると、小 6 時の説明力が大きいことを示している。

次に図表 1-13 から数学の標準化回帰係数を確認する。「数と計算」については、A 問題と B 問題の影響力にはあまり違いがない。「量と測定」も同様に、A 問題と B 問題の影響力はあまり差がない。「図形」については、やや B 問題の方が大きい影響力である。「数量関係」は、A 問題に比してやや B 問題の方が大きい影響力があることに加えて、他の領域に比べると小 6 時の説明力が大きい。

最後に、国語と数学の自由度調整済み決定係数を比較すると、全体的に数学の方が決定係数が高い。このことは、国語よりも算数・数学の方が過去の学力を積み重ねていく必要があるということを示唆しているのかもしれない。

図表 1-12 中 1 国語領域別の重回帰分析

	音声言語正答率				説明的文章正答率				文学的文章正答率				言語事項正答率			
	回帰係数	標準化 回帰係数	有意確率		回帰係数	標準化 回帰係数	有意確率		回帰係数	標準化 回帰係数	有意確率		回帰係数	標準化 回帰係数	有意確率	
男子ダミール	-1.205	-0.061			0.290	0.014			-0.284	-0.014			0.293	0.015		
朝食を毎日食べている	0.197	0.010			-0.711	-0.037			2.445	0.128	**		0.925	0.048		
毎日、同じくらの時刻に寝ている	0.076	0.006			-0.140	-0.012			-0.120	-0.010			-0.323	-0.027		
毎日、同じくらの時刻に起きている	-0.862	-0.062			0.027	0.002			-0.624	-0.045			-1.036	-0.074	†	
小6国語Aスコア	0.188	0.188	***		0.305	0.303	***		0.288	0.286	***		0.404	0.402	***	
小6国語Bスコア	0.164	0.165	**		0.176	0.175	***		0.111	0.111	*		0.139	0.138	**	
(定数)	35.065		***		28.863				23.382				23.781		***	
有効度数		569				569				569				569		
決定係数		0.109				0.180				0.162				0.249		
自由度調整済み決定係数		0.100				0.171				0.153				0.241		
回帰のF検定		p=0.000				p=0.000				p=0.000				p=0.000		
*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 + p<0.1																

図表 1-13 中 1 数学領域別の重回帰分析

	数と計算正答率				量と測定正答率				図形正答率				数量関係正答率			
	回帰係数	標準化 回帰係数	有意確率		回帰係数	標準化 回帰係数	有意確率		回帰係数	標準化 回帰係数	有意確率		回帰係数	標準化 回帰係数	有意確率	
男子ダミール	-0.719	-0.036			0.595	0.030			-0.603	-0.030			-0.873	-0.044		
朝食を毎日食べている	1.269	0.067	+		1.809	0.095	*		1.500	0.079	*		2.257	0.118	**	
毎日、同じくらの時刻に寝ている	-0.068	-0.006			0.512	0.043			-0.317	-0.027			-0.102	-0.009		
毎日、同じくらの時刻に起きている	0.090	0.006			-0.614	-0.044			-0.325	-0.023			-0.058	-0.004		
小6算数Aスコア	0.232	0.234	***		0.234	0.233	***		0.243	0.243	***		0.213	0.213	***	
小6算数Bスコア	0.223	0.225	***		0.208	0.208	***		0.281	0.281	***		0.280	0.280	***	
(定数)	22.713				21.291		**		20.551		**		17.754		*	
有効度数		570				570				570				570		
決定係数		0.202				0.198				0.254				0.249		
自由度調整済み決定係数		0.193				0.190				0.246				0.241		
回帰のF検定		p=0.000				p=0.000				p=0.000				p=0.000		
*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 + p<0.1																

5. まとめ

本章では、学力スコアが小6時から中1にかけてどの程度の影響があるのかを分析してきた。本章での分析結果は以下の3点にまとめられる。

第一に、学力スコア全体の2時点間の影響については次の通りである。国語でも算数・数学でも、小6時の学力スコアが高いほど、中1での学力スコアが高い。A問題・B問題に注目して詳述すると、①A問題スコアに比して、B問題スコアの方が次の時点の学力スコアへの影響力がやや大きいこと、②前段階の学力スコアが次時点の学力スコアの分散を説明する割合は、国語よりも算数・数学の方がやや大きい、という点が重回帰分析により示すことができた。

第二に、領域別に分析した中1時学力スコアの2時点間の影響については、以下のような結果が示された。

まず、国語においては、①「音声言語」では、小6時学力スコアのA問題とB問題の影響の差はあまり違いないこと、②「説明的文章」では、A問題の方がB問題よりも強い影響があること、③「文学的文章」でも、小6時学力スコアのA問題の方がB問題に比して強い影響があること、④「言語事項」でもA問題の方がB問題よりも強い影響となっている、という4点が示された。

次に、算数・数学においては、①「数と計算」は、A問題とB問題の影響力にはあまり違いがないこと、②「量と測定」でも、A問題とB問題の影響力はあまり差がないこと、③「図形」については、A問題に比してややB問題の方が影響力が大きいこと、④「数量関係」では、A問題に比してややB問題の方が大きい影響力があることに加えて、他の領域に比べると小6時の説明力が大きい、という4点が示された。

第三に、以上の分析から総合的に判断すると、①中1国語学力スコアは、小6時のA問題による規定力がやや大きく、②中1数学学力スコアは、小6時のB問題による規定力がやや大きいということ、③国語と比べると算数・数学の方が、過去の学力スコアが次に学力スコアに対して累積的に作用することが示唆される。

以上より、山崎（2013）や中西（2015）同様に、一度獲得した学力は次の時点の学力に持ち越されるということが確認できた。しかし、学力不振は、「結果」ではなく、「プロセス」だととらえるべきである。それというのも、学校でのつまずきは、その後の高校進学、教育達成、職業への移行を困難にするだけでなく、高校中退や犯罪に関わる可能性を高めるからである（例えば、Alexander et al. 2001、Heckman 2006、Ballantine and Hammack 訳書 2011 など）。今後、本パネル調査のデータ収集が進むにつれて、学力が変化し、どのような要因によって学力不振が挽回されるのかを把握できることが期待される。

[注]

- 1) 国立教育政策研究所のホームページを参照した (<http://www.nier.go.jp/14chousa/14chousa.htm>、2015年12月26日取得)。
- 2) まず本章での分析対象者は、序章で確認した 576 人を基準として、無回答等の欠損変数はリストワイズに削除している。
- 3) 箱ひげ図の縦軸の学力スコアは、すべて標準化していない正答率を用いている。以下の箱ひげ図も同様である。
- 4) 学力スコアの 3 分位は、各分位で約 33%ずつになるように分割するのだが、分析ケース数が決して大きくないデータであるため、下記図表 1-14 に示したような割合となっていることを承知されたい。

図表 1-14 使用する学力スコア 3 分位の割合

	小6国語A・3分位	小6国語B・3分位	小6算数A・3分位	小6算数・3分位
下位層	28.7%	23.2%	28.2%	34.2%
中位層	43.1%	28.4%	45.3%	35.0%
上位層	28.2%	48.3%	26.5%	30.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
N	(575)	(573)	(574)	(571)

- 5) 重回帰分析の結果、朝食を毎日食べることのプラスの効果が散見される。これは、「朝食を毎日食べる＝規則的な生活習慣が身についている＝比較的に家庭背景である」ということを意味しているのかもしれない。いずれにせよ、本章ではこの結果について積極的に解釈を加えないが、こうした点への注目は今後の課題としたい。

[参考文献]

- Alexander, K. L., Entwisle, D. R. and Kabbani, N., 2001, "The Dropout Process in Life Course Perspective: Early Risk Factors at Home and School", *Teachers College Record*, 103(5):760-822.
- Ballantine, J.H. and Hammack, F.M., 2009, *The Sociology of Education: A Systematic Analysis 6th Edition*, Pearson Education, Inc. (=2011, 牧野暢男・天童睦子監訳『教育社会学——現代教育のシステム分析』東洋館出版社)。
- Heckman J. James ,2006, "Skill Formation and the Economics of Investing in Disadvantaged Children" *SCIENCE* Vol. 312, pp.1900-1902.
- 耳塚寛明, 2007, 「小学校学力格差に挑む——だれが学力を獲得するのか」『教育社会学研究』80, 23-39.
- 中西啓喜, 2015, 「パネルデータを用いた学力格差の変化についての研究」『教育学研究』82(4), 近刊.
- 山崎博敏, 2013, 「小学校 4 年から中学校 2 年までの児童生徒の学力の変化——3 時点の学力調査データを連結したパネル分析の試み」『中央調査報』674 (<http://www.crs.or.jp/backno/No674/6741.htm>, 2015 年 12 月 22 日取得)。

第2章 中学生の進路選択過程

——学科選択に着目して——

小黑恵（東京大学大学院）

本章では、進学希望学科に関する入り口時点での分布を把握するため、学力や学習、将来や職業に関する意識と進学希望学科との関連を検証し、次のことを明らかにした。①学力や主観的成績が高く、学習に対する意識が肯定的であると普通科のみ希望になり、そうでない層は専門学科や総合学科を希望するという構図が既にみられる。②専門学校まで進学希望の層で専門学科のみ希望が多く、また高ランク高校志望層が普通科のみを希望しやすい。③夢や目標を持っていると学科未定になりにくく、地位や名誉のある職業志向層で普通科のみ希望が多い。④仕事に役立つことを学びたいというレリバンス意識や、興味・関心をいかせる仕事に就きたいという意識については、進学希望学科と有意な関連があるとはいえない。ただし分類を緩めると、高校で仕事に直接役立つことを学びたい層で専門学科や総合学科を検討し、そうでない層は普通科のみ希望になるという関連がみられる。

1. 問題設定

本研究の最終的な目的は、中学生の進路選択、特に高校選択に際してどのような学科への進学を希望するかということが、中学校1年次から3年次にかけて、学力や将来に関する意識、レリバンス意識の変化、ならびに家庭背景などに関連しつつ、どのように変化していくのかという過程を明らかにすることである。

中学生の進学希望学科に関する調査は管見の限りほとんど見られないが、東京大学教育学部総合教育科学学科比較教育社会学コースの「東京都X区の中学生の生活・意識・行動に関するアンケート」調査（2014）からは、対象が特定の地域に限られるものの、学年ごとの進学希望学科の分布を知ることができる。この調査によれば、まず、進学希望学科未定層が中学校1年次で約25%存在するが、2年次では13%弱とほぼ半減し、進路決定を行う3年次になると3%を切る。具体的な進学希望学科がある層では、普通科のみを希望する生徒が最も多く、1年次では約42%であるのに対し、2年次では66%、3年次では約73%を占めており、年次の上昇に伴う割合の増加が著しい。対して、専門学科のみ希望層は、1年次の約13%と比較して、2年次では6%、3年次では9.5%と、1年次より割合が減少している。総合学科のみを希望する層も、1年次でも3%とすでに少ないが、学年の上昇に伴って割合が減少する。また、複数の学科を希望している層も、学年が上昇すると減少する。

しかし、これは1時点での調査の結果を学年ごとに比較したもの、すなわち水準の問題であり、変化の問題ではない。学年の上昇に伴い、どのような時期に、どのような要因に

よって進学希望学科の変化が生じるのかを検証するためには、クロスセクションデータではなく、パネルデータを用いた分析が必要となる。

関西圏 X 市のパネル調査では、2.1 で後述するとおり、進学希望学科未定層が中 1 時点では約 45%を占めている。今後、追跡調査を行うことによって、これらの未定層が何らかの学科希望に振り分けられていく過程を検証することが可能になる。また、すでに何らかの学科を希望している層についても、希望学科の変化や、複数の希望が絞られていく過程とその要因を検証することができるのである。

進学希望学科の決定・変化に影響を与える要因としては、まず、日本の高校階層構造において、専門学科が下位に位置づく（竹内 1995、乾 1990 など）ことから、成績の変動が考えられる。また、専門学科や総合学科では普通科よりも専門的な学習を行うため、将来の夢や目標の有無をはじめとした将来に関する意識や、職業に関連することを学びたいかどうかというレリバンス意識など、職業に関する意識も影響を与えると考えられる。レリバンス意識と高校学科については、本田（2009）や伊藤（2010）が、専門学科の生徒の職業的レリバンスは普通科の生徒と比較して高く、専門学科の教育がレリバンス意識を高めている可能性を指摘している。しかし、専門学科の教育を受ける以前の段階、すなわち専門学科を選択する中学生のレリバンス意識がどのようになっているのかは、先行研究では必ずしも明らかにされていない。また、高校階層構造下位に位置し、不本意入学者の多い専門学科（酒井編 2007、児美川 2013a など）選択者の学力とレリバンス意識がどのように関係しているのかといったことについても、これまで十分に検証されてきたとはいえない。

本研究では、今後これらの要因がどのように変化し、進学希望学科の決定・変化に影響するのかを検証していく。例えば、成績の低下とともに専門学科希望に決定・変化し、それに伴ってレリバンス意識や将来の夢決定度などが上昇する、すなわち成績低下による選択の正当化のためにレリバンスや将来の夢が用いられる、といった構図が見出されるかもしれない。職業や将来の夢・目標について考えさせることは、キャリア教育においても重視されており（児美川 2013b）、高校選択に際する生徒のこうした意識を、成績の変化などに関連させて分析することには意義があるだろう。

本報告書では、進学希望学科、ならびに学力・学習・将来・職業に関する意識と希望学科との関連について、まずは中学 1 年次の入り口時点での分布がどのようになっているのかを明らかにしていく。進学希望学科の変遷に関する分析は、wave1 のデータ分析を通じて得られる入り口時点での分布をふまえた上で、追跡調査の実施を待つて行うこととする。

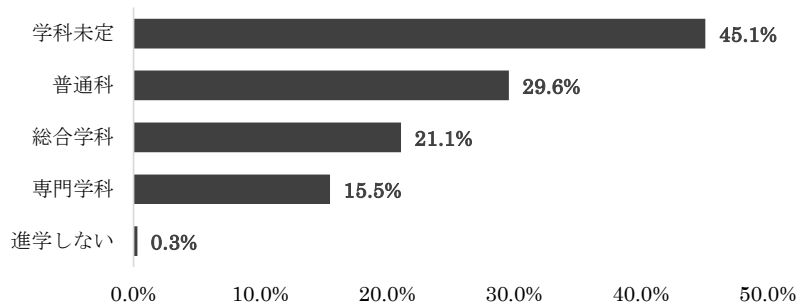
2. 分析

2.1 進学希望学科の分布

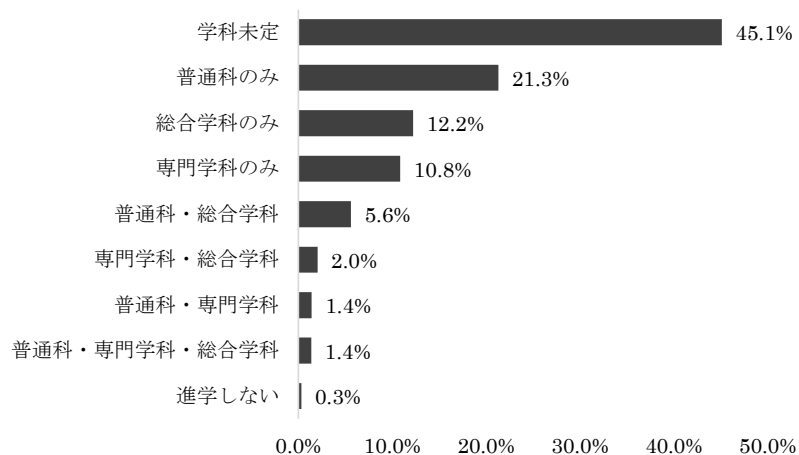
本項では、はじめに、wave1 時点での進学希望学科の分布がどのようになっているのか

を見ていく。図表 2-1 は、「あなたが高校で進学したい学科は、次のうちどれですか。今、候補として少しでも考えている学科すべてに○をつけてください」に対する多重回答の結果をそのまま単純集計したものである。これを重複がないよう 9 タイプに分類し、それぞれの割合を示したものが図表 2-2 である。

図表 2-1 進学希望学科の単純集計（多重回答）



図表 2-2 進学希望学科タイプごとの割合



N=592

図表 2-1、図表 2-2 から、wave1 の段階では学科未定層が約 45%と半数弱を占めていることがわかる。進学希望学科が 1 つに決まっている層では、普通科のみ希望が 21.3%と最も多く、そこから 10 ポイント程度下がって総合学科のみが 12.2%、専門学科のみが 10.8%と続く。複数の学科を併願している層では、普通科と総合学科を希望している生徒が 5.6%と最も多く、専門学科と総合学科希望、普通科と専門学科と総合学科希望、普通科と専門

学科希望層はそれぞれ 2%から 1.4%とほぼ並んでいる。総合学科は、「普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す」（文部科学省 1993）第 3 の学科として位置づけられているため、普通科とも併願しやすいと考えられる。なお、高校に進学しない予定という生徒は、0.3%とごく少数である。

2.2 変数の設定

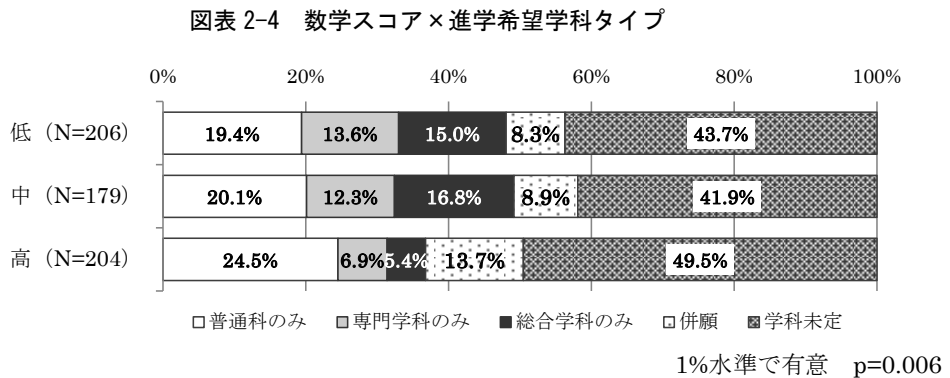
第 3 項以降で行う分析に用いる変数の設定の詳細は、図表 2-3 に示したとおりである。

図表 2-3 変数の設定の詳細

進学希望学科タイプ	「あなたが高校で進学したい学科は、次のうちどれですか。今、候補として少しでも考えている学科すべてに○をつけてください」を用い、「普通科のみ」「専門学科のみ」「総合学科のみ」「併願」「学科未定」の 5 タイプに分類した。 「併願」は、普通科・専門学科・総合学科のうち 2 つ以上の学科を選択している層であるが、細分化すると度数が少なくなり分析に耐えないため、複数学科併願層としてまとめて扱う。なお、高校に進学しないと回答した生徒は 2 人のみとごく少数であるため、分析から除外した。
数学スコア	中 1 時点での数学スコアについて、度数がなるべく均等になるよう、低・中・高に 3 分割した。
国語スコア	中 1 時点での国語スコアについて、度数がなるべく均等になるよう、低・中・高に 4 分割した。
主観的数学成績	「あなたは学年の中でどれくらい数学の勉強ができるほうだと思いますか」について、「とてもよくできる」「よくできる」を上、「普通」を中、「あまりできない」「まったくできない」を下に割り当てた。
主観的国語成績	「あなたは学年の中でどれくらい国語の勉強ができるほうだと思いますか」について、「とてもよくできる」「よくできる」を上、「普通」を中、「あまりできない」「まったくできない」を下に割り当てた。
理解できていない内容がわかっている	「習った内容の中で、何がまだ理解できていないか、わかっている」について、「とてもあてはまる」「まああてはまる」を「あてはまる」、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を「あてはまらない」とした。
学習してわかることが増えるのは楽しい	「学習して、わかったりできたりすることが増えるのは、うれしい」について、「とてもあてはまる」「まああてはまる」を「あてはまる」、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を「あてはまらない」とした。
最終希望学歴	「あなたは将来、どの学校まで進みたいですか」について、「四年制大学まで」と「大学院まで」を統合し、「高校まで」「専門学校・各種学校まで」「短期大学まで」「四大・大学院まで」の 4 分類とした。
少しでも学力の高い学校へ進学したい	「少しでも学力の高い学校へ進学したい」について、「とてもあてはまる」「まああてはまる」を「あてはまる」、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を「あてはまらない」とした。
将来の夢や目標の有無	「将来の夢や目標を持っている」について、「とてもあてはまる」「まああてはまる」を「あてはまる」、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を「あてはまらない」とした。
高校で仕事に直接役立つことを学びたい	「高校で仕事に直接役立つことを学びたい」について、「とてもあてはまる」「まああてはまる」を「あてはまる」、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を「あてはまらない」とした。
興味・関心をいかせる仕事につきたい	「将来、自分の興味・関心をいかせる仕事につきたい」について、「とてもあてはまる」「まああてはまる」を「あてはまる」、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を「あてはまらない」とした。
地位や名誉のある職業につきたい	「将来、地位や名誉のある職業につきたい」について、「とてもあてはまる」「まああてはまる」を「あてはまる」、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を「あてはまらない」とした。

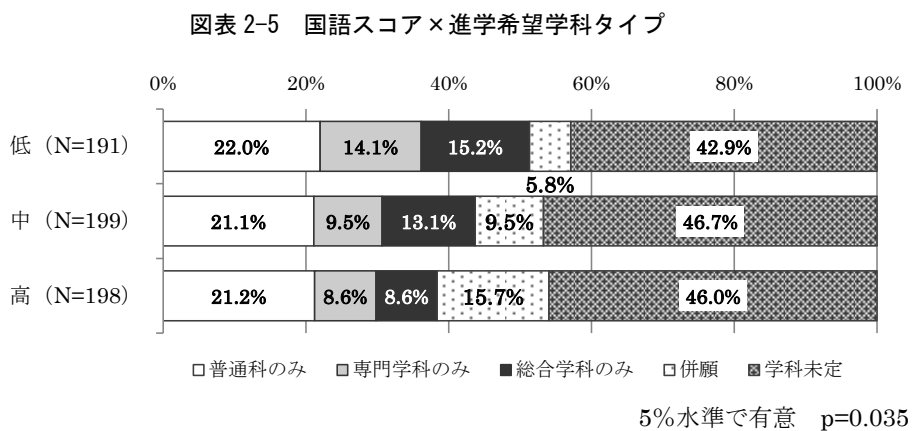
2.3 学力・学習に関する意識と進学希望学科タイプ

本項では、学力や学習に関する意識と進学希望学科タイプの関連について検証を行う。
図表 2-4 は、数学スコアを独立変数、進学希望学科タイプを従属変数としたクロス集計の結果をグラフにしたものである。



図表 2-4 から、数学スコアが高いほど普通科のみ希望になりやすく、逆に数学スコア低・中層で専門学科のみ希望層や総合学科のみ希望層が多いことがわかる。高校階層構造の上位に位置づくのは普通科高校が多いため、総合学科や専門学科と比較して、スコアが高い層で普通科のみ志望が多くなっているのは妥当な結果だといえよう。なお、複数学科併願層、進学希望学科未定層については、どちらかといえば数学スコア低・中層に比べ、スコアが高いほうが併願・学科未定になりやすい傾向にあるようだ。

続いて、国語スコアを独立変数にして同様の分析を行った結果が図表 2-5 である。

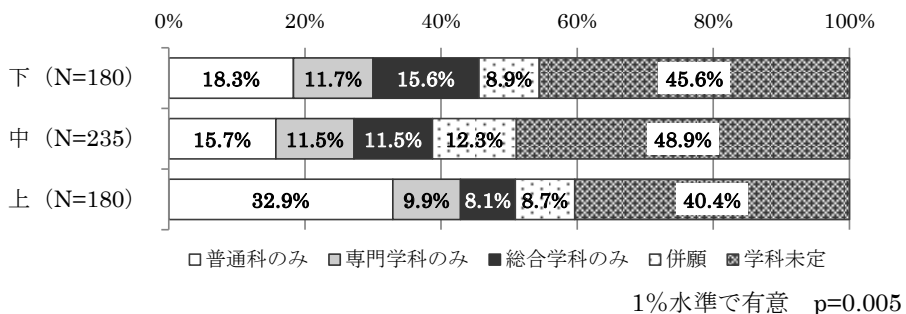


図表 2-5 をみても、普通科のみ希望層は国語スコアによる差がほとんどないが、専

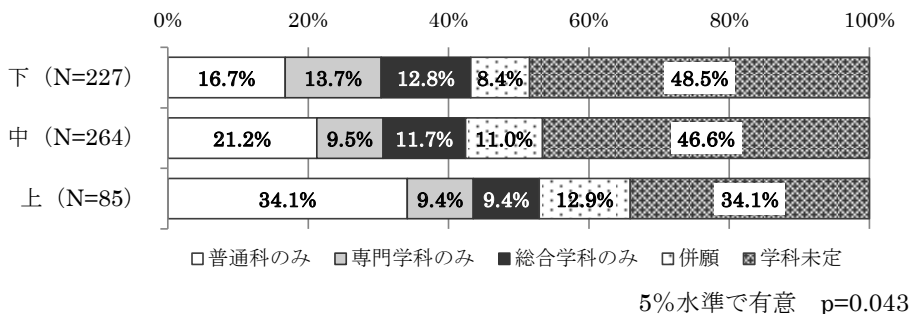
門学科のみ希望層、総合学科のみ希望層は、国語スコアが低いほど多くなっており、この点は図表 2-4 と類似の結果である。複数学科併願層、未定層においても、国語スコアが低い層と比較してスコア中・高層で割合が多い傾向にあるなど、数学スコアとの関連と類似している。

それでは、数学、国語それぞれの主観的な成績と進学希望学科との関連はどのようなになっているのだろうか。図表 2-6、図表 2-7 は、それぞれ順に主観的数学成績、主観的国語成績と、進学希望学科タイプとの関連を見たものである。これらの図表をみると、主観的成績上位では普通科のみ希望が多く、主観的成績低・中層では専門学科のみ希望や総合学科のみ希望が多いという傾向がみとれる。すなわち、実際の成績でも、主観的な成績でも、上位では普通科のみ希望、中位・下位では専門学科のみ希望や総合学科のみ希望が多いという傾向はおおむね共通であるということになる。なお、学科未定層については、スコアとの関連ではスコアが高い層で割合が高くなっていたが、主観的成績では、数学・国語ともに、下位・中位層で学科未定が多いという逆の結果になっている。複数学科併願層に関しても、主観的数学成績では中位層、主観的国語成績では上位層で併願層が多くなっており、スコアを独立変数にした場合の結果とやや異なる。

図表 2-6 主観的数学成績×進学希望学科タイプ

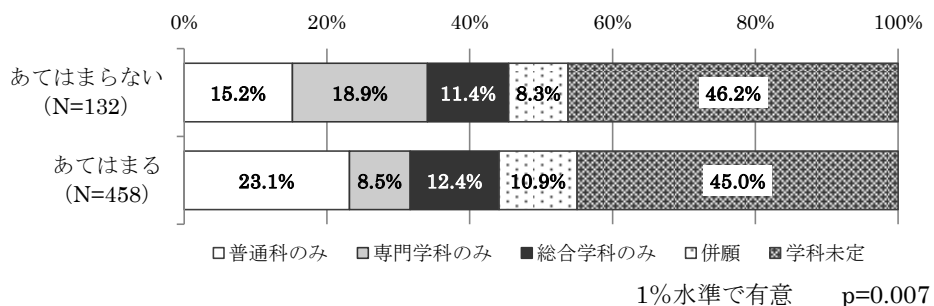


図表 2-7 主観的国語成績×進学希望学科タイプ



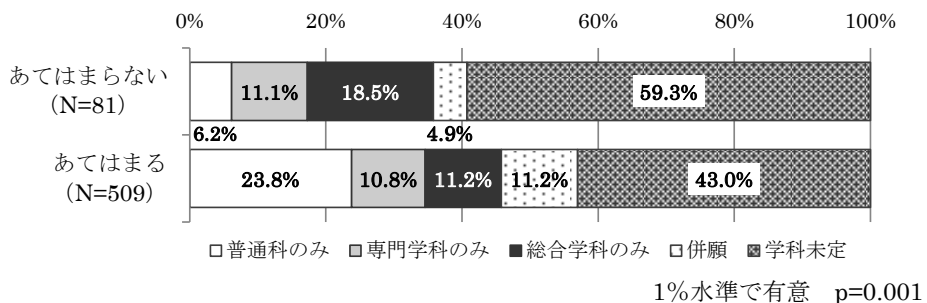
続いて、学習に関連する意識と進学希望学科タイプとの関連をみる。図表 2-8 は、理解できていない内容が何かを把握しているかどうかを独立変数、進学希望学科タイプを従属変数としたクロス集計の結果である。図表 2-8 からは、何が理解できていないのか把握できている層では普通科のみ希望が多く、対して把握できていない層では専門学科のみ希望が多いという傾向が読み取れる。これは、図表 2-3 から図表 2-7 で検討した、スコアや主観的成績と進学希望学科タイプとの関連と類似のものと考えられる。総合学科のみ希望層については、理解できていない内容を把握している層で総合学科のみ希望が若干多くはなっているが、1 ポイント強とほとんど差がない。複数学科併願層、学科未定層については、理解できていない内容が把握できている層で併願がやや多く、できていない層で学科未定がやや多いが、こちらも差は小さい。

図表 2-8 理解できていない内容がわかっている×進学希望学科タイプ



次に、学習してわかることが増えるのは楽しいという意識と、進学希望学科タイプとの関連について検討する。これはいわば、学習を手段ではなく目的とする「内発的学習意欲」（桜井 1997）と進学希望学科タイプとの関連と捉えられるだろう。結果は、図表 2-9 の通りである。

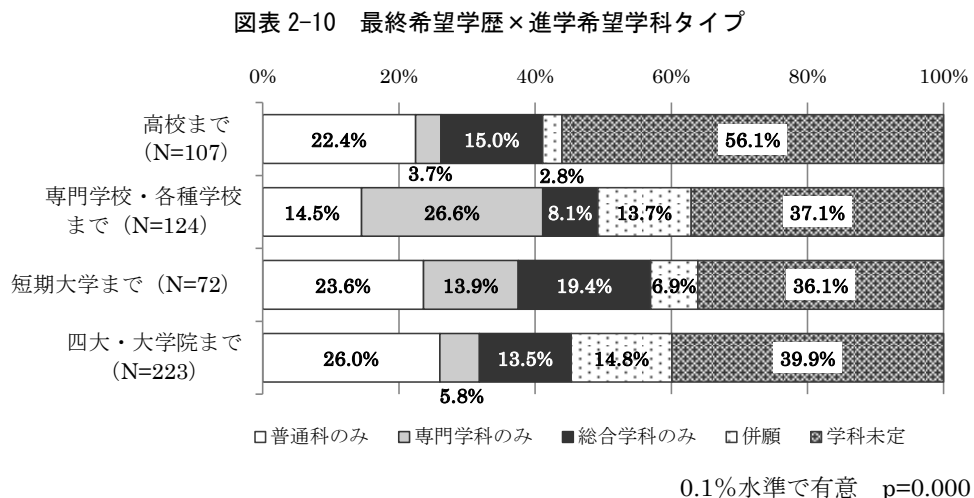
図表 2-9 学習してわかることが増えるのは楽しい×進学希望学科タイプ



図表 2-9 によると、学習してわかることが増えるのは楽しいと考えている層で、普通科のみ希望が多い。専門学科のみ希望層と総合学科のみ希望層は、前者についてはほとんど差がないが、学習してわかることが増えるのは楽しいと考えない、すなわち内発的学習意欲が希薄な層で多くなっている。学科未定層も同様の傾向である。複数学科併願層については、普通科のみ希望層と同じく、学習してわかることが増えるのは楽しいと考えている層で多い。

2.4 進学に関する意識と進学希望学科タイプ

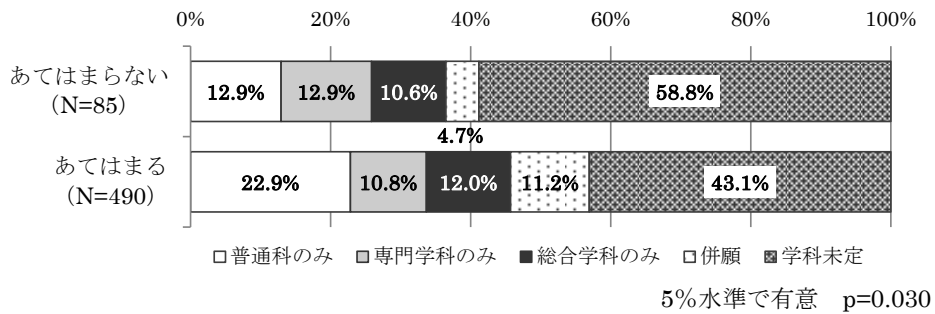
本項では、進学に関する意識と、進学希望学科タイプとの関連についてみていく。下の図表 2-10 は、最終的にどの学校まで進みたいかという最終希望学歴と進学希望学科タイプとの関連を示したものである。



図表 2-10 によれば、最終希望学歴が四大・大学院まで、短期大学まで、高校までの層で普通科のみ希望が多く、専門学校・各種学校までという層では少ない。総合学科のみ希望についても、最終希望学歴が短期大学までの層で最も多いという違いはあるが、類似の傾向がみられる。対して専門学科のみ希望については、最終希望学歴が専門学校・各種学校までの層で最も多く、次いで短期大学までの層で多くなっており、高校まで、四大・大学院までの層では少ないなど、普通科のみ希望や総合学科のみ希望とは傾向が異なっている。複数学科併願層、学科未定層については、最終希望学歴が四大・大学院まで、専門学校・各種学校までの層で併願が多く、高校までの層で学科未定が多くなっている。

続いて、少しでも学力の高い学校へ進学したいという意識と、進学希望学科タイプとの関連を示したものが、図表 2-11 である。

図表 2-11 少しでも学力の高い学校へ進学したい×進学希望学科タイプ

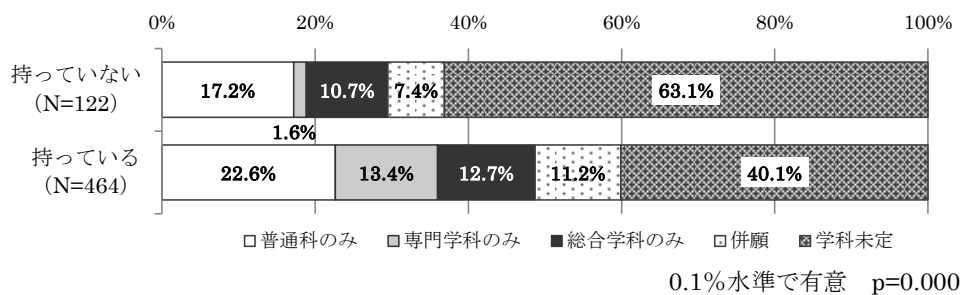


図表 2-11 から、少しでも学力の高い学校へ進学したいという意識の高い層で普通科のみ希望、総合学科のみ希望、複数学科併願が多く、対して、そうした意識の低い層で専門学科のみ希望ならびに学科未定が多いことがわかる。専門学科のみ希望、総合学科のみ希望では、学力の高い学校へ進学したいかどうかによる差が小さいものの、少しでも学力の高い学校へ進学したいと考えている層が普通科のみを希望しやすいという傾向は、中1時点でもすでに比較的是っきりしているといえるのではないだろうか。

2.5 将来や職業に関する意識と進学希望学科タイプ

続いて、将来や職業に関する意識と進学希望学科タイプとの関連をみていく。まず、将来の夢や目標を持っているかどうかと進学希望学科タイプとの関連を示したものが図表 2-12 である。

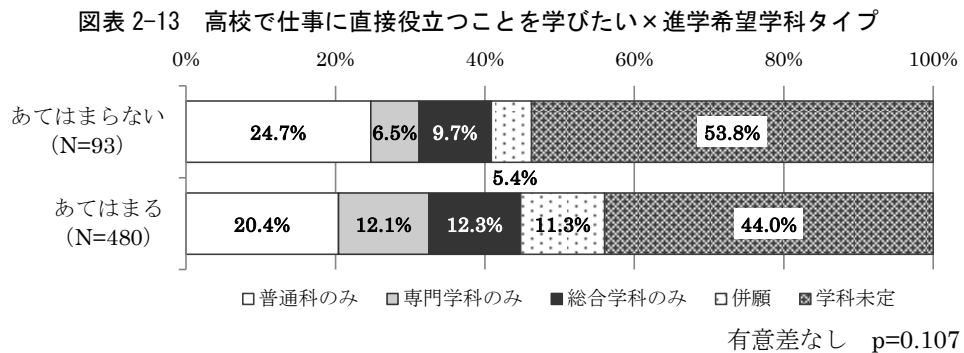
図表 2-12 将来の夢や目標の有無×進学希望学科タイプ



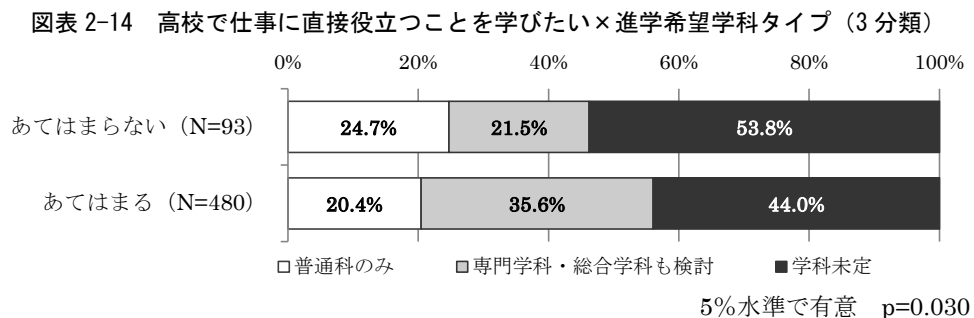
図表 2-12 をみると、将来の夢や目標を持っていない層で学科未定が顕著に 23 ポイント多くなっており、その他全ての進学希望学科タイプは夢や目標を持っている層で多くなっている。学科未定層が約 45%を占める wave1 の段階では、将来の夢や目標の有無は、具体的な進学希望学科タイプごとの差よりも、何らかの希望する学科を考えているかどうか

と関連があるようだ。

次に、高校で仕事に直接役立つことを学びたいというレリバンス意識と進学希望学科タイプの関連をみると、図表 2-13 のとおり、有意な関連があるとはいえなかった。



ただし、下の図表 2-14 のように、進学希望学科タイプの分類をより緩くし、普通科のみ希望か、専門科目も学べる専門学科や総合学科も検討しているか、もしくは学科未定かという 3 分類を従属変数にすると、レリバンス意識と有意な関連が認められる。

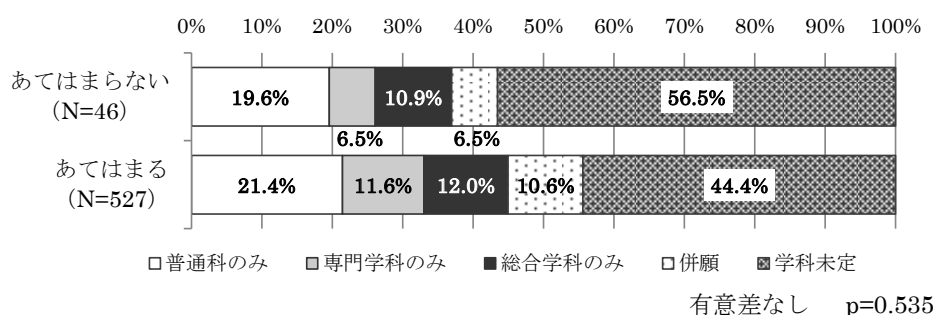


すなわち、高校で仕事に役立つことを学びたいと思っていないと普通科のみ希望、学科未定になり、思っていると専門学科や総合学科も検討するようになるという関連である。なお、「仕事に直接役立つこと」が英語などの普通科目で得られる知識である可能性もあるものの、高校では仕事に直接役立つことを学びたいと考えている層でも、そのうち 20%程度は普通科のみを希望しているということになる。

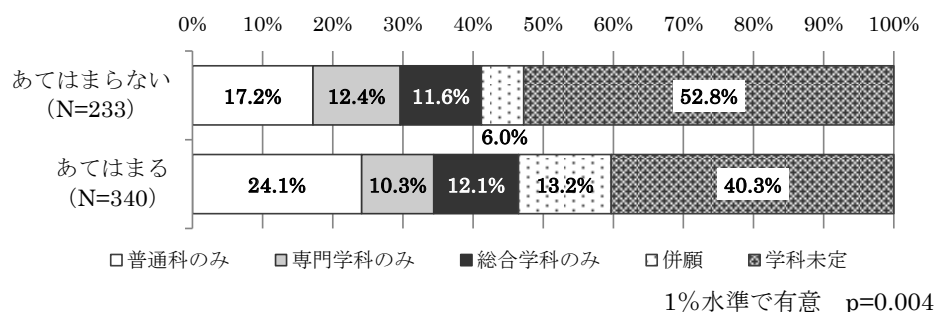
続いて、どのような職業に就きたいかという意識と進学希望学科タイプとの関連をみていく。図表 2-15、図表 2-16 は、それぞれ興味・関心をいかせる仕事につきたいかどうかという意識、地位や名誉のある職業につきたいかどうかという意識を独立変数とし、進学希望学科タイプを従属変数としたクロス集計の結果である。

まず、図表 2-15 をみると、興味・関心をいかせる仕事につきたいかどうかは、つきたいと考える生徒が大多数となっていることもあるが、進学希望学科タイプと有意な関連があるとはいえない。続いて図表 2-16 をみると、地位や名誉のある職業につきたいかどうかという意識と進学希望学科タイプとの間には有意な関連がみられる。具体的には、地位や名誉のある職業につきたいと考えている層で、普通科のみ希望、総合学科のみ希望、併願が多く、対してそうは考えていない層で、専門学科のみ希望や学科未定が多くなっている。ただし、専門学科のみ希望層、総合学科のみ希望層については、地位や名誉のある職業につきたいかどうかによる差は小さい。

図表 2-15 興味・関心をいかせる仕事につきたい×進学希望学科タイプ



図表 2-16 地位や名誉のある職業につきたい×進学希望学科タイプ



3. まとめと今後の展望

本報告書では、進学希望学科に関する入り口時点での分布を把握するため、普通科のみ進学希望、専門学科のみ進学希望、総合学科のみ進学希望、複数学科併願、進学希望学科未定という進学希望学科タイプと、学力や学習、将来に関する意識との関連を検証した。その結果、中1時点でも、学力や主観的成績が高いと普通科のみ希望になり、中・低位層では専門学科希望になるという関連が認められた。学習に対する意識についても、専門学科や総合学科希望層と比較して、普通科のみ希望層は、理解していない内容が把握できて

いる層や、学習が楽しいと考える層が多いという関連がみられた。進学に関する意識については、普通科のみ希望や総合学科のみ希望と比較して、専門学校・各種学校まで進学を希望する層で専門学科のみ希望が多く、また少しでも学力の高い学校へ進学したいと考える層が普通科のみを希望しやすい傾向があった。すなわち、中学1年次の入り口時点において、すでに学力や学習に関して上位層は普通科、必ずしもそうでない層は専門学科や総合学科を検討するといった構造がおおむね見られるということのようだ。

将来や職業に関する意識については、将来の夢や目標を持っていると学科未定になりにくく、地位や名誉のある職業に就きたいと考えていると普通科のみ希望になりやすいという関連がみられた。高校で仕事に直接役立つことを学びたいというレリバンス意識や、興味・関心をいかせる仕事に就きたいという意識については、進学希望学科と有意な関連があるとはいえなかった。ただし前者については、普通科のみ希望か、専門学科や総合学科も検討しているかどうかというより広くくりでみれば、高校で仕事に直接役立つことを学びたい層で専門学科や総合学科を検討し、そうでない層は普通科のみ希望になるという関連があった。

今後は、これらの入り口時点での分布を下敷きとし、中1時点で45%程度を占める希望学科未定層が、いつ、どのようなきっかけでどのような学科に振り分けられていくのかをみていく。また、具体的な希望学科がある層についても、学年の上昇や学力・学習に関する意識、将来や職業に関する意識の変化に伴ってそれがどのように変化していくかも検証する。さらに、進路選択という性質上、家庭の影響も介在すると思われるため、家庭背景との関連も詳細に検証していきたい。

【参考文献】

- 本田由紀，2009，「専門高校生の職業への移行」小杉礼子編『若者の働きかた』ミネルヴァ書房，46-73。
- 乾彰夫，1990，『日本の教育と企業社会——元的能力主義と現代の教育＝社会構造』大月書店。
- 伊藤秀樹，2010，「不本意入学者と専門教育のレリバンス」『研究所報』(57)，Benesse 教育研究開発センター，29-49。
- 児美川孝一郎，2013a，『『教育困難校』におけるキャリア支援の現状と課題——高校教育システムの「周縁」』『教育社会学研究』92: 47-63。
- ，2013b，『キャリア教育のウソ』筑摩書房。
- 文部科学省，1993，「総合学科について」。
- (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/seido/1258029.htm，2015年12月26日取得)
- 酒井朗編，2007，『進学支援の教育臨床心理学——商業高校におけるアクションリサーチ』勁草書房。
- 桜井茂男，1997，『学習意欲の心理学——自ら学ぶ子どもを育てる』誠信書房。
- 東京大学教育学部総合教育科学科比較教育社会学コース，2015，『2014年東京都X区の中学生の生活・意識・行動に関するアンケート』。
- 竹内洋，1995，『日本のメロクラシー——構造と心性』東京大学出版会。

第3章 部活動・通塾・ケータイ所有と生活行動の関連 ——生活時間および生活状況の変化の実態分析——

須藤 康介（明星大学）

小学6年生から中学1年生にかけての、部活動・通塾・ケータイ所有と生活行動（生活時間・生活状況）の変化の関連を分析した。分析の結果、部活動・通塾・ケータイ所有という各種の選択行動は、「その選択と直接的に関わる生活時間」には関連するが、それ以外の生活時間に派生的に関連することは少ないことが示された。たとえば、ケータイを手放した者はケータイ時間が短くなるが、転じて勉強時間が長くなるという傾向は見出されない。また、部活動に加入することが「楽しい学校生活」を維持するための条件となっている可能性、ケータイを手放すことが「楽しい学校生活」を得るか失うかの分水嶺となっている可能性、ケータイが円滑な家族関係の一要素となっている可能性が示唆された。一方、通塾と生活状況の関連はほとんど見られなかった。

1. 問題設定

本稿の目的は、小学6年生から中学1年生にかけての、部活動・通塾・ケータイ所有と生活行動の変化の関連を明らかにすることである。

小学校から中学校にかけて、子どもたちの生活で大きく変化することは何であろうか。様々なものが考えられるが、その代表として、部活動・通塾・ケータイ所有が挙げられるだろう。小学校では部活動らしい部活動はほとんどなかったのに対して、中学校からは多くの生徒が部活動に加入する。中学校入学を機に通塾を始める者もいるだろう。ようやく念願が叶って、あるいは中学校までの通学距離などの事情からケータイ（携帯電話・スマートフォン）の総称とする）を所有するようになる者も多いだろう。

しかし、これらはすべて選択行動、つまり、義務ではなく本人または保護者がそうするかどうかを考えて判断する行動である。だからこそ、本人も保護者も、指導・助言に当たる学校の教師も、その選択が妥当であるのか悩むことがある。部活動・通塾・ケータイ所有で、生活行動が乱れたり、あるいは整ったりするという言説も存在する。たとえば、部活動に入らないと惰性的に家でテレビを見てしまう、通塾すると夜型になり就寝時間が不規則になる、ケータイを持つと学業に集中できなくなり勉強時間が減少するなどの言説である。はたして実際はどのようなのだろうか。

本稿では、以上のことを考えるための基礎資料として、部活動・通塾・ケータイ所有と生活行動（テレビ時間などの生活時間、朝食を食べることなどの生活状況）の変化の関連を分析する。一つの市のデータではあるものの、中学校生活のスタートに前後する子どもの生活世界の変化を垣間見られるだろう。

2. データの意義と限界

パネル調査である本データを分析する意義は、子どもの生活行動の現状だけでなく、小6から中1にかけてのその「変化」を捉えられることである。たとえば、部活動加入者ほど学校適応が高いことは、藤田（2006）や林川（2015）などの先行研究で明らかにされている。しかし、単年度データの分析では、部活動加入者がもともと学校適応が高いタイプだったのか、部活動加入後に学校適応が高くなったのかの識別ができない。小6と中1で同一人物を追跡している本データを用いることで、部活動加入後に学校適応がどう変わったのかなどを明らかにできる。

生徒の生活行動は、生活時間・生活状況の二つの側面から捉える。生活時間は、テレビ時間・ゲーム時間・ケータイ時間・勉強時間であり、すべての平日（学校がある日）の平均時間を尋ねている。勉強時間には、学習塾・家庭教師で勉強している時間を含む。生活状況は「毎日朝食を食べている」「決まった時間に就寝する」「学校に行くのは楽しい」「家の人と学校の話をする」の四つである。本調査では、これらの生活時間・生活行動について、小6と中1の両データが揃っており、その変化を分析できる。

一方で、本データには分析上の限界もある。それは、小6の文部科学省「全国学力・学習状況調査」と、中1のベネッセコーポレーション「総合学力調査」では、同じ質問でも選択肢が微妙に異なる場合があることである。まず、テレビ時間・ゲーム時間・勉強時間については、両調査で選択肢の区切り方（○時間～△時間）が異なる。これらは、選択肢の範囲の中間値を割り当てて、量的変数として扱う。また、「毎日朝食を食べている」「決まった時間に就寝する」「家の人と学校の話をする」については、小6で「している」「どちらかといえば、している」「あまりしていない」「全くしていない」という選択肢で、中1で「とてもあてはまる」「まああてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」という選択肢で尋ねている。そして、「学校に行くのは楽しい」については、小6で「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」という選択肢で、中1で「とてもあてはまる」「まああてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」という選択肢で尋ねている。これらは、両方で回答傾向が変わらないと仮定して分析を行う。

なお、「毎日朝食を食べている」については、「している」「とてもあてはまる」に回答が集中していたため、「している」「とてもあてはまる」層を該当者とする。この区切り方は先行研究でもしばしば見られ、ほぼ必ず朝食を食べる子どもと、ときどきでも抜くことがある子どもという区分である。「決まった時間に就寝する」「家の人と学校の話をする」については、「している」「どちらかといえば、している」「とてもあてはまる」「まああてはまる」層を該当者とし、「学校に行くのは楽しい」については、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」「とてもあてはまる」「まああてはまる」層を該当者とする。

3. 小6から中1への変化

本節では、部活動・通塾・ケータイ所有、および生活行動（生活時間・生活状況）の、小6から中1にかけての変化を確認する。

3.1 部活動・通塾・ケータイ所有の変化

部活動・通塾・ケータイ所有の変化を度数分布で示す。なお、部活動については、運動部・文化部の両方に加入している者が4人いたが、運動部に割り振った場合、および文化部に割り振った場合で以後の分析を行ったところ、得られる知見はほぼ同じであった。したがって、人数の少ない文化部に割り振り、サンプルサイズの確保を行うこととする。結果が図表3-1～3-3である。

図表 3-1 部活動の加入状況

	有効パーセント	有効度数
運動部加入	74.7%	(442)
文化部加入	17.7%	(105)
部活動非加入	7.6%	(45)
合計	100.0%	(592)

運動部・文化部の両加入者は文化部に含めた

図表 3-2 通塾状況の変化

	有効パーセント	有効度数
非通塾一貫（非通塾→非通塾）	30.5%	(173)
通塾開始（非通塾→通塾）	23.1%	(131)
通塾中止（通塾→非通塾）	19.2%	(109)
通塾一貫（通塾→通塾）	27.2%	(154)
合計	100.0%	(567)

図表 3-3 ケータイ所有状況の変化

	有効パーセント	有効度数
ケータイ非所有一貫（非所有→非所有）	19.5%	(108)
ケータイ取得（非所有→所有）	26.1%	(145)
ケータイ喪失（所有→非所有）	5.8%	(32)
ケータイ所有一貫（所有→所有）	48.6%	(270)
合計	100.0%	(555)

部活動については、運動部に加入している生徒が74.7%と多数派であることが分かる。ベネッセ教育総合研究所の「第2回 放課後の生活時間調査」によれば、中1の運動部加入率は67%であるので、日本全国と比べて運動部加入率がやや高い。調査対象の市が、ど

ちらかと言えば部活動が盛んな地域であることを反映しているのだろう。

通塾については、小 6 から中 1 にかけて、通塾を始めた者もいれば、通塾をやめた者もあり、両者は拮抗していることが分かる。中学校入学と同時に通塾率が急上昇する傾向は見出されない。なお、ベネッセ教育総合研究所の「第 2 回 放課後の生活時間調査」によれば、中 1 の通塾率は 40%であるので、日本全国と比べて通塾率がやや高い。これは調査対象の市が都市部に近いことに起因しているのだろう。

ケータイ所有については、小 6 から中 1 にかけて所有者が増加するが、少数ながらケータイを手放している者もいることが分かる。ケータイの使用ルールを守らなかったなどの理由で没収されたのか、壊れて新しいものを買って替えていないのか、習い事をやめたなどの理由で必要なくなったのかは不明であるが、ケータイ所有が可逆的であることは興味深い。なお、ベネッセ教育総合研究所の「中高生の ICT 利用実態調査 2014」によれば、中 1 のケータイ所有率は 45%であるので、日本全国と比べてケータイ所有率は高い。通塾率と同様、調査対象の市が都市部に近いことに起因していると考えられる。

以上の部活動・通塾・ケータイ所有について、変化の種類（3×4×4 で 48 種類）を作成し、その上位 15 種類を示す。結果が図表 3-4 である。

図表 3-4 部活動・通塾・ケータイ所有の変化の種類

	有効パーセント	累積パーセント	有効度数	累積度数
114	10.4%	10.4%	(57)	(57)
144	10.0%	20.4%	(55)	(112)
134	9.1%	29.6%	(50)	(162)
124	7.5%	37.0%	(41)	(203)
112	6.0%	43.1%	(33)	(236)
122	5.7%	48.7%	(31)	(267)
142	4.6%	53.3%	(25)	(292)
111	4.4%	57.7%	(24)	(316)
141	4.0%	61.7%	(22)	(338)
121	3.5%	65.1%	(19)	(357)
132	3.3%	68.4%	(18)	(375)
214	3.1%	71.5%	(17)	(392)
242	2.2%	73.7%	(12)	(404)
131	2.0%	75.7%	(11)	(415)
234	1.8%	77.6%	(10)	(425)
その他	22.4%	100.0%	(123)	(548)

100：運動部加入 200：文化部加入 300：部活動非加入

10：非通塾一貫 20：通塾開始 30：通塾中止 40：通塾一貫

1：ケータイ非所有一貫 2：ケータイ取得 3：ケータイ喪失 4：ケータイ所有一貫

部活動・通塾・ケータイ所有の変化について、最も多い類型は「運動部加入・非通塾一貫・ケータイ所有一貫」であり、10.4%を占める。中学校生活のスタートにおける、ある意味の「王道」パターンと言えるだろう。また、上位4類型はすべて「運動部加入・ケータイ所有一貫」であり、合わせて37.0%を占める。通塾については様々なバリエーションが存在しており、多数派を一概には論じられない。

3.2 生活行動の変化

生活行動（生活時間・生活状況）の変化を、対応のあるt検定およびマクネマー検定で示す。対応のあるt検定とは、同一集団において平均値が時系列的に変化したかどうかを検証する手法、マクネマー検定とは、同一集団においてある事象の該当割合が時系列的に変化したかどうかを検証する手法である。結果が図表3-5、3-6である。

図表 3-5 生活時間の変化

		平均値	変化量	対応のあるt検定	有効度数
テレビ時間	小6	2.723	-0.690	p=0.000	(567)
	中1	2.033			
ゲーム時間	小6	1.870	-0.750	p=0.000	(567)
	中1	1.121			
ケータイ時間	小6	0.623	0.758	p=0.000	(555)
	中1	1.381			
勉強時間	小6	1.213	0.145	p=0.003	(569)
	中1	1.358			

図表 3-6 生活状況の変化

		該当割合	変化量	マクネマー検定	有効度数
毎日朝食を 食べている	小6	87.7%	-6.7	p=0.000	(570)
	中1	81.1%			
決まった時間に 就寝する	小6	75.0%	-33.8	p=0.000	(571)
	中1	41.2%			
学校に行くのは 楽しい	小6	82.0%	-2.5	p=0.243	(571)
	中1	79.5%			
家の人と 学校の話をする	小6	77.7%	2.3	p=0.326	(564)
	中1	80.0%			

まず、生活時間については、平均として見ると、小6から中1にかけて、テレビ時間とゲーム時間が減少し、ケータイ時間と勉強時間が増加していることが分かる。子どもたちの消費メディアがテレビ・ゲームから、ケータイに移行すると読み取れる。なお、勉強時

間の変化は他の生活時間の変化と比べればわずかである。

次に生活状況については、「毎日朝食を食べている」割合はやや減少し、「決まった時間に就寝する」割合は大幅に減少している。朝の生活習慣にもやや乱れは生じるものの、それよりも夜の生活習慣の乱れのほうが顕著である。一方、「学校に行くのは楽しい」「家の人と学校の話をする」に統計的に有意な変化は見られない。

4. 部活動・通塾・ケータイ所有と生活行動の変化

本節では、前節で確認した各種の変化の実態をふまえ、部活動・通塾・ケータイ所有と生活行動（生活時間・生活状況）の変化の関連を明らかにする。

4.1 部活動・通塾・ケータイ所有と生活時間の変化

部活動・通塾・ケータイ所有と生活時間の変化の関連を、平均値の比較（分散分析）で示す。結果が図表 3-7～3-9 である。表中のイータ係数は、質的変数と量的変数の関連の強さを表し、0～1 の値をとる。

図表 3-7 部活動加入と生活時間変化の関係

	テレビ時間 変化	ゲーム時間 変化	ケータイ時間 変化	勉強時間 変化
運動部加入	-0.700	-0.745	0.826	0.120
文化部加入	-0.728	-0.762	0.463	0.121
部活動非加入	-0.585	-0.817	0.854	0.372
有効度数	(564)	(564)	(552)	(566)
分散分析のF検定	p=0.873	p=0.956	p=0.094	p=0.407
イータ係数	0.022	0.013	0.093	0.056

図表 3-8 通塾状況と生活時間変化の関係

	テレビ時間 変化	ゲーム時間 変化	ケータイ時間 変化	勉強時間 変化
非通塾一貫	-0.629	-0.924	0.840	-0.140
通塾開始	-0.721	-0.627	0.628	0.832
通塾中止	-0.633	-0.766	0.874	-0.528
通塾一貫	-0.765	-0.654	0.672	0.344
有効度数	(563)	(563)	(551)	(565)
分散分析のF検定	p=0.835	p=0.282	p=0.478	p=0.000
イータ係数	0.039	0.082	0.067	0.413

図表 3-9 ケータイ所有状況と生活時間変化の関係

	テレビ時間 変化	ゲーム時間 変化	ケータイ時間 変化	勉強時間 変化
ケータイ非所有一貫	-0.799	-0.443	0.000	0.271
ケータイ取得	-0.632	-0.648	1.716	0.178
ケータイ喪失	-0.828	-1.078	-0.742	0.289
ケータイ所有一貫	-0.700	-0.840	0.725	0.067
有効度数	(553)	(551)	(555)	(553)
分散分析のF検定	p=0.810	p=0.055	p=0.000	p=0.385
イータ係数	0.042	0.117	0.455	0.074

まず、部活動については、文化部加入者では、ケータイ時間の増加がいくらか緩やかであることが読み取れる。運動部加入者では、部活動の密度が高いため、公私ともに部活メンバーと連絡を取る場面が多く、非加入者では、放課後に友だちと連絡を取って出かけた話ししたりする場面が多いといった理由が考えられる。ただし、部活動とテレビ時間・ゲーム時間・勉強時間の変化の間には、統計的に有意な関連は見られない。

次に、通塾については、通塾を始めた者は勉強時間が長くなり、通塾をやめた者は勉強時間が短くなる傾向が読み取れる。勉強時間に学習塾で勉強している時間が含まれていることを考えれば、必然的な生活時間の変化である。ただし、通塾とテレビ時間・ゲーム時間・ケータイ時間の変化の間には、統計的に有意な関連は見られない。

最後に、ケータイ所有については、ケータイを取得した者はケータイ時間が増加し、ケータイを手放した者はケータイ時間が減少するとともに、ゲーム時間の減少も大きくなることが分かる。ケータイ所有がゲーム時間とも関連しているのは、ケータイを使ってゲームをする層が一定数いるためと考えられる。なお、ケータイ所有とテレビ時間・勉強時間の変化の間には、統計的に有意な関連は見られない。特に勉強時間についての知見は興味深く、ケータイを取得すると勉強時間が減る、あるいはケータイを手放すと勉強時間が増えるとは一概には言えないということである。

参考として、生活時間の変化どうしの相関係数を算出したところ、テレビ時間変化と勉強時間変化の間では 0.015、ゲーム時間変化と勉強時間変化の間では-0.003、ケータイ時間変化と勉強時間変化の間では 0.000 であり、すべての相関係数は t 検定によって統計的に有意ではなかった。このことから、勉強時間の変化が他の変化に対して、極めて頑健であることが窺える¹⁾。荻谷（2001）が指摘する、出身階層が勉強時間に与える影響をふまえると、勉強時間は中学生になってからの行動よりも、より根源的な幼少時の様々な家庭背景などに依存することが考えられる。

4.2 部活動・通塾・ケータイ所有と生活状況の変化

部活動・通塾・ケータイ所有と生活状況の変化の関連をクロス集計で示す。なお、サンプルサイズが小さいため、通常のカイ二乗検定ではなく、フィッシャーの直接検定によって関連の有無を検証する²⁾。結果が図表 3-10～3-21 である。表中のクラメールの V 係数は、クロス表における変数間の関連の強さを表し、0～1 の値をとる。

図表 3-10 部活動加入と毎日朝食変化の関係

	毎日朝食を食べている			合計	有効度数
	負の変化	変化なし	正の変化		
運動部加入	10.2%	85.1%	4.7%	100.0%	(422)
文化部加入	20.4%	75.7%	3.9%	100.0%	(103)
部活動非加入	4.8%	83.3%	11.9%	100.0%	(42)
合計	11.6%	83.2%	5.1%	100.0%	(567)
フィッシャーの直接検定	p=0.009				
クラメールのV係数	0.112				

図表 3-11 部活動加入と定刻就寝変化の関係

	決まった時間に就寝する			合計	有効度数
	負の変化	変化なし	正の変化		
運動部加入	40.7%	52.0%	7.3%	100.0%	(423)
文化部加入	42.7%	55.3%	1.9%	100.0%	(103)
部活動非加入	33.3%	54.8%	11.9%	100.0%	(42)
合計	40.5%	52.8%	6.7%	100.0%	(568)
フィッシャーの直接検定	p=0.128				
クラメールのV係数	0.074				

図表 3-12 部活動加入と学校適応変化の関係

	学校に行くのは楽しい			合計	有効度数
	負の変化	変化なし	正の変化		
運動部加入	10.4%	78.5%	11.1%	100.0%	(423)
文化部加入	15.5%	80.6%	3.9%	100.0%	(103)
部活動非加入	21.4%	71.4%	7.1%	100.0%	(42)
合計	12.1%	78.3%	9.5%	100.0%	(568)
フィッシャーの直接検定	p=0.031				
クラメールのV係数	0.095				

図表 3-13 部活動加入と家族会話変化の関係

	家の人と学校の話をする			合計	有効度数
	負の変化	変化なし	正の変化		
運動部加入	13.5%	71.9%	14.7%	100.0%	(416)
文化部加入	6.8%	78.6%	14.6%	100.0%	(103)
部活動非加入	11.9%	76.2%	11.9%	100.0%	(42)
合計	12.1%	73.4%	14.4%	100.0%	(561)
フィッシャーの直接検定	p=0.441				
クラメールのV係数	0.058				

図表 3-14 通塾状況と毎日朝食変化の関係

	毎日朝食を食べている			合計	有効度数
	負の変化	変化なし	正の変化		
非通塾一貫	12.7%	81.5%	5.8%	100.0%	(173)
通塾開始	10.8%	83.8%	5.4%	100.0%	(130)
通塾中止	11.0%	85.3%	3.7%	100.0%	(109)
通塾一貫	12.3%	83.1%	4.5%	100.0%	(154)
合計	11.8%	83.2%	4.9%	100.0%	(566)
フィッシャーの直接検定	p=0.983				
クラメールのV係数	0.032				

図表 3-15 通塾状況と定刻就寝変化の関係

	決まった時間に就寝する			合計	有効度数
	負の変化	変化なし	正の変化		
非通塾一貫	39.9%	53.8%	6.4%	100.0%	(173)
通塾開始	38.9%	52.7%	8.4%	100.0%	(130)
通塾中止	38.5%	53.2%	8.3%	100.0%	(109)
通塾一貫	44.2%	51.3%	4.5%	100.0%	(154)
合計	40.6%	52.7%	6.7%	100.0%	(566)
フィッシャーの直接検定	p=0.821				
クラメールのV係数	0.050				

図表 3-16 通塾状況と学校適応変化の関係

	学校に行くのは楽しい			合計	有効度数
	負の変化	変化なし	正の変化		
非通塾一貫	11.0%	76.3%	12.7%	100.0%	(173)
通塾開始	14.5%	78.6%	6.9%	100.0%	(130)
通塾中止	10.1%	79.8%	10.1%	100.0%	(109)
通塾一貫	13.0%	78.6%	8.4%	100.0%	(154)
合計	12.2%	78.1%	9.7%	100.0%	(566)
フィッシャーの直接検定	p=0.651				
クラメールのV係数	0.062				

図表 3-17 通塾状況と家族会話変化の関係

	家の人と学校の話をする			合計	有効度数
	負の変化	変化なし	正の変化		
非通塾一貫	14.0%	69.0%	17.0%	100.0%	(171)
通塾開始	13.2%	76.7%	10.1%	100.0%	(129)
通塾中止	10.3%	74.8%	15.0%	100.0%	(107)
通塾一貫	10.5%	75.2%	14.4%	100.0%	(153)
合計	12.1%	73.6%	14.3%	100.0%	(560)
フィッシャーの直接検定	p=0.602				
クラメールのV係数	0.063				

図表 3-18 ケータイ所有状況と毎日朝食変化の関係

	毎日朝食を食べている			合計	有効度数
	負の変化	変化なし	正の変化		
ケータイ非所有一貫	11.1%	87.0%	1.9%	100.0%	(108)
ケータイ取得	13.8%	81.4%	4.8%	100.0%	(145)
ケータイ喪失	15.6%	75.0%	9.4%	100.0%	(32)
ケータイ所有一貫	9.7%	84.4%	5.9%	100.0%	(269)
合計	11.4%	83.6%	5.1%	100.0%	(554)
フィッシャーの直接検定	p=0.309				
クラメールのV係数	0.075				

図表 3-19 ケータイ所有状況と定刻就寝変化の関係

	決まった時間に就寝する			合計	有効度数
	負の変化	変化なし	正の変化		
ケータイ非所有一貫	45.4%	47.2%	7.4%	100.0%	(108)
ケータイ取得	39.3%	55.9%	4.8%	100.0%	(145)
ケータイ喪失	28.1%	53.1%	18.8%	100.0%	(32)
ケータイ所有一貫	40.0%	53.7%	6.3%	100.0%	(270)
合計	40.2%	53.0%	6.8%	100.0%	(555)
フィッシャーの直接検定	p=0.156				
クラメールのV係数	0.097				

図表 3-20 ケータイ所有状況と学校適応変化の関係

	学校に行くのは楽しい			合計	有効度数
	負の変化	変化なし	正の変化		
ケータイ非所有一貫	14.8%	74.1%	11.1%	100.0%	(108)
ケータイ取得	11.0%	83.4%	5.5%	100.0%	(145)
ケータイ喪失	21.9%	62.5%	15.6%	100.0%	(32)
ケータイ所有一貫	10.4%	79.3%	10.4%	100.0%	(270)
合計	12.1%	78.4%	9.5%	100.0%	(555)
フィッシャーの直接検定	p=0.099				
クラメールのV係数	0.095				

図表 3-21 ケータイ所有状況と家族会話変化の関係

	家の人と学校の話をする			合計	有効度数
	負の変化	変化なし	正の変化		
ケータイ非所有一貫	11.2%	74.8%	14.0%	100.0%	(107)
ケータイ取得	7.7%	70.4%	21.8%	100.0%	(142)
ケータイ喪失	19.4%	67.7%	12.9%	100.0%	(31)
ケータイ所有一貫	13.4%	76.5%	10.1%	100.0%	(268)
合計	11.9%	74.1%	14.1%	100.0%	(548)
フィッシャーの直接検定	p=0.032				
クラメールのV係数	0.113				

まず、部活動については、「毎日朝食を食べている」および「学校に行くのは楽しい」との間に統計的に有意な関連が見られる。具体的には、文化部加入者で朝食を食べない方向に転じやすく、部活動非加入者で学校が楽しくない方向に転じやすい。もっとも、朝食については、文化部に加入することの影響と言うよりも、文化部には女子が多いため、女子が朝食を食べなくなる傾向が反映されていると考えたほうが妥当だろう³⁾。また、部活動

加入者ほど学校適応が高いことが先行研究で示されてきたが、本分析から、それは小6から中1にかけて部活動非加入者の学校適応が低下することに一因があることが窺える。部活動加入が「楽しい学校生活」を維持するための条件となっている実態が示唆される。鈴木（2012）は、特に運動部加入が、学校内での人間関係上の「地位」を維持するための条件となっている可能性を示しているが、その知見とも整合的である。なお、部活動と「決まった時間に就寝する」および「家の人と学校の話をする」との間には統計的に有意な関連は見られない⁴⁾。

次に、通塾については、生活状況との間に統計的に有意な関連は見られない。通塾によって、生活習慣が整ったり乱れたり、学校適応や家族関係が変化したりする傾向は見出されない。通塾と生活状況をむすびつけて考えすぎることは妥当ではない。

最後に、ケータイ所有については、「学校に行くのは楽しい」および「家の人と学校の話をする」との間に統計的に有意な関連が見られる。興味深いことに、ケータイを取得した者は学校の楽しさが「変化なし」に集中しており、ケータイを手放した者は「正の変化」と「負の変化」に分極化している。土井（2014）は、ケータイが人間関係の常時接続化をもたらしていると論じている。ケータイというツールを失うことは、人間関係のしがらみから解放されて気楽になることにもつながり得るし、学校生活に必須な友人とのつながりを絶たれることにもつながり得るのかもしれない。また、ケータイを取得した者は、家の人との学校の話が増加しやすい。SNSを通して、保護者と会話する機会が増える可能性などが考えられる。なお、ケータイ所有と「毎日朝食を食べている」および「決まった時間に就寝する」との間には統計的に有意な関連は見られない⁵⁾。

5. まとめと結論

以上、小6から中1にかけての、部活動・通塾・ケータイ所有と生活行動（生活時間・生活状況）の変化の関連を分析してきた。

生活時間については、次の三点が分かった。第一に、文化部加入者はケータイ時間の増加が緩やかであるが、部活動とそれ以外の生活時間に明確な関連は見られない。第二に、通塾を始めた者は勉強時間が長くなり、通塾をやめた者は勉強時間が短くなるが、通塾とそれ以外の生活時間に明確な関連は見られない。第三に、ケータイを取得した者はケータイ時間が長くなり、ケータイを手放した者はケータイ時間とゲーム時間が短くなるが、ケータイ所有とそれ以外の生活時間に明確な関連は見られない。つまり、部活動・通塾・ケータイ所有という各種の選択行動は、「その選択と直接的に関わる生活時間」には関連するが、それ以外の生活時間に派生的に関連することは少ない。たとえば、ケータイを手放した者はケータイ時間が短くなるが、転じて勉強時間が長くなるという傾向は見出されないということである。近年の通塾やケータイの普及が子どもの生活時間を大きく変貌させているという言説がある中で、その関連の限定性が示唆された。

生活状況については、次の三点が分かった。第一に、部活動非加入者は、学校が楽しくない方向に転じやすい。第二に、通塾と生活状況の変化に明確な関連は見られない。第三に、ケータイを手放した者は、学校が楽しい方向と楽しくない方向に分極化しやすく、ケータイを取得した者は家族との会話が増加しやすい。すなわち、部活動（特に運動部）に加入することが「楽しい学校生活」を維持するための条件となっている可能性、ケータイを手放すことが「楽しい学校生活」を得るか失うかの分水嶺となっている可能性、ケータイが円滑な家族関係の一要素になっている可能性が示唆された。一方、通塾と生活状況をむすびつけて考えることには慎重になる必要があるだろう。

以上、サンプルサイズの小ささといった制約はあるものの、小6から中1にかけての子どもの生活行動の変化の実態を垣間見ることができた。北田・大多和（2007）は、メディアの善玉論・悪玉論の対立図式から脱却し、メディアと子どもの複雑な関連を明らかにすることが提唱している。このことは、メディアに限らず、部活動や通塾についても当てはまる。本稿の分析からは、部活動・通塾・ケータイ所有について、生活時間との関連の限定性や、ポジティブともネガティブとも言い切れない生活状況との関連の実態が見出された。今後の課題としては、本稿で分析した各要素と学力との関連の分析、中2以降の変化の実態分析などが挙げられる。特に、「中だるみ」の時期として知られ、須藤（2013）によって授業理解度の格差が拡大する時期であることが示されている中2についての分析は重要だろう。引き続き、精緻な調査・研究が求められる。

〔注〕

- 1) テレビ時間変化とゲーム時間変化の相関係数は 0.231、テレビ時間変化とケータイ時間変化の相関係数は 0.135、ゲーム時間変化とケータイ時間変化の相関係数は 0.168 であった。すべて t 検定において、 $p < 0.01$ で統計的に有意であった。
- 2) フィッシャーの直接検定では、試行サイズ 10000 のモンテカルロ法によって、正確有意確率を算出している。モンテカルロ法とは、乱数を複数回発生させて、より正確な確率を求める方法である。
- 3) 小6時では、男子のほうが朝食を食べない割合が高いが、中1時では、むしろ女子のほうが朝食を食べない割合が高くなっている。中学校段階になり、男子の食欲が旺盛になること、女子が朝の身支度に時間がかかるようになることなどが背景にあるのかもしれない。
- 4) ただし、部活動と「決まった時間に就寝する」の関連は統計的に有意ではないものの、クロス表のパーセントを見ると、部活動加入者は、決まった時間に就寝する習慣が特に乱れやすい傾向が読み取れる。部活動が夜の生活習慣の乱れにつながる可能性については、今後検証の余地がある。
- 5) ただし、ケータイ所有と「決まった時間に就寝する」の関連は統計的に有意ではないものの、クロス表のパーセントを見ると、ケータイを手放した者は、決まった時間に就寝する習慣が相対的に乱れづらい傾向が読み取れる。ケータイを手放すことが夜の生活習慣の乱れの防止につながる可能性については、今後検証の余地がある。

【参考文献】

- ベネッセ教育総合研究所編, 2014, 『中高生の ICT 利用実態調査 2014 報告書』ベネッセコーポレーション.
- ベネッセ教育総合研究所編, 2015, 『第 2 回 放課後の生活時間調査 報告書』ベネッセコーポレーション.
- 土井隆義, 2014, 『つながりを煽られる子どもたちーネット依存といじめ問題を考える』岩波ブックレット.
- 藤田武志, 2006, 「勉強や進学希望と部活動」西島央編『部活動ーその現状とこれからのあり方』学事出版, 84-98.
- 林川友貴, 2015, 「中学生の学校適応メカニズムの実証的検討ー学級と部活動に着目して」『教育社会学研究』97, 5-24.
- 苅谷剛彦, 2001, 『階層化日本と教育危機ー不平等再生産から意欲格差社会へ』有信堂.
- 北田暁大・大多和直樹, 2007, 「子どもとニューメディア 序論」北田暁大・大多和直樹編『子どもとニューメディア』日本図書センター, 3-18.
- 須藤康介, 2013, 『学校の教育効果と階層ー中学生の理数系学力の計量分析』東洋館出版.
- 鈴木翔, 2012, 『教室内カースト』光文社新書.

第4章 小中学生のいじめ規範意識の差異とその変化 ——小学6年生と中学1年生のパネルデータを用いた分析——

堤孝晃（東京大学）

本章では、小学6年生および中学1年生のそれぞれがもついじめ規範意識を把握し両者を比較するとともに、その変化と関連の深い要因を明らかにすることを目的として、パネルデータを用いた分析を行った。独立変数として使用したのは、「性別」・「自己肯定感」・「学校適応」・「成績」・「学習のレリバンス意識」・「教師からの承認」・「家族関係」・「通塾状況」・「部活への参加度」・「友人関係」・「スクールカースト自認」・「友人分離志向」・「教師への信頼」の13項目である。小中学生のいじめ規範意識に関連の強い項目を検討し、さらにいじめ規範意識の強化／弛緩に、性別・学校適応・家族関係・部活の参加度が関連していることが明らかになった。

1. 本章の目的

本章の目的は、小学生と中学生のいじめに対する規範意識のありようを把握し比較するとともに、そのいじめ規範意識の変化がどのような要因の変化とともに生じているのかを明らかにすることにある。

1.1 問題設定

いじめは、1980年代以降、学校内部で生じるもっとも大きな教育問題のひとつとして論じられ（伊藤 1996）、繰り返し生じるいじめ自殺およびその報道などによって注目を集め続けている（北澤 2015 など）。これを受け 2013 年 9 月 28 日には、いじめ防止対策推進法が施行された。同法第一条には、「いじめが、いじめを受けた児童等の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがある」と、その問題性が明記されており、これを受け各学校現場もより適切な対応を求められる状況にある（文部科学省初等中等教育局児童生徒課 2015a など）。

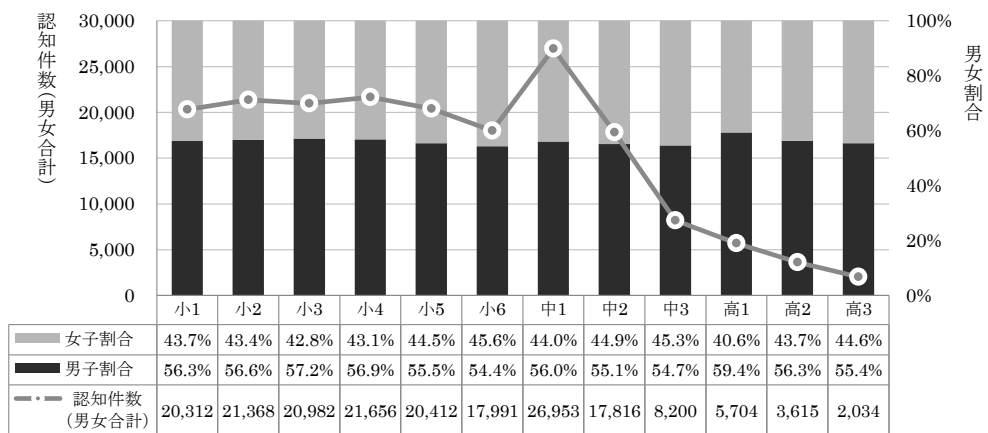
いじめについては、教育社会学を中心に多くの研究が積み重ねられてきた。しかし、いじめはその性質上、実態を正確に把握することが極めて難しく、原因および対策についてもさまざまな説が対立する状況である（内藤 2009; 北澤 2015 など）。後述する通り、いじめを対象とする議論は、集団と個人との関係に広く目配せが必要であり、児童・生徒のいじめに関する規範意識を明らかにすることも、さまざまな検討を行う上でのひとつの材料を提供するという点において意義は小さくないだろう。

本章の設定する課題を端的に示すのが、2014 年度調査によるいじめの認知件数を学年に

別に示し、さらにその男女比を加えた図表 4-0 である。どの学年を通して、一貫して男子のほうがいじめにかかわる割合が高いことも重要であるが、本章が着目するのは、中学 1 年生の認知件数の多さである。中 1 でのいじめ認知件数は 26,953 件と、全学年を通してもっとも多く、さらに小学校 6 年生の 17,991 件から跳ね上がっていることがわかる。ここでは、いじめに関する意識にも何らかの変化が見受けられるのではないだろうか。

小学校 6 年生と中学校 1 年生では、児童・生徒のもつ規範意識がどのように異なり、またどのような変化が生じているのかを明らかにすることが、本章の取り組む課題である。これは、第 5 章でも検討されている中 1 ギャップと呼ばれる教育問題に関する分析の一つとしても位置付けられる。

図表 4-0 2014 年度の学年別いじめの認知件数と男女割合（国公私立）



注) 文部科学省初等中等教育局児童生徒課(2015b)、p. 9より作成

1.2 先行研究の整理

教育問題の中心的位置にあるいじめは、教育社会学を中心に多くの研究が積み重ねられてきたが、前述した通りその主張は一樣ではない。しかし、森田洋司がいじめ集団の 4 層構造論（森田・清水 1994）を示して以降、多くの研究に概ね共通して了解されていることは、いじめを被害者と加害者という当事者間の問題としてのみ捉えるのではなく、観衆や傍観者、あるいは教師やその他アクターを含めた広く集団としてのありかたが問われなければならないという点である。

例えば橋本摂子（1999）は、小学校から中学校へ移行するにしたがっていじめがエスカレートする原因を、傍観者のかかわり合いの変化によると論じている。学級集団の凝集性が高く発生したいじめにとっての傍観者が仲裁者となりやすい小学校と異なり、中学校ではいじめの深刻化を阻止する仲裁者が現れにくい。これを踏まえ橋本は、いじめ被害者を

孤立させない学級づくりが必要だと論じており、相対的には日本の学級秩序の維持ないし強化を求めているといえる。ただし、橋本はこれを懐古的インタビューによって分析しており、実際に追跡調査を行ったわけではない。

加えて、いじめについての実証研究と実践的なインプリケーションを積極的に発信している滝は、「程度の差こそあれ常に何がしかのいじめが発生している状況下では、その原因や背景に『教育の欠如』（学校教育に限らず、家庭や地域も含め）を認めるしかあるまい」（滝 2008: 22）という。いじめの事前防止のためにはいじめの予兆を見逃さないことが重要であると論じ、「居場所づくり」や「絆づくり」、また自己有用感を高め「ストレスがあってもいたずらに他者を攻撃しない子どもに育つようにする」（滝 2013: 49）ことを求めている滝の主張は、橋本の主張と重なるところが多い。

これに対し内藤朝雄（2009 など）は、傍観者としての生徒のみならず、教師を含めた学級という集団そのものの性質がいじめを生じさせる原因であると論じている。学級は、その閉鎖的な性質によって市民社会とは異なった、いじめを肯定する特有の規範を作り出し、してしまうため、学級制度を根本的に作りなおすことを論じている。

日本的な学級の秩序を維持ないし強化するのか、あるいはそれを解体するのかという点で、橋本・滝と内藤はまったく異なった処方箋を提出している。しかし、いじめを児童・生徒をとりまく人間関係のなかで捉えるべきことは共通しているといえるだろう。

また、橋本や内藤を含めいじめに関する研究は、フィールドワークやインタビューといった質的調査法によって分析されることが多いが、本章と同様に計量的に分析したのが鈴木翔（2015）である。鈴木は「社会的勢力」という概念を用いながら、いじめを拒否するような、規範意識を高く持つ生徒は業績と思いやりに自信を持つ傾向があることを示している。その上で、そうした高いいじめ規範意識をもつ生徒は、学級集団内で支持を集めたり自己主張をしにくいため、いじめ規範意識の高さがいじめを止める動きにつながらないと論じている。鈴木も自身で課題として述べているように、この議論はあくまで個人のもつ諸特性と規範意識を扱っているという点で、人間関係そのものを分析に組み込めていないという限界はあるが、規範を伝える影響力を考慮している点で新たな視点を示しているといえる。ただし、鈴木が議論した「業績」という観点は、本人が「まじめさ」や「賢さ・頭の良さ」、「忍耐力・努力家」であることを誇りと感じているかによって作成された指標であり、実際の学業成績との関連を直接議論することはできていない。

1.3 本章の課題

以上を受け本章は、子どもたちのいじめ規範意識を、大きく以下の3つの観点から把握することを目指す。まずひとつは、自己肯定感¹⁾や学級・学校への適応といった全般的な項目である。これは、日本的な学級秩序を重視する橋本や滝の議論から得られた視点である。また鈴木が議論していた業績との関係をより詳細に把握するために、「学習への適応」

との関連を検討する。そして、いじめ研究の基本的観点である生徒を取り巻く「人間関係」を取り上げる。これらの側面から、小6児童および中1生徒のいじめ規範意識がどのように異なっており、またどのような変化と関連が強いのかを明らかにすることが本章の課題である。

本章は、あくまでいじめ規範意識のみを扱っており、鈴木の分析した影響力も、子どもたちを取り巻く環境そのものも分析に組み込んでいるわけではない。しかし、小6と中1のパネル調査データを用いることにより変化を把握できる点、また実際の成績との関連を議論できるという点で一定の意義があるだろう。ただし、中学1年生の調査時期が7月であるため、まだ中学入学の影響が現れていない可能性もある。実際には、中学2年生以降の調査データを合わせて分析を行う必要がある。そのため本章は、次年度以降の分析の準備段階として探索的性格の強いものとなる。

2. 「いじめ規範意識」の基本的分布と独立変数の確認

前述の通り、本章はいじめに関する規範意識の小学生と中学生の比較および変化を捉えることを目的としている。そこで本節では、従属変数となるいじめ規範意識の分布を確認しておくとともに、その操作的定義を示しておく。また、次節以降の分析で使用する独立変数の操作的定義についても確認を行う。なお分析に際しては、小学校と中学校で共通して在籍している児童・生徒、597名のみを対象とした。

2.1 従属変数である「いじめ規範意識」の基本的分布

本調査では、小中ともに、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」と尋ねる質問に、「あてはまる」から「あてはまらない」の4段階で回答された項目が設定されている。この回答の分布を図表4・1に示した。本章ではこれをいじめに関する規範意識を捉える質問として利用する。

分析対象の全児童・生徒597名のうち、小学生の有効回答は572、中学生の有効回答は581である。分布としては、「あてはまる」が小学生で81.8%、中学生で78.7%と極めて多数を占め、ほとんどの生徒がいじめがいけないことだと答えていることがわかる。このように極めて偏りが大きいため、「あてはまる」と回答したものをいじめ規範意識が「高い」、それ以外と回答したものを「低い」とした二値変数を用いて分析を進めていく。

本章にとって重要なのは、小学生と中学生の変化である。小学生と中学生を比べると、「あてはまる」と強いいじめを否定する（いじめ規範意識が「高い」）割合が3.1%減少しているが、この変化は統計的に有意な変化とはいえない。つまり、中学生に進学した7月時点での全体傾向としては、いじめに関する規範の大きな緩みはみられない。少なくともこの質問への回答に関する限り、生徒の大半が高い規範意識をもっていることを基本的な前提として確認しておく。

しかし、これは小学生と中学生を全体としてみた場合の比較であり、個々の生徒の変化は捉えられていない。図表 4-1 による比較は、いじめをより強くいけないことだと感じるようにいじめ規範意識が「強化」された生徒の割合と、相対的にいじめをいけないことだと感じなくなるようにいじめ規範意識が「弛緩」した生徒の割合が相殺された結果の数字を示している。

図表 4-1 小学生と中学生のいじめ規範意識の分布

小学生				中学生			
いじめ規範意識		いじめ規範意識(二値)		いじめ規範意識		いじめ規範意識(二値)	
あてはまる	81.8% (468)	81.8% (468)	高い	あてはまる	78.7% (457)	78.7% (457)	高い
どちらかといえばあてはまる	0.9% (5)	18.2% (104)	低い	どちらかといえばあてはまる	2.8% (16)	21.3% (104)	低い
どちらかといえばあてはまらない	3.3% (19)			どちらかといえばあてはまらない	3.6% (21)		
あてはまらない	14.0% (80)			あてはまらない	15.0% (87)		
合計	100% (572)	100% (572)	合計	合計	100% (581)	100% (581)	合計

そこで、変化を追跡するために、個々人の小学 6 年生時と中学 1 年生時の回答をクロス集計（全体%）した結果を、図表 4-2 に示した。左上から右下にかけての 4 つの対角セルは、小学生と中学生で回答に変化がなかった群である。これに対し、左下の 6 つのセルはより強いいじめがいけないことだと答えるようになった（つまり規範意識が「強化」された）群、右上の 6 つのセルは規範意識が「弛緩」した群であるといえる。

図表 4-2 小学生と中学生のいじめ規範意識のクロス集計（全体%）

		[中学生] いじめ規範意識			
		あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
い じ め 小 学 生 の 規 範 意 識	あてはまる	69.6% (387)	8.6% (48)	2.0% (11)	1.6% (9)
	どちらかといえばあてはまる	7.6% (42)	4.9% (27)	1.3% (7)	0.5% (3)
	どちらかといえばあてはまらない	1.4% (8)	1.3% (7)	0.0% 0	0.4% (2)
	あてはまらない	0.2% (1)	0.2% (1)	0.2% (1)	0.4% (2)

この変化を 3 つの群別にまとめた割合を、図表 4-3 に示した。図表 4-1 では全体としてそれほど大きな変化が見られないようにみえたが、個々人を追跡すると変化がなかったの

は 74.8%である。そのうち 93.4%（全体に対し 69.6%）は、いずれも「あてはまる」と答え高い規範意識を維持しており、生徒の規範意識は高い水準にあることは変わりはない。しかし、全体の中には規範意識が「強化」されたものが 10.8%、逆に「弛緩」したものが 14.4%おり、一定の変化が含まれた結果であったことが確認できる。

図表 4-3 いじめ規範意識の変化の分布

	弛緩	変化なし	強化	合計
%	14.4%	74.8%	10.8%	100.0%
N	(80)	(416)	(60)	(556)

以上において、第 1 に、小中ともに大半の生徒が高いいじめ規範意識をもっており、全体としてみた場合には小学生と中学生で大きな変化がないこと、ただし第 2 に、個々の生徒を追跡すると一定割合のいじめ規範意識の変化が含まれていたことを確認した。

2.2 分析課題の設定と独立変数の確認

次に本項では、分析に用いる独立変数を確認しておこう。

小・中学生の分析を行う際に注意が必要なのは、分析に用いる独立変数が、小・中学生で共通した質問項目によって変化が観測できるものと、中学生のみに尋ねられており変化は観測できないが、極めて重要だと考えられるものの 2 種類に分けられることである。

以下で説明する「自己肯定感」・「学校適応」・「成績」・「学習のレリバンス意識」・「教師からの承認」・「家族関係」・「通塾状況」は小中学校で共通に尋ねられているため、この 7 項目については小学生と中学生を同時に提示し比較を行う。一方、「部活への参加度」・「友人関係」・「カースト自認」・「友人分離志向」・「教師への信頼」の 5 項目については中学生のみに尋ねているために小中の比較は難しい。しかし、いじめ規範意識と極めて関連が強いと考えられるため、中学生の結果のみを対象に分析を行うこととする。

2.2.1 小中学生それぞれに関する分析で用いる独立変数

「全般的な項目」・「学習への適応」・「人間関係」の大きく 3 つの観点から分析を行う。

まず「全般的な項目」として使用するのが、「性別」・「自己肯定感」・「学校適応」の 3 点である。

次に「学習への適応」として、国語と算数・数学を平均した「成績」と教科で学習したことが役に立つと思うかどうかを尋ねた「レリバンス意識」を使用する。ただし、この変数の作成は、小中学生で大きく異なるため注意が必要である。

最後に「人間関係」として、教師から認められていると感じているかという「教師からの承認」、家族とコミュニケーションが取れているかという「家族関係」、学校外のコミュ

ニティを持っているかを問う「通塾状況」を用いる。ここで一点注意が必要なのは、「教師からの承認」で用いている質問文が、小学生では現在のことを尋ねているのに対し、中学生へは過去を含めたこれまでのことを尋ねており時制が一致しない点である。

以上、これら変数は小中学生に共通して用いる変数である。

さらに、中学生のみに尋ねている重要な質問を説明しておく。まず、中学生になって大きく変化するのが部活動であろう。小学校では部活動で本格的に活動することは少ないが、中学校においては生徒同士の学校内での人間関係を大きく左右する（林川 2015 など）。そ

図表 4-4 小学生・中学生のいじめ規範意識との関連を検討する独立変数一覧

変数名	対象	変数の説明
性別	小学生・中学生	男子=0、女子=1として女子ダミーを作成した。
自己肯定感	小学生・中学生	自分にはよいところがあると思うかどうかを尋ねた質問に対する回答(4件法)。
学校適応	小学生・中学生	学校が楽しいかどうかを尋ねた質問(4件法)。
成績(連続)	小学生	小学6年生の国語と算数のスコアの平均。クロンバックの α は0.861。
	中学生	中学1年生の国語と数学のスコアの平均。クロンバックの α は0.822。
成績(順序)	小学生・中学生	上記で作成した「成績」の3分位から、「上位層／中位層／下位層」の3値変数を作成。
レリバンス意識	小学生	国語、算数、総合の3教科に関して「授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つ」と思うかどうかを尋ねた3つの質問の回答(4件法)から主成分分析を行い第一成分を使用。詳細は、注2を参照のこと。なお、3つの変数のクロンバックの α は、0.646。
	中学生	「学習して身につけた知識は、いずれ仕事や生活の中で役に立つと思う」と尋ねた質問に対する回答(4件法)。
レリバンス意識(順序)	小学生	上記で作成した小学生のレリバンス意識の4分位から、「役に立たない=1」～「役に立つ=4」の4値変数を作成。
教師からの承認	小学生	「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と尋ねた質問に対する回答(4件法)。
	中学生	「今まで教えてもらった学校の先生は、自分のことを認めてくれていたと思う」と尋ねた質問に対する回答(4件法)。
家族関係	小学生・中学生	家の人と学校での出来事について話をするかどうかについて尋ねた質問に対する回答(4件法)。
通塾状況	小学生・中学生	学習塾で勉強しているかどうかを尋ねる質問の回答から、内容にかかわらず「学習塾に通っている／学習塾に通っていない」の2値変数を作成。
部活への参加度	中学生	運動部・文化部の別にかかわらず、「部活動に参加し、熱心に活動している」および「運動部と文化部の両方に参加している」を「熱心に活動している」とし、部活動に「参加しているが、あまり熱心には活動していない」および「部活動に参加していない」を「熱心に活動していない」とし、2値変数を作成。
友人関係	中学生	「学校の友だちとうまくやれていると思う」と尋ねる質問に対する回答(4件法)。
カースト自認	中学生	「クラスの中で馬鹿にされていると感じることがある」かどうかを尋ねる質問に対する回答(4件法)。
友人分離志向	中学生	「いつも一緒にいる友だちグループ以外の人とは、特に仲良くしたいとは思わない」と尋ねる質問に対する回答(4件法)。
教師信頼	中学生	「学校の先生たちの言うことは信頼できと思う」と尋ねる質問に対する回答(4件法)。

ここで「部活動への参加度」を変数として利用する。ここで、熱心に活動しているかどうかの「参加度」を使用するのは、部活動へ加入していない生徒が 7.5%（45 名）と極めて少なく、分析に耐えられないためである。

次に、友達とうまくやれていると思うかという「友人関係」、クラスのなかで馬鹿にされていると感じるかどうかの「スクールカースト自認」、いつも一緒にいる友だちグループ以外のひとと仲良くしたいと思うかどうかの「友人分離志向」を使用する。鈴木翔（2012）は、スクールカーストをいじめへ発展する可能性をもつ学級秩序であると論じており、スクールカースト自認や友人分離志向が、いじめ規範と意識上でつながりをもつかどうかは、いじめの実態をより深く把握する上で重要である。さらに、生徒にとって重要な人間関係のうちのひとつのアクターとして、教師を信頼できているかにも着目する。

なお、クロス集計では作成した連続変数³⁾をカテゴリ化して使用していることがある。操作的定義の具体的な説明は、一覧として図表 4-4 に示した。

2.2.2 変化の分析で用いる独立変数

次に、小中学校間での変化を分析する 2 つ目の課題で用いる独立変数を説明する。

従属変数の変化に対応する独立変数の変化が必要であり、小中の共通質問を用いることになる。しかし、「レリバンズ意識」は作成方法がまったく異なるため単純に差異をとって変化を分析することができない。したがって、「自己肯定感変化」・「学校適応変化」・「成績変化」・「教師からの承認変化」、「家族関係変化」、「家族関係変化」の 5 項目を用いる。さらに、小学校には中学同様の本格的な部活動はないため「部活変化」を、変化を捉える変数として使用する。これについても図表 4-5 に操作的定義の一覧を示している。

図表 4-5 いじめ規範意識の変化との関連を検討する独立変数一覧

変数名	変数の説明
自己肯定感変化	「自己肯定感」について、中学生の点数から小学生の点数を引き算。
自己肯定感変化 (カテゴリ)	上記で作成した「自己肯定感変化」について、-3~-1 を「低下」、0 を「変化なし」、1~3 を「上昇」とし 3 値変数を作成。
学校適応変化	「学校適応」について、中学生の点数から小学生の点数を引き算。
学校適応変化 (カテゴリ)	上記で作成した「学校適応変化」について、-3~-1 を「低下」、0 を「変化なし」、1~3 を「上昇」とし 3 値変数を作成。
成績変化スコア	中学生の「成績(連続)」から小学生の「成績(連続)」を引き算し作成。
成績変化	上記で作成した「成績変化スコア」について、0 を起点に「低下／上昇」の 2 値変数を作成。
教師からの承認変化	「教師からの承認」について、中学生の点数から小学生の点数を引き算。
教師からの承認変化 (カテゴリ)	上記で作成した「教師からの承認変化」について、-3~-1 を「低下」、0 を「変化なし」、1~3 を「上昇」とし 3 値変数を作成。
家族関係変化	「家族関係」について、中学生の点数から小学生の点数を引き算。
家族関係変化 (カテゴリ)	上記で作成した「家族関係変化」について、-3~-1 を「低下」、0 を「変化なし」、1~3 を「上昇」とし 3 値変数を作成。
通塾状況変化	小学生と中学生の「通塾状況」を組み合わせ、「小中ともに通っていない／中学でやめた／中学で通塾開始／塾に通い続けている」の 4 値変数を作成した。
部活変化	「部活への参加度」をそのまま使用。

3. 小学生および中学生のいじめ規範意識とその比較

本節では、小学生および中学生のそれぞれのいじめ規範意識と諸変数との関連を検討し、それらを比較する。分析は、まず各独立変数との関連をクロス集計で検討した後、それらを相互に統制してロジスティック回帰分析によって総合的に確認を行う。

3.1 クロス集計による小中学生の比較分析

ここでは、小中学生で比較可能な変数について、大きく3つの観点から順にクロス集計にて関連を確認する。

3.1.1 全般的な項目

まず図表4-6に、「性別」との関係を示した。男子よりも女子のほうが、有意にいじめ規範意識が高い。また、その傾向は小学生と中学生で大きく変化はみられない。図表4-0でみた認知件数の男女比の傾向と一致した結果である。

図表 4-6 小学生および中学生のいじめ規範意識と「性別」の関係

		いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
		低い	高い		
小学 校	男子	22.3%	77.7%	100.0%	(305)
	女子	13.5%	86.5%	100.0%	(267)
	合計	18.2%	81.8%	100.0%	(572)
	独立性のカイ二乗検定	p=0.006			
		いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
		低い	高い		
中学 校	男子	26.6%	73.4%	100.0%	(305)
	女子	15.6%	84.4%	100.0%	(276)
	合計	21.3%	78.7%	100.0%	(581)
	独立性のカイ二乗検定	p=0.002			

次に、図表4-7に「自己肯定感」との関係を示した。小学生、中学生のいずれでも有意な関連が見られ、自己肯定感が高いほうがいじめ規範意識も高い。

図表4-8には、学校に行くのが楽しいと感じているかどうかという「学校適応」との関係を示した。小・中学生のいずれにおいても概ね学校に行くのが楽しいと感じているほど、有意にいじめ規範意識が高い。ただし中学生では、いじめ規範意識が高い生徒が「どちらかといえばあてはまらない」場合に74.7%、「どちらかといえばあてはまる」場合に71.0%と傾向が逆転しており、小学校から中学校に移行することで関連が若干弱くなった可能性がある。

図表 4-7 小学生および中学生のいじめ規範意識と「自己肯定感」の関係

	いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
	低い	高い		
小学校	あてはまらない	32.4%	67.6%	100.0% (37)
	どちらかといえばあてはまらない	24.0%	76.0%	100.0% (100)
	どちらかといえばあてはまる	19.0%	81.0%	100.0% (247)
	あてはまる	10.7%	89.3%	100.0% (187)
	合計	18.0%	82.0%	100.0% (571)
独立性のカイ二乗検定 p=0.002				
	いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
	低い	高い		
中学校	あてはまらない	32.8%	67.2%	100.0% (58)
	どちらかといえばあてはまらない	27.7%	72.3%	100.0% (112)
	どちらかといえばあてはまる	21.7%	78.3%	100.0% (249)
	あてはまる	12.8%	87.2%	100.0% (156)
	合計	21.6%	78.4%	100.0% (575)
独立性のカイ二乗検定 p=0.003				

図表 4-8 小学生および中学生のいじめ規範意識と「学校適応」の関係

	いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
	低い	高い		
小学校	あてはまらない	35.3%	64.7%	100.0% (34)
	どちらかといえばあてはまらない	32.9%	67.1%	100.0% (70)
	どちらかといえばあてはまる	20.0%	80.0%	100.0% (210)
	あてはまる	10.5%	89.5%	100.0% (258)
	合計	18.2%	81.8%	100.0% (572)
独立性のカイ二乗検定 p=0.000				
	いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
	低い	高い		
中学校	まったくあてはまらない	52.2%	47.8%	100.0% (46)
	あまりあてはまらない	25.3%	74.7%	100.0% (75)
	まああてはまる	29.0%	71.0%	100.0% (183)
	とてもあてはまる	10.1%	89.9%	100.0% (277)
	合計	21.3%	78.7%	100.0% (581)
独立性のカイ二乗検定 p=0.000				

3.1.2 学習への適応に関する項目

次に、学習に対する適応といじめ規範意識の関連を検討しよう。

図表 4-9 に、国語と算数・数学の「成績」との関係を示した。小学生および中学生のいずれにおいても「成績」との関連は見出されない。

図表 4-10 に、学校の学習が役に立つと思うかどうかの「レリバンズ意識」との関係を示した。主成分分析によって作成した変数を用いている小学生と、1 つの質問の回答をそのまま用いている中学生では単純な比較はできないが、いずれにおいても役に立つと感じるほど有意に規範意識が高いことはわかる。

図表 4-9 小学生および中学生のいじめ規範意識と「成績」の関係

		いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
		低い	高い		
小 学 校	下位	17.3%	82.7%	100.0%	(191)
	中位	19.6%	80.4%	100.0%	(189)
	上位	17.5%	82.5%	100.0%	(189)
	合計	18.1%	81.9%	100.0%	(569)
独立性のカイ二乗検定		p=0.812			
		いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
		低い	高い		
中 学 校	下位	21.6%	78.4%	100.0%	(190)
	中位	20.5%	79.5%	100.0%	(195)
	上位	21.6%	78.4%	100.0%	(194)
	合計	21.2%	78.8%	100.0%	(579)
独立性のカイ二乗検定		p=0.954			

図表 4-10 小学生および中学生のいじめ規範意識とレリバンス意識の関係

		いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
		低い	高い		
小 学 校	国語・算数・総合が役に立つ				
	役に立たない	29.7%	70.3%	100.0%	(145)
	どちらかといえば役に立たない	24.1%	75.9%	100.0%	(137)
	どちらかといえば役に立つ	8.2%	91.8%	100.0%	(85)
	役に立つ	10.2%	89.8%	100.0%	(205)
合計		18.2%	81.8%	100.0%	(572)
独立性のカイ二乗検定		p=0.000			
		いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
		低い	高い		
中 学 校	学習して身につけた知識は、いずれ 仕事や生活の中で役に立つと思う				
	まったくあてはまらない	54.2%	45.8%	100.0%	(24)
	あまりあてはまらない	36.8%	63.2%	100.0%	(68)
	まああてはまる	25.4%	74.6%	100.0%	(197)
	とてもあてはまる	12.3%	87.7%	100.0%	(292)
合計		21.3%	78.7%	100.0%	(581)
独立性のカイ二乗検定		p=0.000			

以上の分析から、成績にかかわりなく、学習に意味を見出している（レリバンスを感じている）生徒は高い規範意識を持っていることがわかる。いじめ規範意識と関連しているのは、実際の点数で測ることのできる「学力」ではなく、その捉え方である。

3.1.3 人間関係に関する項目

人間関係のあり方といじめ規範意識との関係を検討する。

まず図表 4-11 に、先生から認められていると感じているかどうかとの関係を示した。小学生、中学生のいずれにおいても有意な関連がみられ、先生から認められていないと感じていると顕著にいじめ規範意識が低い。この傾向は中学生の方がより強いが、質問文によって生じた違いである可能性があることには注意が必要である。また、もう一点注意が必

要なのは、教師が生徒を認めるか否かは、教師の働きかけだけで決まるのではなく、生徒の状態にも左右されることである。教師が認めやすいさまざまな「よさ」を生徒が持っているほど、教師は生徒を「よい」と認めやすいだろうし、それによって生徒も教師から認められていると感じやすい。生徒の状況との関連を含め、慎重に検討を行う必要がある。

図表 4-11 小学生および中学生のいじめ規範意識と教師からの承認の関係

	先生は、あなたのよいところを認めてくれている	いじめ規範意識（二値）		合計	有効度数
		低い	高い		
小学校	あてはまらない	38.7%	61.3%	100.0%	(31)
	どちらかといえばあてはまらない	19.8%	80.2%	100.0%	(86)
	どちらかといえばあてはまる	24.2%	75.8%	100.0%	(244)
	あてはまる	7.2%	92.8%	100.0%	(209)
	合計	18.1%	81.9%	100.0%	(570)
独立性のカイ二乗検定		p=0.000			
	今まで教えてもらった学校の先生は、自分のことを認めてくれていたと思う	いじめ規範意識（二値）		合計	有効度数
		低い	高い		
中学校	まったくあてはまらない	45.9%	54.1%	100.0%	(37)
	あまりあてはまらない	26.0%	74.0%	100.0%	(104)
	まああてはまる	20.2%	79.8%	100.0%	(277)
	とてもあてはまる	14.9%	85.1%	100.0%	(161)
	合計	21.4%	78.6%	100.0%	(579)
独立性のカイ二乗検定		p=0.000			

次に図表 4-12 に、家の人と話をするかどうかという「家族関係」との関係を示した。小学生、中学生のいずれにおいても有意な関連がみられ、家の人とよく話をするほうが顕著に規範意識が高い。ただし、この傾向は中学生のほうが弱く、中学校に進学することで家族関係と規範意識との関係が弱まった可能性がある。

図表 4-12 小学生および中学生のいじめ規範意識と家族関係の関係

		いじめ規範意識（二値）		合計	有効度数
		低い	高い		
小学校	あてはまらない	62.5%	37.5%	100.0%	(16)
	どちらかといえばあてはまらない	23.4%	76.6%	100.0%	(111)
	どちらかといえばあてはまる	19.3%	80.7%	100.0%	(166)
	あてはまる	12.9%	87.1%	100.0%	(279)
	合計	18.2%	81.8%	100.0%	(572)
独立性のカイ二乗検定		p=0.000			
		いじめ規範意識（二値）		合計	有効度数
		低い	高い		
中学校	あてはまらない	36.7%	63.3%	100.0%	(49)
	どちらかといえばあてはまらない	27.4%	72.6%	100.0%	(62)
	どちらかといえばあてはまる	22.8%	77.2%	100.0%	(167)
	あてはまる	16.6%	83.4%	100.0%	(295)
	合計	21.3%	78.7%	100.0%	(573)
独立性のカイ二乗検定		p=0.006			

最後に、塾に通っているかどうかの「通塾状況」との関係を図表 4-13 に示した。小学生では有意な関連がみられ、塾に通っているほうが規範意識が高い。一方、中学生でも同様の関連は見られるが傾向は弱まっており、有意ではなくなっている。

図表 4-13 小学生および中学生のいじめ規範意識と通塾状況の関係

		いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
		低い	高い		
小学 校	通っていない	21.5%	78.5%	100.0%	(307)
	通っている	14.3%	85.7%	100.0%	(265)
	合計	18.2%	81.8%	100.0%	(572)
Fisher の直接法		p=0.030			
		いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
		低い	高い		
中学 校	通っていない	22.1%	77.9%	100.0%	(289)
	通っている	19.9%	80.1%	100.0%	(287)
	合計	21.0%	79.0%	100.0%	(576)
Fisher の直接法		p=0.540			

3.2 クロス集計による中学生の分析

ここまで、小学生と中学生で比較が可能な共通の質問項目を用いた分析を行った。次に本項では、中学生のみに尋ねた「部活動への参加度」、「友人関係」、「スクールカースト自認」、「友人分離志向」、「教師への信頼感」の 5 つの質問との関係を検討しよう。

まず図表 4-14 に、「部活動への参加度」との関係を示した。部活動の参加度といじめ規範意識の間には有意な関連がみられない。ただし、小学校では体験しない本格的な部活動を始めてまだ 3 ヶ月ほどしか経過しておらず影響が弱い可能性もあるため軽視はできないが、少なくとも中学 1 年生の 7 月段階では、部活動と規範意識との関連は大きくない。

図表 4-14 中学生の部活への参加度の関連

		いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
		低い	高い		
中学 校 の み	熱心に活動していない	26.4%	73.6%	100.0%	(91)
	熱心に活動している	20.4%	79.6%	100.0%	(486)
	合計	21.3%	78.7%	100.0%	(577)
Fisher の直接法		p=0.338			

図表 4-15 に、「友人関係」との関係を示した。友達とうまくやれていないと答えたのが 16 名と少数であるが、規範意識の高い割合が 62.5%まで落ち込み、逆にうまくやれている場合には 84.0%であることから、友達と良好な関係が築けているほど高い規範意識をもつ傾向にあるといえ、統計的にも有意な結果である。しかし、規範意識が高い割合が、「どちらかといえばあてはまらない」場合に 76.2%、「どちらかといえばあてはまる」場合に 71.8%と傾向が逆転しており、その関係は単純ではない。

図表 4-15 中学生のいじめ規範意識と友人関係の関連

	学校の友だちとうまくやれていると思う	いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
		低い	高い		
中 学 校 の み	あてはまらない	37.5%	62.5%	100.0%	(16)
	どちらかといえばあてはまらない	23.8%	76.2%	100.0%	(42)
	どちらかといえばあてはまる	28.2%	71.8%	100.0%	(209)
	あてはまる	16.0%	84.0%	100.0%	(306)
	合計	21.6%	78.4%	100.0%	(573)
独立性のカイ二乗検定		p=0.004			

また図表 4-16 に、「スクールカースト自認」といじめ規範意識との関係を示した。ここには有意な関連がみられない。友達とうまくやれているかという「友人関係」についても関連が明確でなかったことを考慮すると、いじめ規範意識は、自身の置かれた現状とはかわりなく形成・維持される性質があるとも考えられる。

図表 4-16 中学生のいじめ規範意識とスクールカースト自認の関連

	クラスの中で馬鹿にされていると 感じることもある	いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
		低い	高い		
中 学 校 の み	あてはまらない	17.6%	82.4%	100.0%	(233)
	どちらかといえばあてはまらない	23.8%	76.2%	100.0%	(193)
	どちらかといえばあてはまる	26.3%	73.7%	100.0%	(95)
	あてはまる	21.3%	78.7%	100.0%	(47)
	合計	21.5%	78.5%	100.0%	(568)
独立性のカイ二乗検定		p=0.258			

次に図表 4-17 に、広く友好関係を持つ必要があるかどうかという「友人分離志向」との関係を示した。ここには有意な関連が見られ、仲の良い友人グループ以外とは親しくする必要が無いと考える友人分離志向が高いほど規範意識が低い。誰とでも仲良くするべきだと考える協調性規範といじめの是非に関する規範意識は必ずしも一致するわけではないが、ここでは協調性がいじめ規範と関連していることが確認できる。

図表 4-17 中学生のいじめ規範意識と友人分離志向の関連

	いつも一緒にいる友だちグループ以外の 人とは、特に仲良くしたいとは思わない	いじめ規範意識（二値）		合計	有効 度数
		低い	高い		
中 学 校 の み	あてはまらない	13.3%	86.7%	100.0%	(264)
	どちらかといえばあてはまらない	24.5%	75.5%	100.0%	(216)
	どちらかといえばあてはまる	37.9%	62.1%	100.0%	(66)
	あてはまる	31.3%	68.8%	100.0%	(32)
	合計	21.3%	78.7%	100.0%	(578)
独立性のカイ二乗検定		p=0.000			

最後に、教師に対する信頼感との関係を図表 4-18 に示した。統計的に有意な関連が見られ、教師への信頼度が高いほど規範意識も顕著に高い。特に「あてはまる」と答えた場合には 95.1%と極めて高い割合で高い規範意識を持っており、教師への信頼感といじめ規範意識が強い関連をもっていることがわかる。

図表 4-18 中学生のいじめ規範意識と教師への信頼感の関連

	学校の先生たちの言うことは信頼できる	いじめ規範意識（二値）		合計	有効度数
		低い	高い		
中学校のみ	あてはまらない	45.2%	54.8%	100.0%	(31)
	どちらかといえばあてはまらない	38.9%	61.1%	100.0%	(90)
	どちらかといえばあてはまる	22.5%	77.5%	100.0%	(289)
	あてはまる	4.9%	95.1%	100.0%	(164)
	合計	21.3%	78.7%	100.0%	(574)
独立性のカイ二乗検定		p=0.000			

3.3 ロジスティック回帰分析による確認

ここまで、それぞれの質問項目と規範意識の関係を個別に検討してきた。しかし、教師が生徒の良さを認めることが生徒が実際に持つ「よさ」によっても左右されるように、これまで検討してきた質問項目どうしてもまた関連を持っている。この関連を相互に統制した上で、それぞれの関連の有無を確認しておく必要があるだろう。そこで、前項までで検討した変数を用いて、二項ロジスティック回帰分析を行った結果を示したのが、図表 4-19 である。なお中学生の分析では、小学生との共通質問のみを投入したモデルと、そこに中学生のみで実施した質問を加えた 2 つのモデルで分析を行った。

まず小学生の分析で有意な関連を示したのは、「学校適応」、「レリバンス意識」（ただし 10%水準）、「家族関係」、「通塾ダミー」（ただし 10%水準）であった。クロス集計では有意な関連が見られた「性別」、「自己肯定感」、「教師からの承認」には関連が見られなくなっている。なお、成績に関してはクロス集計の結果と同様、関連はない。

次に中学生の結果をまとめる。共通質問のみを投入したモデルで有意な関連がみられたのは、「女子ダミー」、「学校適応」、「レリバンス意識」の 3 項目であった。クロス集計の分析では関連が見られなかった「成績」と「通塾状況」は、本分析でも同様に関連は見いだせない。一方、クロス集計で有意な関連が見られた「自己肯定感」、「教師からの承認」の関連が見られなくなっており、これは小学生同様の結果である。

小学生と比較すると、2 点の顕著な違いがわかる。ひとつは、小学生では見られなくなっていた性別との関連が強く現れたことである。小学校から中学校に移行することで、男子に比べ女子のほうで規範意識が高い（もしくは男子が低くなる）という、規範意識の性差が明確になった。もうひとつは、小学生ではみられた「家族関係」が有意でなくなっていることである。

ここに、中学生のみの5つの質問を追加すると、共通質問のみでは関連が見られた「学校適応」の関連が消え、「友人観」と「教師信頼」の強い関連が見いだされる。また、クロス集計で関連が明確でなかった「友人関係」の関連が、二項ロジスティック回帰分析ではみられなくなり、スクールカースト自認についてはクロス集計の結果と同様、関連がない。これは、従属変数のいじめ規範意識が意識変数であることによるだろう。つまり、「友人関係」や「スクールカースト自認」といった行動・事実認識の項目よりも、水準が同じ意識項目である「友人分離志向」や「教師信頼」のほうが関連が強くなるということである。

図表 4-19 小学生・中学生のいじめ規範意識化を従属変数とするロジスティック回帰分析

	小学校		中学校			
	共通質問		共通質問のみ		中学限定質問を追加	
	B	オッズ比	B	オッズ比	B	オッズ比
女子ダミー[基準:男子]	0.236	1.266	0.691	1.995 **	0.635	1.888 *
自己肯定感	0.177	1.193	0.102	1.108	0.134	1.144
学校適応	0.295	1.343 *	0.377	1.457 **	0.247	1.280
成績(連続)	-0.014	0.986	-0.013	0.987	-0.012	0.988
レリバンス意識	0.233	1.263 +	0.599	1.821 ***	0.507	1.660 ***
教師からの承認	0.224	1.251	0.088	1.092	-0.105	0.900
家族関係	0.288	1.334 *	0.077	1.080	0.037	1.037
通塾ダミー[基準:通っていない]	0.437	1.548 +	0.077	1.080	-0.053	0.949
部活熱心ダミー[基準:熱心でない]					-0.265	0.768
友人関係					-0.085	0.919
カースト自認					0.019	1.019
友人分離志向					-0.356	0.701 *
教師信頼					0.648	1.912 ***
定数	-1.005	0.366	-2.199	0.111 **	-1.614	0.199
ケース数	566		560		532	
モデル有意確率	0.000		0.000		0.000	
Nagelkerke R2 乗	0.143		0.179		0.228	

注: *** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 + p<0.1

3.4 小括

以上、小学生および中学生におけるいじめ規範意識と関連のある変数を、クロス集計と二項ロジスティック回帰分析によって検討してきた。これまでの結果のまとめを図表 4-20 に示した。

小中学生のいずれにおいても成績には関連がみられず、関連を示すのは、学習の意義（レリバンス）の認識・捉え方である。これは、友人関係について前述したように、いじめ規範意識が「意識」であり、それは行動や現状の事実（認識）レベルの変数よりも、意識変数と関連が強いことを示しているといえる。

小学生と中学生で「家族関係」の関連がみられなくなっている（弱まっている可能性が高い）のは、子どもたちの規範意識の形成・維持が、第一次的社会化集団である家族から

より離れて行われるようになった可能性が示唆される。

中学生限定質問を追加すると「友人分離志向」と「教師信頼」が有意な関連を示し、「学校適応」の関連が弱まったことは、いじめ規範意識と学校適応のつながりが、「友人分離志向」と「教師信頼」の影響下にある可能性を示唆している。

図表 4-20 小学生および中学生のいじめ規範意識に関する分析結果のまとめ

		小学校		中学校		
		クロス	二項ロジ	クロス	二項ロジ 共通質問	二項ロジ 質問追加
全般	性別	○	×	○	○	○
	自己肯定感	○	×	○	×	×
	学校適応	○	○	○	○	×
学習への適応	成績	×	×	×	×	×
	レリバンス意識	○	△	○	○	○
人間関係	教師からの承認	○	×	○	×	×
	家族関係	○	○	○	×	×
	通塾状況	○	△	×	×	×
追加質問	部活への参加度	—	—	×	—	×
	友人関係	—	—	○	—	×
	スクールカースト自認	—	—	×	—	×
	友人分離志向	—	—	○	—	○
	教師信頼	—	—	○	—	○

4. いじめ規範意識の変化に関する分析

第3節の分析によって、小学生および中学生のそれぞれにおけるいじめ規範意識と諸項目の関連のあり方を検討し、集団として小中の中で生じた差異を把握した。しかし、これはあくまでクロスセクションデータ同士の比較であり、変化の様相をじゅうぶんには捉えられていない。そこで本項では、いじめ規範意識の変化を従属変数とし、諸項目の変化を独立変数として関連を検討していく。

4.1 クロス集計による分析

図表 4-21 に、基本属性としての「性別」との関連を示した。変化なしの割合が男子では 69.6%であるのに対し女子は 80.6%である。つまり、強化および弛緩のいずれについても、女子に比べて男子のほうが規範意識が変化しやすいことがわかる。

図表 4-22 に、「自己肯定感変化」との関係を示した。自己肯定感の高まりといじめ規範意識の強化が関連する傾向にあるが、有意差は見られない。

図表 4-23 に、「学校適応変化」との関連を示した。学校適応が上昇していると、いじめ規範意識が高まるという明確な関連がみられ、統計的にも有意である。

図表 4-24 に、「成績変化」との関連を示した。クロス集計分析と同様、いじめ規範意識と成績には有意な関連はみられない。

図表 4-25 に、「教師からの承認変化」との関連を示した。承認が得られていると思うようになった生徒ほど、いじめ規範意識が強化される弱い関連が読み取れるが、統計的には有意ではない。

図表 4-26 に、「家族関係変化」との関連を示した。家族関係が密になる（学校での出来事を話すようになる）ほど、いじめ規範意識は強化される明確な関係がみられ、統計的にも有意である。

図表 4-27 に、「通塾状況変化」との関連を示した。ここに有意差は見られない。

図表 4-28 に、「部活動への参加度」との関連を示した。部活動に熱心に取り組むほどいじめ規範意識が強化されていることがわかる。

図表 4-21 いじめ規範意識の変化と性別の関係

	いじめ規範意識変化			合計	有効 度数
	弛緩	変化なし	強化		
男子	17.7%	69.6%	12.6%	100.0%	(293)
女子	10.6%	80.6%	8.7%	100.0%	(263)
合計	14.4%	74.8%	10.8%	100.0%	(556)
独立性のカイ二乗検定			p=0.011		

図表 4-22 いじめ規範意識の変化と自己肯定感の変化の関係

自己肯定感変化 (カテゴリ)	いじめ規範意識変化			合計	有効 度数
	弛緩	変化なし	強化		
減少	15.6%	75.3%	9.1%	100.0%	(186)
変化なし	14.7%	76.7%	8.6%	100.0%	(232)
増加	12.9%	70.5%	16.7%	100.0%	(132)
合計	14.5%	74.7%	10.7%	100.0%	(550)
独立性のカイ二乗検定			p=0.160		

図表 4-23 いじめ規範意識の変化と学校適応の変化の関係

学校適応変化 (カテゴリ)	いじめ規範意識変化			合計	有効 度数
	弛緩	変化なし	強化		
減少	23.2%	70.4%	6.3%	100.0%	(142)
変化なし	10.8%	80.2%	9.0%	100.0%	(268)
増加	12.3%	69.2%	18.5%	100.0%	(146)
合計	14.4%	74.8%	10.8%	100.0%	(556)
独立性のカイ二乗検定			p=0.000		

図表 4-24 いじめ規範意識の変化と成績の変化の関係

成績変化	いじめ規範意識変化			合計	有効 度数
	弛緩	変化なし	強化		
低下	16.0%	73.3%	10.7%	100.0%	(262)
上昇	12.8%	76.6%	10.7%	100.0%	(290)
合計	14.3%	75.0%	10.7%	100.0%	(552)
独立性のカイ二乗検定			p=0.542		

図表 4-25 いじめ規範意識の変化と教師からの承認の変化の関係

教師からの承認変化 (カテゴリ)	いじめ規範意識変化			合計	有効 度数
	弛緩	変化なし	強化		
減少	17.7%	73.4%	8.9%	100.0%	(192)
変化なし	11.9%	78.0%	10.2%	100.0%	(236)
増加	14.5%	70.2%	15.3%	100.0%	(124)
合計	14.5%	74.6%	10.9%	100.0%	(552)
独立性のカイ二乗検定			p=0.178		

図表 4-26 いじめ規範意識の変化と家族関係の変化の関係

家族関係変化 (カテゴリ)	いじめ規範意識変化			合計	有効 度数
	弛緩	変化なし	強化		
減少	22.5%	69.6%	8.0%	100.0%	(138)
変化なし	13.1%	76.4%	10.4%	100.0%	(259)
増加	9.2%	76.3%	14.5%	100.0%	(152)
合計	14.4%	74.7%	10.9%	100.0%	(549)
独立性のカイ二乗検定			p=0.012		

図表 4-27 いじめ規範意識の変化と通塾状況の変化の関係

通塾状況変化	いじめ規範意識変化			合計	有効 度数
	弛緩	変化なし	強化		
小中ともに通っていない	14.4%	73.1%	12.6%	100.0%	(167)
中学でやめた	14.2%	77.4%	8.5%	100.0%	(106)
中学で通塾開始	19.4%	68.2%	12.4%	100.0%	(129)
通い続けている	9.3%	81.3%	9.3%	100.0%	(150)
合計	14.1%	75.0%	10.9%	100.0%	(552)
独立性のカイ二乗検定			p=0.215		

図表 4-28 いじめ規範意識の変化と部活への参加度の関係

部活参加度変化	いじめ規範意識変化			合計	有効 度数
	弛緩	変化なし	強化		
熱心に活動していない	20.7%	75.6%	3.7%	100.0%	(82)
熱心に活動している	13.4%	74.5%	12.1%	100.0%	(471)
合計	14.5%	74.7%	10.8%	100.0%	(553)
独立性のカイ二乗検定			p=0.027		

4.2 多項ロジスティック回帰分析による分析

以上のクロス集計の結果を、前項と同様に多変量解析によって総合的に確認しよう。多項ロジスティック回帰分析においては、いじめ規範意識に変化がない 397 ケースを基準とし、規範意識が弛緩した 76 ケースおよび強化した 58 ケースの分析結果を示したのが図表 4-29 である。

有意な関連が確認できないのは、「自己肯定感変化」、「成績変化」、「教師からの承認変化」、「通塾変化」の 4 項目であった。クロス集計の結果と一致しており、総合的にみても関連

性のなさが確認できたといえる。

有意な関連を示す項目については、それぞれの変化が、いじめ規範意識の弛緩の方向と関連があるのか、それとも強化の方向と関連があるのかを確認できる。図表 4-2 および図表 4-3 で確認したように、全体としていじめ規範意識が弛緩した生徒のほうが多いため、弛緩する変化の方向と関連がみられる項目が多いが、なかには強化と関連するものもある。

まず「性別」について、変化が大きかったのは男子であったが、特に男子は弛緩する生徒が有意に多かったことがわかる。また、「学校適応」については弛緩と強化の両方の方向に有意に関連している。「家族変化」については弛緩と関連が強い。家族とのコミュニケーションが減少した生徒は、規範意識も低下している。

これに対し、弛緩ではなく強化の方向にのみ関連がみられたのが「部活への参加度」である。部活に熱心に取り組む生徒ほど、いじめ規範意識が強化されていることがわかる。

図表 4-29 いじめ規範意識の変化を従属変数とするロジスティック回帰分析

	弛緩		強化	
	B	Exp(B)	B	Exp(B)
女子ダミー [基準:男子]	-0.599	0.549 *	-0.415	0.660
自己肯定感変化	0.179	1.196	0.190	1.209
学校適応変化	-0.300	0.741 *	0.320	1.377 *
成績変化	-0.013	0.987	0.001	1.001
教師からの承認変化	-0.066	0.936	0.003	1.003
家族関係変化	-0.354	0.702 **	0.146	1.157
通塾変化パターン [基準:小中ともに通っていない]				
通塾変化中学でやめたダミー	0.023	1.024	-0.515	0.597
通塾変化中学で通塾開始ダミー	0.383	1.467	0.216	1.241
通塾変化通い続けているダミー	-0.459	0.632	-0.231	0.794
部活熱心ダミー [基準:熱心でない]	-0.286	0.751	1.199	3.315 +
切片	-1.267	***	-2.803	***
N		531		
Nagelkerke		0.130		
モデル適合度		0.000		

5. まとめと課題

以上、小中の比較および変化の分析を行ってきた。サンプルサイズが比較的小さいことで第二種の過誤を犯している可能性もあるが、ロジスティック回帰分析の結果を採用すれば、小学生のいじめ規範意識と関連が強いのは、「学校適応」・「レリバンズ意識」・「家族関係」・「通塾状況」の4点であり、中学生のいじめ規範意識と関連が強いものは、「性別」・「学校適応」・「レリバンズ意識」の3点であった。また、小中間での変化については、女子に比べ男子のいじめ規範意識が弛緩しやすく、また学校が楽しくなったり家族とのコミュニケーションが減ったりするといじめ規範意識は弛緩しやすい。また、学校が楽しくな

ったり、部活動で熱心に活動したりするといじめ規範意識は強化されやすい。

第1節で述べた通り、本章は次年度以降の分析の準備として探索的な性格が強いものとなった。しかし、実際の成績を考慮できる本調査を用いた分析として強調しておくことは、（本章の単純な分析の限りではあるものの）実際の成績はすべての分析を通して一貫して関連がみられなかったことである。いじめ規範は、成績とは関係なく形成・維持されるのではないかと考えられる。

成績に加え自己肯定感も顕著な関連は見られない。これは、生徒の「能力」や「能力」の自己認識とはかかわりなく規範意識が形成されている可能性を示唆する。いじめ規範意識は全体として高いまま維持されていることを考慮すれば、学校教育が、どのような状況にある生徒にも概ね高いいじめ規範意識をもたせることに成功しているとも考えられるだろう。しかしこれは、自己認識を用いた「社会的勢力」によっていじめ規範意識に差異があることを明らかにしている鈴木の実験と一致しない。今後は、強い関連が予想されたのにもかかわらず、実際には関連がみられなかったスクールカースト自認など、再度分析の余地を残している変数を検討する必要がある。

その際に考慮すべきなのは、そもそもこの質問への回答が、実際に児童・生徒が持っている意識よりも向学校的で模範的な回答をするパーソナリティを反映している可能性である。これを考慮するためにも、交互作用を組み込んだモデルを作成したり、パネル分析を用いたりすることで、より適切で複雑な分析を行う必要があるだろう。

〔注〕

- 1) 滝は「自己有用感」という言葉を用いているが、ここでは同じものを指していると考える。
- 2) 主成分分析の結果は、図表 4-30 の通り。

図表 4-30 主成分分析の結果

	成分
総合は役に立つ	0.749
国語は役に立つ	0.788
算数は役に立つ	0.758
寄与率	58.561%

3) 作成した連続変数に関する記述統計は図表 4-31 の通り。

図表 4-31 作成した連続変数の記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
小学生・国数スコア平均	570	25.640	67.290	50.026	9.331
中学生・国数スコア平均	595	19.060	68.720	49.823	9.319
小学生・レリバンス意識	572	-3.498	1.169	0.000	1.000
成績変化スコア	569	-33.880	27.790	0.104	8.057
レリバンス意識変化	571	-3.000	3.000	0.704	1.320
学校適応変化	571	-3.000	3.000	-0.019	1.032
教師からの承認変化	567	-3.000	3.000	-0.148	1.021
家族関係変化	564	-3.000	3.000	-0.014	1.084
自己肯定感変化	564	-3.000	3.000	-0.145	1.019

[参考文献]

- 橋本摂子, 1999, 「いじめ集団の類型化とその変容過程——傍観者に着目して」『教育社会学研究』64, 123-142.
- 林川友貴, 2015, 「中学生の学校適応メカニズムの実証的検討——学級と部活動に着目して」『教育社会学研究』97, 5-24.
- 伊藤茂樹, 1996, 「『心』の問題としてのいじめ問題」『教育社会学研究』59, 21-37.
- 北澤毅, 2015, 『『いじめ自殺』の社会学——「いじめ問題」を脱構築する』世界思想社.
- 文部科学省初等中等教育局児童生徒課, 2015a, 「いじめ対策推進法が求めていることの確認」『教職研修』平成 27 年 12 月号 (第 520 号), 18-20.
- , 2015b, 「平成 26 年度『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』における『いじめ』に関する調査結果について」
- 森田洋司・清水賢二, 1994, 『いじめ——教室の病 (新訂版)』金子書房.
- 内藤朝雄, 2009, 『いじめの構造——なぜ人が怪物になるのか』講談社.
- 鈴木翔, 2012, 『教室内カースト』光文社.
- , 2015, 「なぜいじめは止められないのか?——中高生の社会的勢力の構造に着目して」『教育社会学研究』96, 325-345.
- 滝充, 2008, 「『自己有用感』獲得によるいじめの未然防止——『日本のピア・サポート・プログラム』に基づく人間関係づくり」『生徒指導学研究』2008 年第 7 号, 16-23.
- , 2013, 「いじめ問題をどう理解し、どう取り組むか」『教育展望』2013 年 1・2 合併月号, 44-49.

第5章 なぜ「中1ギャップ」が発生するのか ——小学校6年時と中学校1年時のパネルデータから——

豊永耕平（東京大学大学院）

小中一貫教育を義務教育学校として制度的に行うことが2016年度から可能になるなど、近年では小中連携や小中一貫教育への関心が高まっている。しかしながら、小中間の移行に具体的にどのような障壁があるのかは、これまで十分に検討されてきたとは言い難い。そこで、本章では小学校6年時と中学校1年時の2時点間のパネルデータの分析を通じて、「中1ギャップ」が発生する背景を検討した。分析の結果、中学校に入学して勉強についていけなくなることが主要な背景ではなく、むしろ中学校入学による人間関係の変化や、クラスの雰囲気によって中1ギャップが発生しており、携帯端末の利用とも関連がみられることが明らかになった。今後も、症状を的確に診断した上で、適切で効果的な小中連携・小中一貫の取り組みを進めていくことが必要であろう。

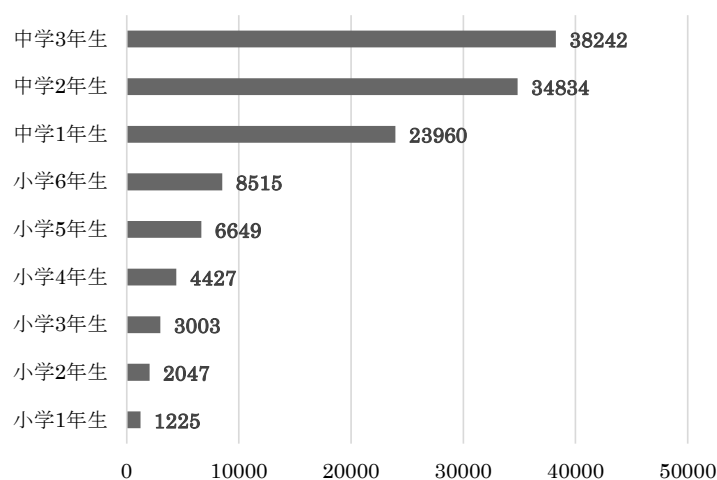
1. 問題設定

本章の目的は、小学校6年時と中学校1年時の2時点間のパネルデータの分析を通じて、「中1ギャップ」が発生する背景を明らかにすることである。「中1ギャップ」とは、小学校から中学校に入学した中学1年生が、小中間に大きな段差や壁を感じとって、中学校生活にとけ込めない状態を指す（児島・佐野 2006）。中学1年生でいじめ認知件数や不登校児童生徒数が急増するという「マクロなギャップ」と、中学1年生自身が感じとる小中間の学校制度の違いや学校適応感の違いなどの「ミクロなギャップ」という、大きく2つの側面から言及されることが多い（例えば、小泉 1992; 新潟県教育委員会 2007 など）。

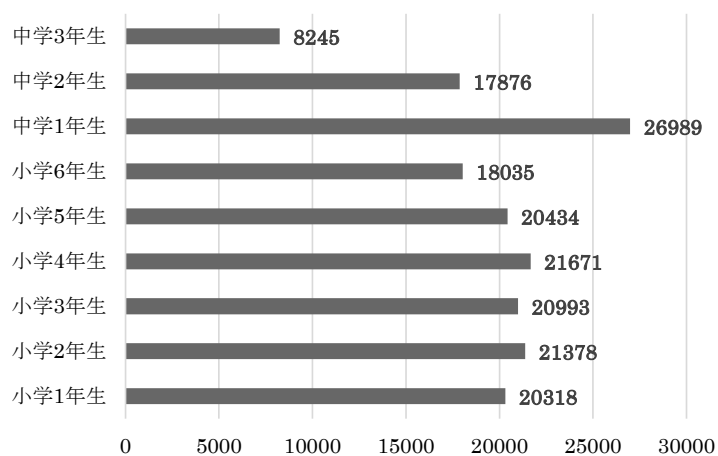
「マクロなギャップ」に関して、文部科学省が実施した「平成26年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」では、小学校6年生と中学校1年生の間に大きな“ギャップ”があることが明らかにされている。その結果を示すと、図表5-1・図表5-2のようになる。なお、前者は不登校児童生徒数であり、後者はいじめ認知件数である。

前者の学年別不登校児童生徒数では、学年を追うごとに不登校児童生徒数が増加しており、小学校6年生では8,515人であるのに対して、中学1年生ではその約2.8倍に匹敵する23,960人にも上っていることが確認できる。他方で、後者の学年別いじめ認知件数を確認すると、中学1年生では26,989件に上っており、小学1年生から中学3年生までの義務教育機関の中で、いじめ認知件数が最も多いことが確認できる。もちろん、これらの「マクロなギャップ」がどのような背景で生じているのかは必ずしも明らかではない。しかしながら、小学校から中学校への校種間の移行に伴って、なんらかの障壁や困難が存在していることは、少なくとも事実であるように思われる。

図表 5-1 学年別不登校件数



図表 5-2 学年別いじめ認知件数



以上のような「マクロなギャップ」の問題を背景にして、近年では小中一貫教育の取り組みが大きな関心を集めている。平成 24 年度の中央教育審議会答申「子供の発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について」では、「中 1 ギャップ」解消に対する小中一貫教育の効果が紹介され、小中一貫教育を基本とした義務教育改革が提案されている。以上の答申をうけて、国会でも「学校教育法等の一部を改正する法律案」が成立し、9 年間一貫した義務教育を「義務教育学校」として行うことが 2016 年度から制度的に可能になった（日本経済新聞 2015）。つまり、政策レベルでは、「中 1

ギャップ」への処方箋として、小中連携・小中一貫教育が提言されているのである。

しかしながら、「マクロなギャップ」がどういった背景で発生しているのかを考慮しなければ、以上のような改革の効果を最大限生かすことができないように思われる。政策レベルの議論では、授業形態や評価方法などの小中間のあらゆる制度上の相違を考慮した上で、小中連携・小中一貫の必要性へと議論が進んでいる（中教審 2014）。しかしながら、小中間の制度上の相違の“すべて”が「マクロなギャップ」を引き起こしているとは考えにくいだろう。また、その中でも特に主要な背景となるような「ミクロなギャップ」をある程度把握することができれば、より効果的な小中連携・小中一貫への示唆になるであろう。

そこで、本章では、小学校 6 年時と中学校 1 年時の 2 時点間のパネルデータの分析を通じて、「中 1 ギャップ」が発生する主要な背景を明らかにしていく。以下、本章の構成を説明する。第 2 節では、「中 1 ギャップ」や小中移行に伴った学校不適応に関するこれまでの研究蓄積を整理する。つづく第 3 節では、分析の準備として変数の紹介を行ったうえで、仮説の提示をする。そして、第 4 節でクロス集計を行うことで変数間の関連を確認したうえで、第 5 節では多変量解析で分析を行うことで、他の変数を統制したうえでも効果がみられるかどうか確認する。以上を踏まえたうえで、第 6 節でまとめたい。

2. 先行研究の整理

小学校から中学校への移行は、異なる校種への移行と児童期から思春期への移行とが重なり、二重の意味で危機的であることが指摘されている（古川・小泉・浅川 1992）。しかも、小泉（1993）が述べるように、小中間の移行は、特に日本においてはほとんどすべての子どもが経験する環境移行であることから、小中間の移行やそれに伴う困難を検討することは重要な課題である。しかしながら、従来の研究では、小中間の移行に際して、具体的にどのような障壁があるのかは十分に検討されてきたとは言いがたいのが現状である。

その原因としては、小学校 6 年時と中学校 1 年時におけるパネルデータの欠如があげられる。小中間の移行やそれに伴う困難を検討するためには、ある児童生徒の小学校在籍時と中学校在籍時の 2 時点間のパネルデータが必要である。しかしながら、異なる校種をまたいで縦断的な研究を行うことの研究上の困難さや、「小中間の移行による学校不適応は時間とともに改善していくので、特別な措置は不必要である」というような楽観的な考え方の中で、実証的な研究はほとんど蓄積されてこなかった（小泉 1997）。こうした中で、縦断的な手法を用いて小中移行の問題を実証的に検討している数少ない研究としては、小泉令三（1992;1995;1997）と酒井朗（1995; 2000; 2007; 2010 ;2014）があげられる。

小泉令三（1992; 1995 ;1997）は教育心理学の立場から、自らが作成した学校適応感尺度（ASE II）などを用いて、児童・生徒の小中間の学校適応感の違いを検討している。彼の一連の研究からは主に以下のようなことが明らかになっている。第一に、子どもの属性に関しては、女子よりも男子で、出身小学校の規模が少数派よりも多数派で中学校におけ

る学校適応感が高く、中学校の情報を提供する兄弟が存在していると、中学校生活に不安を抱きにくいことが明らかにされている。第二に、学習面に関して、英語学習に関して既存の英語知識を持っている生徒ほど、中学校入学後に興味や意欲が低下していくことが指摘されている。しかしながら、小泉（1997）自身が認めているように、全体的にサンプルサイズが小さく、諸変数を統制した上での効果は検討されていない点で限界がある。

他方で、酒井朗（1995; 2000; 2007; 2010; 2014）は教育臨床社会学の立場から、小中移行の問題は思春期などの発達上の問題だけではなく、学校制度による社会化の問題も含まれていることを、一連の議論の中で強調している。なお、酒井自身（2007; 2014）も東京都 A 自治体において小学校 6 年時・中学校 1 年時の 7 月・中学校 1 年時の 11 月の 3 時点間で自治体全体にパネル調査を行っており、次のようなことが明らかにされている。第一に、学習意欲・対教師関係に関して、中 1 の 7 月時点で大きく適応感があがった後で、中 1 の 11 月時点では低下する山型の変化をすることである¹⁾。第二に、級友関係に関しては、全体的に適応感が低下していくものの、「クラスの人と一緒に遊んだり、電話したりする」の質問項目が大きく値を低下させているにすぎないため、「級友関係面では中学に移行した際に適応上の問題がとくに悪化するとはいえない」（酒井 2007:89）ことが指摘されている。

以上のように、縦断的手法を用いて小中移行の問題を検討した研究はまた十分蓄積されているとはいいがたい²⁾。小泉令三（1992; 1995; 1997）は独自の学校適応感尺度（ASE II）を作成して、その変動の背後要因を探っている点で意義があるが、サンプルサイズが十分とはいえないという問題がある。他方で、酒井（2007; 2014）は、小泉と同様の学校適応感尺度（ASE II）を用いており、継続した調査対象者も 1171 名と多いため、小泉の追試的な性格をもっている。しかしながら、具体的にどのような背後要因の下で、3 時点間の学校適応感の変動が生じているのかについては、十分な検討を行っていない³⁾。

そこで本章では、小学校 6 年時と中学校 1 年時の 2 時点間のパネルデータという本調査の特徴を生かして、小中移行における学校不適応の問題がどのような背景で発生しているのかを明らかにしていく。とりわけ、本調査は小学校 6 年時と中学校 1 年時の 2 時点間の学業達成の指標（以下、「スコア」と呼称）を用いることが可能である。しかるに、これまでの研究では検討することができなかった小学校 6 年時と中学校 1 年時のスコアの変動が「マクロなギャップ」の背景となりうるかも、検証できる点で意義があるであろう。

3. 分析の準備

3.1 基礎集計の確認

本項では、「中 1 ギャップ」に関する回答について本調査から得られた度数分布を確認する。本章で分析を加えていく「中 1 ギャップ」は、「小学校と中学校の違いで困ったことがある」という質問項目への回答からとらえていくことにしたい。この変数は、入学したばかりの中学 1 年生が、①小学校と中学校の違いを認知して、②その違いに困っている

状況をとらえている。したがって、「マクロなギャップ」の背景になるような中学1年生の「ミクロなギャップ」を示す指標であるとみなせよう。もちろん、この変数だけでは具体的にどのような違いに困っているのかは明らかではないことは事実であるし、これまでの先行研究で使用されてきた学校適応感尺度とは、少々性格が異なっている。しかしながら、中学生が感じる小中間の相違を直接的にとらえていることから、他の変数との関連をさぐる中で、「ミクロなギャップ」の背景を捉えることが可能であるように思われる。

以下の分析では、中1ギャップとは、「小学校と中学校の違いで困ったことがある」という状況を示す。中1ギャップの度数分布は、次の図表5-3のようになる。

図表 5-3 小学校と中学校の違いで困ったことがある

	有効パーセント	度数
あてはまる	21.7%	126
どちらかといえばあてはまる	29.1%	169
どちらかといえばあてはまらない	25.6%	149
あてはまらない	23.6%	137
合計	100.0%	581

図表 5-3 から次のようなことが読み取れる。すなわち、関西圏 X 市の中学1年生のうち 50.8%もの生徒が、小学校と中学校の違いを認知して、かつその違いで困ったことがあるということである。もちろん、どのような要因によって困っているのかは、これだけでは必ずしも明らかではない。しかしながら、少なくとも関西圏 X 市の中学1年生においてすら、小中の移行に伴うなんらかの障壁が存在していることは事実なのであろう。

次に、中1ギャップの発生に性別による差異があるのかを確認したい。性別と中1ギャップの関連を確認すると、図表 5-4 のようになる。ところで、中1ギャップという現象は、小学校と中学校の違いに「困っている」「困っていない」という質的な現象とみなすことが可能である。そこで、以下の分析では、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」を「あてはまらない」という2値にした上で、中1ギャップの分析を進めていく。

図表 5-4 性別ごとの中1ギャップ

		中1ギャップ		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
性別	男子	50.4%	49.6%	100.0%	(272)
	女子	51.1%	48.9%	100.0%	(309)
合計		50.8%	49.2%	100.0%	(581)
独立性のカイ二乗検		n.s			

図表 5-4 より、中 1 ギャップの発生に性別による統計的に有意な差異が確認できないことが読み取れる。すなわち、性別にかかわらず、約半数の中学 1 年生が小学校から中学校への移行で困ったことがあるようである。したがって、以下の分析では、とくに男女の性差を考慮しないで分析を進めていくことにしたい⁴⁾。

3.2 仮説の設定

次に、以上のような中 1 ギャップの度数分布を踏まえたうえで、仮説の導出を行うことにしたい。大きく、学業達成に関する仮説群（仮説 1・仮説 2・仮説 3）・友人関係に関する仮説群（仮説 4・仮説 5・仮説 6）・携帯端末に関する仮説群（仮説 7・仮説 8）を検証していくことを通じて、中 1 ギャップが発生する背景を明らかにしていく。

○学業達成に関する仮説群

- [仮説 1] スコアが低い生徒であるほど、中 1 ギャップを引き起こしやすい。
- [仮説 2] 小 6 時よりもスコアが低下しているほど、中 1 ギャップを引き起こしやすい。
- [仮説 3] 成績の自己認知が低い生徒ほど、中 1 ギャップを引き起こしやすい。

平成 15 年度から中 1 ギャップ解消にむけた研究事業を行った新潟県教育委員会（2007）では、中 1 ギャップが発生する要因として、中学校で高度化する学習内容についていけなくなるのが原因である可能性が指摘されている。例えば、「算数」は「数学」という教科へと変わり、方程式などのより抽象度の高い勉強をすることになる。また、中学校からは、定期テストなどもはじまり、小学校以上に自らの成績に敏感になることであろう。しかるに、仮説 1・仮説 2 が導出される。他方で、酒井（2007；2014）でも、小中移行に伴って成績の自己評価が大きく低下し、それが学習意欲の低下や対教師関係の悪化と一定の関連があることが明らかにされている。したがって、その追試もかねて仮説 3 が導出される。

○友人関係に関する仮説群

- [仮説 4] 学校の友達とうまくいっていないほど、中 1 ギャップを引き起こしやすい。
- [仮説 5] クラス内でカーストが低いほど、中 1 ギャップを引き起こしやすい。
- [仮説 6] 雰囲気の良いクラスであるほど、中 1 ギャップを引き起こしにくい。

新潟県教育委員会（2007）では、新しい人間関係を築けないことや、周囲の仲間から認めてもらえないことが、中 1 ギャップの背後要因の可能性として指摘されている。つまり、中学校に入学して、新しい環境の中で新しい人間関係を構築できるかどうか、中学校になめらかに移行する上で重要なのであろう。ところで、その際重要な背景になってくるのはクラスという生活単位である。小泉（1997）では、転校生の事例ではあるものの、環境

移行にはクラスの雰囲気が必要であることが明らかになっている。他方で、鈴木（2012）ではクラス内カーストの存在が指摘されており、クラスという要因は中1ギャップの背景を理解する上でも重要であろう。以上の議論から、仮説4・仮説5・仮説6が導出される。

○情報端末利用に関する仮説群

【仮説7】 中1時に携帯端末の使用時間が長いほど、中1ギャップを引き起こしやすい。

【仮説8】 小6時から携帯端末を利用していると、中1ギャップを引き起こしやすい。

近年では携帯端末が急速に普及しており、そのことは小学生や中学生も例外ではない。LINEなどの無料通信アプリやFacebookなどのSNSの普及の中で、小中学生の人間関係は学校内だけにはとどまらないだろう。土井（2014）は、携帯端末によって、子どもたちの人間関係が常時接続状態になっていることを指摘している。しかしながら、これまで携帯端末の使用と中1ギャップとの関連は、ほとんど検討されてこなかった。そこで、従来議論されてきたような、学業達成に関する仮説群・友人関係に関する仮説群にプラスして、携帯端末利用に関する仮説群（仮説7・仮説8）も検討していくことにしたい。

以上のような仮説1から仮説8までを検討していくことを通じて、以下では中1ギャップが発生する背景を明らかにしていく。なお、後の議論を先取りすれば、以上の仮説群を検証することで、中学校に入学して勉強についていけなくなることが原因ではなく、むしろ中学校入学による人間関係の変化や、クラスの雰囲気によって中1ギャップが発生しており、携帯端末の利用とも関連がみられることが明らかになる。

4. 分析結果——クロス集計

本節では、中1ギャップは発生する主要な背景を実際に分析していく。まずクロス集計によって、中1ギャップと各変数の関連を検討することで、第3節で提示した仮説に応答していくことにしたい。以下では先述した、学業達成に関する仮説群（仮説1・仮説2・仮説3）・友人関係に関する仮説群（仮説4・仮説5・仮説6）・携帯端末利用に関する仮説群（仮説7・仮説8）の大きく3つの側面から、分析を加えていく。なお、分析に使用する変数の設定は、以下の図表5-5のようになる。なお、各変数の具体的な記述統計量に関しては、巻末の資料を参照されたい。

図表 5-5 本章で分析に使用する変数の設定

変数名	変数の設定
小6時国語スコア	「スコア」については序章を参照のこと。変動を検討する際には、小6時と中1時のスコアを三分位に分割し、上昇(下位→中位/中位→上位/下位→上位)・停滞(下位→下位/中位→中位/上位→上位)・低下(上位→下位/上位→中位/中位→下位)と分類した。
小6時算数スコア	
中1時国語スコア	
中1時数学スコア	
中1時主観的国語成績	「あなたは学年の中でどれくらい国語(数学)の勉強ができるほうだと思いますか」について、「とてもよくできる」「よくできる」を上位、「普通」を中位、「あまりできない」「まったくできない」を下位とした。
中1時主観的数学成績	
友人関係良好	質問項目「学校の友だちとうまくやれていると思う」への回答(四件法)を二値化した。
カースト下位	質問項目「クラス内で馬鹿にされていると感じる」への回答(四件法)を二値化した。
クラス雰囲気	「私は、小さなけんかや、トラブルは、話し合いで解決している。」「私は、「ありがとう」を伝え合っている。」「私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている。」「私は、友だちの間に上下関係なく、誰とでも平等に接している。」「私は、友だちのよいところやがんばりを認めて伝え合っている。」「私は、男女仲よく、共に学んだり活動している。」の6つの質問項目を主成分分析にかけた第一主成分得点(cronbach's α =0.786)をクラス平均して2分位した ⁵⁾ 。
中1時の携帯端末使用	「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを使用しますか」という質問項目を用いた。なお、小6時との関連に関しては時間を考慮せずに、「携帯非所有一貫」「携帯所有一貫」「携帯取得」「携帯喪失」の4類型にした。
携帯利用の変化	

4.1 学業達成に関する仮説群

はじめに、学業達成に関する仮説群（[仮説 1] [仮説 2] [仮説 3]）について検討したい。

図表 5-6・図表 5-7 は中学校 1 年時の国語と数学のスコアを 3 分位（下位層・中位層・上位層）にしたものとクロス集計を行っている。さらに、[仮説 1] が正しければ、スコアが下位層における生徒ほど、中 1 ギャップを引き起こしていることが想定される。

図表 5-6 中学 1 年時の国語スコアと中 1 ギャップ

		中 1 ギャップ		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
中1時 国語スコア	下位層	53.2%	46.8%	100.0%	(173)
	中位層	49.5%	50.5%	100.0%	(188)
	上位層	50.5%	49.5%	100.0%	(192)
合計		51.0%	49.0%	100.0%	(553)
独立性のカイ二乗検定		n.s			

図表 5-7 中学 1 年時の数学スコアと中 1 ギャップ

		中 1 ギャップ		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
中1時 数学スコア	下位層	48.1%	51.9%	100.0%	(185)
	中位層	53.3%	46.7%	100.0%	(184)
	上位層	51.6%	48.4%	100.0%	(184)
合計		51.0%	49.0%	100.0%	(553)
独立性のカイ二乗検定		n.s			

図表 5-6・図表 5-7 を確認すると、いずれのクロス表も統計的に有意ではなく、国語と数学のスコアと中 1 ギャップの間に明瞭な関連を見出すことができない。また各セルの値を確認しても、下位層であるほど中 1 ギャップを引き起こしているわけではないことから、[仮説 1]は支持されなかった。すなわち、中学校に入学して勉強内容についていけないから、中 1 ギャップを引き起こしてしまうというわけではないようである。

他方で、小 6 時と中 1 時のスコアの変動との関連を検討すると、図表 5-8・図表 5-9 のようになる。なお、かりに、[仮説 2]が正しければ、小 6 時から国語と数学（算数）のスコアが低下している生徒ほど、中 1 ギャップを引き起こしていることが想定される。

図表 5-8 国語スコアの変動と中 1 ギャップ

		中 1 ギャップ		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
国語スコア の変動	下降	52.3%	47.7%	100.0%	(130)
	停滞	52.2%	47.8%	100.0%	(295)
	上昇	46.9%	53.1%	100.0%	(128)
合計		51.0%	49.0%	100.0%	(553)
独立性のカイ二乗検定		n.s			

図表 5-9 数学スコアの変動と中 1 ギャップ

		中 1 ギャップ		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
数学スコア の変動	下降	56.7%	43.3%	100.0%	(134)
	停滞	48.1%	51.9%	100.0%	(308)
	上昇	52.3%	47.7%	100.0%	(111)
合計		51.0%	49.0%	100.0%	(553)
独立性のカイ二乗検定		n.s			

図表 5-8・図表 5-9 を確認すると、小 6 時と中 1 年時での国語と数学スコアの変動と中 1 ギャップに明瞭な関連を見出すことができない。もちろん、サンプルサイズが小さいからという可能性も否定できないが、いずれのクロス表も統計的に有意ではない。したがって、[仮説 2]は支持されなかった。少なくとも、国語や数学（算数）のスコアの変動によって、小中間の相違に困っているわけではないようである。ただし、数学（算数）スコアに関しては、若干ではあるものの「下降」している生徒ほど小中間の違いを認識して困っている傾向にあることが確認できることから、解釈は慎重でなければならないだろう。

最後に、国語と数学の成績の自己認知と中 1 ギャップの関連を検討したい。[仮説 3]を検証するために行ったクロス集計が、以下の図表 5-10・図表 5-11 である。仮説が正しければ、主観的成績が下位層ほど中 1 ギャップを引き起こしているはずである。

図表 5-10 主観的国語成績と中1ギャップ

		中1ギャップ		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
主観的 国語成績	下位層	51.1%	48.9%	100.0%	(221)
	中位層	51.3%	48.7%	100.0%	(263)
	上位層	46.9%	53.6%	100.0%	(84)
合計		50.5%	49.5%	100.0%	(568)
独立性のカイ二乗検定		n.s			

図表 5-11 主観的数学成績と中1ギャップ

		中1ギャップ		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
主観的 数学成績	下位層	57.3%	42.7%	100.0%	(178)
	中位層	48.1%	51.9%	100.0%	(233)
	上位層	46.5%	53.5%	100.0%	(157)
合計		50.5%	49.5%	100.0%	(568)
独立性のカイ二乗検定		p<0.1			

図表 5-10・図表 5-11 を確認すると、下位層であるほど若干数値が大きいのものの、国語成績の自己認知との関連は統計的に有意な水準には達していない。他方で、数学成績の自己認知との関連は 10%水準ではあるものの、統計的に有意な水準に達していることが確認できる。すなわち、学年の中で数学が「あまりできない」「まったくできない」と感じている生徒ほど、小中間の違いに困っていることが読み取れる。しかるに、[仮説 3]は部分的に支持された。客観的な学力スコアとの関連がみられなかったことから、学年内でどれくらい特に数学ができるかという自己認知のほうが重要なのだろう。

4.2 友人関係に関する仮説群

つぎに、友人関係に関する仮説群（[仮説 4] [仮説 5] [仮説 6]）について検討したい。図表 5-12 は主観的な友人関係との関連、図表 5-13 はクラス内のカーストとの関連を確認したものである。[仮説 4] [仮説 5]が正しければ、友人関係が良好でない生徒ほど、クラス内でカーストが低い生徒ほど、中1ギャップを引き起こしているはずである。

図表 5-12 を確認すると、約 90%もの生徒が「学校の友達とうまくやれていると思う」を肯定しており、中1ギャップとも統計的に有意な関連がみられない。したがって、[仮説 4]は支持されなかった。他方で、図表 5-13 からクラス内のカースト的地位と中1ギャップが大いに関連していることが確認できる。「クラス内で馬鹿にされていると感じる」に肯定した生徒のうち約 7 割もの生徒が、「小学校と中学校の違いに困ったことがある」に肯定しており、0.1%水準で統計的に有意な関連である。しかるに、[仮説 5]は支持された。つまり、いつも一緒にいる同じカースト的地位の友達との関係を考えて、「学校の友達とうまくやれている」と思っているが、同時に「クラス内で馬鹿にされていると感じる」と感じ

ており、そのことが中1ギャップの背景になっている可能性があるのではあるまいか。

図表 5-12 友人関係の評価と中1ギャップ

		中1ギャップ		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
友人関係 が良好	あてはまる	51.4%	48.6%	100.0%	(516)
	あてはまらない	48.3%	51.7%	100.0%	(58)
合計		51.0%	49.0%	100.0%	(574)
独立性のカイ二乗検定		n.s			

図表 5-13 スクールカーストと中1ギャップ

		中1ギャップ		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
カースト	あてはまる	70.9%	29.1%	100.0%	(141)
下位層	あてはまらない	44.3%	55.7%	100.0%	(429)
合計		50.9%	49.1%	100.0%	(570)
独立性のカイ二乗検定		p<0.001			

以上の結果から、「小学校と中学校の違いに困ったことがある」背景には、中学校という新しい環境の中で人間関係が変化することに原因があることが示唆される。よって、クラス内の人間関係が重要である以上は、クラス内の雰囲気もまた重要な背景になるのではあるまいか。それらを踏まえて、[仮説 6]を検討すると、図表 5-14 のようになる。

図表 5-14 クラスの雰囲気と中1ギャップ

		中1ギャップ		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
雰囲気が 良いクラス	あてはまる	44.8%	55.2%	100.0%	(261)
	あてはまらない	55.6%	44.4%	100.0%	(320)
合計		50.8%	49.2%	100.0%	(581)
独立性のカイ二乗検定		p<0.01			

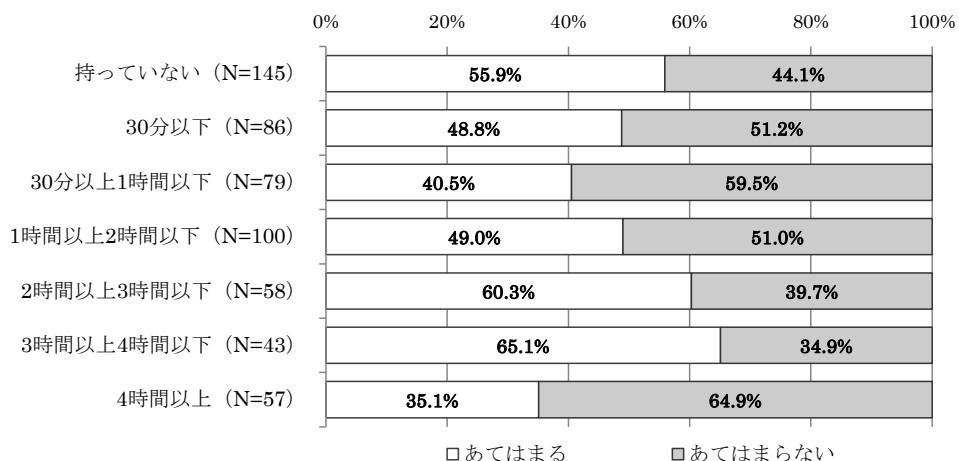
図表 5-14 から、雰囲気がよいクラスであるほど、中1ギャップが発生しない傾向にあることが確認できる。雰囲気が良いクラスで小中間の違いに困っているのは、44.8%であるが、そうではないクラスでは 55.6%にも達している。クラスの雰囲気と中1ギャップの関連は、1%水準で統計的に有意な水準である。しかるに、[仮説 6]は支持された。トラブルを話し合いで解決したり、「ありがとう」を伝え合っている生徒が多いクラスほど、中1ギャップしにくいのである。このことは、クラス内の人間関係によって中1ギャップが発生しているという[仮説 5]が支持されているのと整合的であるように思われる。

4.3 携帯端末利用に関する仮説群

最後に、携帯端末と中1ギャップの関連を検討したい。近年では、LINEなどの通信アプリの普及やSNSの拡大などが顕著である。しかるに、そのようなネット環境の拡大と中1ギャップの関連を検討することも重要な課題であろう。とりわけ、仮説5・仮説6などの人間関係による背後要因が支持されたことから、携帯端末による影響も無視できない。

そこで、中学校1年時の携帯端末の使用時間と中1ギャップの関連を検討すると図表5-15のようになる。なお、[仮説7]が正しければ、中1時に携帯端末の使用時間が長いほど中1ギャップを引き起こしやすいことが想定される。使用時間が長いことは、通話やメール、インターネットの使用時間が長いことを意味することから、学校外でも友人同士で頻繁にやりとりしている生徒を意味することになるであろう。他方で、携帯端末をもっていない生徒は人間関係の常時接続状態にならないことから、中1ギャップしにくいかもしれない。

図表 5-15 中1時の携帯端末使用時間と中1ギャップ



図表 5-15 を確認すると、携帯端末を持っていない生徒の 55.9%が小中間の違いに困っていることが確認でき、「30 分以下」から「30 分以上 1 時間以下」にかけて中1ギャップをする生徒は減少していく。しかしながら、「1 時間以上 2 時間以下」から使用時間が延びるごとに、中1ギャップする生徒が増加していき、「3 時間以上 4 時間以下」では、65.1%もの生徒が中1ギャップしていることが確認できる。しかしながら、「4 時間以上」では、35.1%へと減少しており、単純な U 字型のカーブを描いているわけではない。なお、中1時の携帯端末使用時間と中1ギャップの関連は 5%水準で統計的に有意であった。

したがって、携帯端末をほとんど使用しないと、学校外で友人と連絡を取ることが難しいため、友人関係を構築したり、維持したりすることが難しくなるが、逆に、携帯端末を使用しすぎると、学校外でも“過度に”友人と連絡をとることになるため、友人関係に問題を抱え、中1ギャップをひきおこす可能性があるのではあるまいか。ただし、「4時間以上」では、35.1%へと減少していることに注意しなければならない。「4時間以上」の生徒たちの解釈が難しいけれども、毎日「4時間以上」も通話やメールを行っていることは考えにくいだろう。しかるに、「4時間以上」は主にインターネットを使用している層であるのかもしれない。それゆえ、あくまで推測ではあるが、彼らはインターネットを活用することで中学校の情報を事前に得ており、中1ギャップしにくいのではあるまいか。

以上の分析から、携帯端末の使用と中1ギャップに関連がみられることが明らかになった。しかるに、小学校6年時に携帯端末を使用していることは、中1ギャップに影響を与えるのだろうかという疑問が生じる。最後に、小学校6年時からの携帯端末使用の変化と中1ギャップの関連を検討すると、図表5-16のようになる。

図表 5-16 小6時からの携帯端末使用の変化と中1ギャップ

		中1ギャップ		合計	有効度数
		あてはまる	あてはまらない		
携帯端末 使用の変化	非所有一貫	57.9%	42.1%	100.0%	(107)
	所有一貫	44.9%	55.1%	100.0%	(263)
	携帯取得	57.1%	42.9%	100.0%	(140)
	携帯喪失	46.9%	53.1%	100.0%	(32)
合計		50.7%	49.5%	100.0%	(542)
独立性のカイ二乗検定		p<0.05			

図表5-16から、「非所有一貫」であるほど（小6から継続して携帯端末を使用していないほど）、「携帯取得」であるほど（中1から新しく携帯端末を使用するようになるほど）、中1ギャップする傾向にあることが確認できる。しかるに、[仮説8]は支持されなかった。むしろ、「所有一貫」であるほど（携帯電話を小6から一貫して使用しているほど）、中1ギャップしにくい傾向にあるようである。中学校に入学すると、クラス内でLINEのグループが作成されたり、SNSなどを通じて学校外でも交流するようになる中で、「非所有一貫」の生徒たちは、疎外感のようなものを感じているのかもしれない。他方で、「携帯取得」の生徒たちも（中学校から携帯端末を使いはじめた生徒たちも）、携帯端末の使い方をまだよく理解できていないため、携帯端末を通じた人間関係の構築に苦戦している可能性があるように思われる。いずれにせよ、中学入学前に携帯端末の使い方などに慣れておいたうえで、中学に入学してから適度に携帯端末を使用することが重要なのであろう。

5. 分析結果——二項ロジスティック回帰分析

本節では、クロス集計で得られた変数間の関連が、他の変数を統制した上でもみられるか確認するために、中1ギャップを従属変数にした二項ロジスティック回帰分析を行う。分析の結果を示すと、以下の図表 5-17 のようになった。なお、モデル1には中1時における国語スコアと数学スコアを分析に投入してあり、モデル2には小6時と中1時の国語・数学スコアの変動を分析に投入してある⁶⁾。

図表 5-17 中1ギャップダミーを従属変数とする二項ロジスティック回帰分析

	モデル1		モデル2	
	回帰係数	有意確率	回帰係数	有意確率
国語スコア（基準:上位層）				
中位層	0.008			
下位層	0.242			
数学スコア（基準:上位層）				
中位層	0.059			
下位層	-0.490			
国語スコアの変動（基準:停滞）				
上昇			-0.299	
下降			-0.140	
数学スコアの変動（基準:停滞）				
上昇			0.216	
下降			0.323	
主観的国語成績（基準:上位層）				
中位層	0.090		0.102	
下位層	-0.055		-0.057	
主観的数学成績（基準:上位層）				
中位層	0.090		-0.010	
下位層	0.678	*	0.456	+
男子ダミー	-0.107		-0.136	
友人関係良好ダミー	0.884	*	0.874	*
スクールカースト下位ダミー	1.193	***	1.203	***
雰囲気の良いクラスダミー	-0.470	*	-0.454	*
携帯端末使用の変化（基準:非所有一貫）				
所有一貫	-0.533	*	-0.546	*
携帯喪失	-0.485		-0.428	
携帯取得	-0.021		-0.042	
(定数)	-0.663		-0.627	
有効度数	520		520	
Mcfadden擬似決定係数	0.076		0.074	
-2LogLikelihood	720.596		720.596	
AIC	697.781		699.334	

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 + p<0.1

図表 5-17 からは、次のようなことが読み取れる。第一に、諸変数を統制した上でも、カ

ースト下位層であることは、0.1%水準で有意に正の効果をもっており、主観的に数学ができないと思っていることも、5%水準で有意に正の効果を持っていることが確認できる。第二に、クラスの雰囲気もまた 5%水準で中 1 ギャップに負に有意な影響力を持っており、携帯端末使用の変化に関しても、「非所有一貫」の生徒（小学校 6 年生から一貫して携帯端末を使用していない生徒）に比べて、「所有一貫」の生徒（小学校 6 年生から一貫して携帯端末を使用していない生徒）であるほど、中 1 ギャップが発生しにくいことが読み取れる。しかるに、クロス集計で確認された変数間の関連は、他の変数の影響力をコントロールした上でも、確認できる関連であることが明らかになった。

したがって、諸変数を統制した上でも、①クラス内で馬鹿にされていると感じているほど、②主観的に数学ができないと思っているほど、中 1 ギャップしやすいことが明らかになった。他方で、③携帯端末を小 6 時から一貫して所有していない生徒に比べて、一貫して所有している生徒ほど、④クラス内の雰囲気が良いほど、中 1 ギャップが発生しにくいことも確認できた。しかるに、学業達成というよりも、友人関係や、友人関係を円滑に構築維持するための携帯端末利用の方が、中 1 ギャップの主要な背景になっているのだろう。とくに、クラス内で馬鹿にされていると感じていることの効果が最も顕著に確認でき、学業達成の影響力は、主観的数学の影響力以外確認できなかった。

6. 結論

本章では、小学校 6 年時と中学校 1 年時の 2 時点間のパネルデータという本調査の特徴をいかして、「中 1 ギャップ」が発生する背景を検討してきた。「小学校と中学校の違いに困ったことがある」という「ミクロなギャップ」の指標を用いて、中 1 ギャップが発生する背景に関する分析を行ったところ、以下のようなことが明らかになった。

第一に、学業達成に関しては、数学成績の自己認知が一定の効果をもっていることが明らかになった。なお、中 1 時のスコアや小中間のスコアの変動とは、ほとんど関連がみられなかったことから、実際の学業達成というよりも、児童生徒が自らの成績をどのように評価しているかの方が重要な背景なのであろう。「小学校 6 年時と中学校 1 年時の学業達成の変動が中 1 ギャップの背景になっている可能性は低い」という本章の知見は、今後の小中移行に伴う学校不適応の問題を検討する上で、示唆的な知見であるように思われる。

第二に、友人関係に関しては、スクールカーストとの関連が強くみられ、クラスの雰囲気が良いことは、中 1 ギャップの発生を緩和することも明らかになった。しかるに、「中 1 ギャップ」は勉強面というよりも、新しい環境の中での人間関係の再構築により発生している可能性が高いように思われる。その点、クラスの雰囲気と中 1 ギャップの発生に一定の関連がみられたことは、小中連携・小中一貫の取り組みの中でも、重要な知見であろう。

第三に、携帯端末利用とも有意な関連があることが確認できた。これまでの研究では、携帯端末利用と学校適応の関連はほとんど検討されなかったことから、小学校 6 年生から

一貫して携帯端末を使用していない生徒に比べて、小学校 6 年生から一貫して携帯端末を所有している生徒ほど、中 1 ギャップを引き起こしにくいという本章の分析から得られた知見は、今後の学校適応の問題を検討する上でも、意義があるように思われる。

しかしながら、本章の分析には以下のような限界があることも指摘しておかなければならないだろう。すなわち、中学生のもう 1 つの生活単位である「部活動」に関する背景は検討できていないことである。林川（2015）では、中学生の生活単位として部活動の存在の重要性を指摘しており、その中でも先輩後輩関係が良好である場合に、学校適応感が高いことを明らかにしている。本章における分析から、中 1 ギャップが発生する背景として人間関係が重要な背景であることが明らかになった。しかるに、今後は、クラスだけではなく、部活動における人間関係についても考慮した分析が必要になるであろう。例えば、部活の先輩後輩関係の良好さや部活内の雰囲気考慮した分析を行えば、中 1 ギャップの新たな主要な背景が明らかになるだろう。

以上のような限界があるものの、小中間の縦断的データを用いた研究蓄積が少ない中、中 1 ギャップが発生する背景を、学業達成の変動も含めて分析した本章の知見は、決して小さくはないように思われる。「マクロなギャップ」を解消するためには、症状を的確に診断した上で、適切な小中連携・小中一貫の取り組みを進めていくことが必要であろう。

[注]

- 1) ただし、女子の対教師関係の学校適応については、一貫して低下している（酒井 2007）
- 2) なお、中学 1 年生の 1 時点で中 1 ギャップについて検討した研究も若干であるが存在している。富家・宮前（2009）は小中学校の教員を対象にした質問紙調査を行い、「友人関係」「対教師関係」「学業」「部活」などの各項目に対して、教師目線での中 1 ギャップの要因を自由記述で調査している。また、小中間の教員で情報提供への考え方に相違がみられるなど、小中連携を行う上での教員レベルでの問題点が指摘されている。
- 3) 「学校による方法的社会化が発達した日本では、学校段階間の移行は、移行先の学校において意図的体系的な再社会化がなされるという点で、転居などの他の環境移行以上に危機的な移行なのである。そしてこの過程で小 1 プロブレムや中 1 ギャップといった不適応問題が発生しているのであれば、それは環境移行に伴って生じた不適応というだけではなく、組織的な再社会化作用に対する反作用として把握することが必要であろう」（酒井 2014:106）と酒井自身が述べているように、酒井は移行に伴う学校不適応の原因を校種間の方法的社会化の相違にあると考えているのであろう。
- 4) ただし、小泉（1997）・酒井（2007）などのこれまでの先行研究では、男性であるほど学校適応的であることが指摘されていることに注意されたい。
- 5) 主成分分析の結果を以下の図表 5-18 に示す。

図表 5-18 雰囲気の良いクラスの作成（主成分分析）

	主成分係数
私は、小さなけんかやトラブルは話し合いで解決している	0.641
私は、「ありがとう」を伝え合っている	0.721
私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている	0.704
私は、友だちの間に上下関係なく、誰とでも平等に接している	0.701
私は、友達のよいところやがんばりを認めて伝え合っている	0.768
私は、男女仲よく、共に学んだり活動している	0.653
寄与率	48.90%

6) なお、主観的成績は国語・数学ともに客観的なスコアと強い相関がみられなかったため、どちらのモデルにも投入してある。また、中1時の携帯端末使用時間と中1ギャップとの線形的な関連がみられなかったことから、携帯端末使用時間ではなく、携帯端末使用の変化を分析に投入した。

【参考文献】

- 中央教育審議会，2014，「子供の発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について」
(=http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/12/22/1354193_1_1_1.pdf)
- 土井隆義，2014，『つながりを煽られる子どもたち—ネット依存といじめ問題を考える』岩波ブックレット。
- 林川友貴，2015，「中学校の学校適応メカニズムの実証的検討—学級と部活動に着目して」『教育社会学研究』97:5-24。
- 小泉令三，1992，「中学校進学時における生徒の適応過程」『教育心理学研究』40:348-358。
- 小泉令三，1995，「小学校高学年から中学校における学校適応感の横断的研究」『福岡教育大学紀要』44(4):295-303。
- 小泉令三，1997，『小・中学校での環境移行事態における児童・生徒の適応過程—中学校入学・転校を中心として』風間書房。
- 児島邦宏・佐野金吾，2006，『中1ギャップ克服のプログラム』明治図書。
- 文部科学省，2015，「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」
(=http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm)
- 日本経済新聞，2015，「小中の区切り柔軟に 義務教育で一貫校制度化、改正法成立」
(=http://www.nikkei.com/article/DGXLASDG17H0O_X10C15A6CR0000/)
- 新潟県教育委員会，2007，『中1ギャップ解消調査研究事業報告書（平成15・16年度実施）』
(=http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML_Top2/220/254/chuichi-gap_0.pdf)
- 酒井朗，1995，「選抜機関としての中学校—小学校との接続関係に着目して」木原孝博編『中学校教育の新しい展開 第3巻 社会的自立をめざす生徒指導』第一法規，34-57。
- 酒井朗，2000，「いじめ問題と教師・生徒」，荻谷剛彦・酒井朗ほか編『教育の社会学』有斐閣，1-73。
- 酒井朗，2007，「首都圏における中学進学問題と学校不適応—小中移行の追跡パネル調査をもとに」酒井朗・青木紀久代・菅原ますみ編『子どもの発達危機の理解と支援—漂流する子ども』（誕生から死までの人間発達科学 お茶の水女子大学21世紀COEプログラム 第3巻）金子書房，81-97。
- 酒井朗，2010，「移行期の危機と校種間連携の課題に関する教育臨床社会学—「なめらかな接続」再考」

『教育学研究』 77(2): 132-143.

酒井朗, 2014, 『教育臨床社会学の可能性』 勁草書房.

鈴木翔, 2012, 『教室内カースト』 光文社新書.

富家美那子・宮前淳子, 2009, 「教師の視点からみた中1ギャップに関する研究」『香川大学教育実践総合研究』 18: 89-101.

調査票①

以下は、ベネッセコーポレーションへ委託した「総合学力調査」のうちの「学習意識調査」の調査票である。なお、「学習到達度調査」に関しては非公開である。

平成 27 年度

中学校第 1 学年
学習についてのアンケート

組 番 名前

■あなたのことについて、あてはまるものを右の1～4から一つ選びなさい。

とても
あてはまる まあ
あてはまる あまり
あてはまら
ない まったく
あてはまら
ない

- | | | |
|------|--|---------------|
| (1) | 友だちと外で遊んでいる。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (2) | ゲーム機やケータイ、スマートフォンでゲームをしている。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (3) | 本や新聞を読んでいる。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (4) | パソコンやインターネットを使う。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (5) | 放課後や土曜日などに、学校の活動や集まりがあれば、参加している。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (6) | ゲーム機やケータイ、スマートフォンでゲームをするときは、家の人と時間についてルールを決めている。(ゲームをしない人は、1番を選んでください。) | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (7) | ケータイやスマートフォンで電話やメールをするときは、家の人と時間を決めている。(ケータイやスマートフォンで電話やメールをしない人は、1番を選んでください。) | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (8) | 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (9) | 今まで教えてもらった学校の先生は、自分のことを認めてくれていたと思う。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (10) | 勉強やスポーツのことで、家の人が応えんしてくれる。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (11) | 将来の夢やこれからの進路について家の人と話をする。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (12) | 新聞に書かれていることについて家の人と話をする。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (13) | 朝食は毎日食べている。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (14) | 朝、起こされなくても自分で起きている。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (15) | 夜は決まった時間にねている。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (16) | 家の人からたよりにされて、何かの役割をまかされている。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (17) | 食器の後かたづけなど、自分のことは自分でしている。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (18) | ふだんから「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (19) | 本やドラマなどを見て、人の生き方に感動することがある。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (20) | 学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (21) | 学習して身につけた知識は、いずれ仕事や生活の中で役に立つと思う。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (22) | 学習して、わかったりできたりすることが増えるのは、うれしい。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (23) | 学校に行くのが楽しい。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (24) | 同じまちがいをしないように気をつけている。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| (25) | 努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う。 | 1 — 2 — 3 — 4 |

とても
あてはまる

まあ
あてはまる

あまり
あてはま
らない

まったく
あてはま
らない

- | | | | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (26) | ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (27) | 黒板に書かれていないことでも、大事なことはノートに書きとめている。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (28) | テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (29) | 授業で学んだことを自分なりにノートにまとめ直している。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (30) | 新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (31) | 授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方もいっしょに理解しようとしている。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (32) | 授業で習ったことをふだんの生活と結びつけて考えている。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (33) | 習った内容の中で、何がまだ理解できていないか、わかっている。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (34) | その日のめあてを決めて、授業や家で学習に取り組んでいる。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (35) | 自分で学習の計画を立てている。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (36) | 目標に向けて、ふだんからこつこつ学習している。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (37) | わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (38) | 学習を始めたら、他のことに気をとられないで、集中している。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (39) | かんちがいや思いこみがないか、しっかり見直しをしている。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (40) | 正しい姿勢で学習している。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (41) | 必要なものをきちんとそろえてから、学習を始めている。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (42) | 授業を集中して受けている。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (43) | 調べてわかったことをもとに、考えをまとめることができる。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (44) | 筋道を立てて、ものごとを考えることができる。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (45) | 自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (46) | 調べたことを、パソコンを使ってまとめたり、発表したりすることができる。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (47) | テレビのニュースや新聞などで、最近の社会のできごとをよく知っている。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (48) | 社会で問題になっていることについて、どうすればよいか、考えたことがある。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (49) | 自分がやらなければならないことは、責任を持ってやりぬくことができる。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (50) | 難しいことでも、失敗をおそれないで、取り組んでいる。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (51) | いつも新しいアイデアを考えたり、工夫したりしている。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| (52) | 自分とちがう意見も尊重している。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |

とても まあ あまり まったく
あてはまる あてはまる あてはまら あてはまら
 ない ない

(53) 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある。

1 — 2 — 3 — 4

(54) 自分の力をできるだけのばしたいと思う。

1 — 2 — 3 — 4

■あなたは、次の教科などの勉強がどれくらい好きですか？ 右の1～4から一つ選びなさい。

		とても 好き	まあ 好き	あまり 好きでは ない	好きでは ない
(55)	国語	1	2	3	4
(56)	社会	1	2	3	4
(57)	数学 (算数)	1	2	3	4
(58)	理科	1	2	3	4
(59)	音楽	1	2	3	4
(60)	美術	1	2	3	4
(61)	保健体育	1	2	3	4
(62)	技術	1	2	3	4
(63)	家庭	1	2	3	4
(64)	英語	1	2	3	4
(65)	総合的な学習の時間	1	2	3	4
(66)	道徳	1	2	3	4
(67)	学級活動	1	2	3	4

■あなたは、次の教科などの授業が、どれくらいわかっていますか？ 右の1～4から一つ選びなさい。

		よく わかって いる	まあ わかって いる	あまり わかって いない	まったく わかって いない
(68)	国語	1	2	3	4
(69)	社会	1	2	3	4
(70)	数学 (算数)	1	2	3	4
(71)	理科	1	2	3	4
(72)	音楽	1	2	3	4
(73)	美術	1	2	3	4
(74)	保健体育	1	2	3	4
(75)	技術	1	2	3	4
(76)	家庭	1	2	3	4
(77)	英語	1	2	3	4

■あなたのことについて、あてはまるものを下の1～7から一つ選びなさい。

- (78) あなたは、この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。(教科書や参考書、マンガは数にいません。)

0冊	1, 2冊	3, 4冊	5, 6冊	7, 8冊	9, 10冊	11冊以上
1	2	3	4	5	6	7

- (79) あなたは、学校の授業がある月曜日から金曜日に、1日にどれくらいテレビを見ますか。

ほとんど 見なかった	30分 くらい	1時間 くらい	1時間30分 くらい	2時間 くらい	2時間30分 くらい	3時間以上
1	2	3	4	5	6	7

- (80) あなたは、土曜日や日曜日など、学校が休みの日に、1日にどれくらいテレビを見ますか。

ほとんど 見なかった	30分 くらい	1時間 くらい	1時間30分 くらい	2時間 くらい	2時間30分 くらい	3時間以上
1	2	3	4	5	6	7

- (81) あなたは、学校の授業がある月曜日から金曜日に、学校の授業以外で1日にどれくらい勉強していますか。(じゅくで勉強している時間や、家庭教師の先生にみてもらっている時間もふくみます。)

ほとんど しなかった	30分 くらい	1時間 くらい	1時間30分 くらい	2時間 くらい	2時間30分 くらい	3時間以上
1	2	3	4	5	6	7

- (82) あなたは、土曜日や日曜日など、学校が休みの日に、1日にどれくらい勉強していますか。(じゅくで勉強している時間や、家庭教師の先生にみてもらっている時間もふくみます。)

ほとんど しなかった	30分 くらい	1時間 くらい	1時間30分 くらい	2時間 くらい	2時間30分 くらい	3時間以上
1	2	3	4	5	6	7

- (83) あなたは、学校の授業がある月曜日から金曜日に、1日にどれくらいゲームをしますか。

ほとんど しなかった	30分 くらい	1時間 くらい	1時間30分 くらい	2時間 くらい	2時間30分 くらい	3時間以上
1	2	3	4	5	6	7

- (84) あなたは、土曜日や日曜日など、学校が休みの日に、1日にどれくらいゲームをしますか。

ほとんど しなかった	30分 くらい	1時間 くらい	1時間30分 くらい	2時間 くらい	2時間30分 くらい	3時間以上
1	2	3	4	5	6	7

■あなたの学校での学習や宿題などについて、あてはまるものを右の1～4から一つ選びなさい。

- | | | とても
あてはまる | まあ
あてはまる | あまり
あてはまら
ない | まったく
あてはまら
ない |
|-------|--|--------------|-------------|--------------------|---------------------|
| (85) | 国語の授業で、わからない言葉があれば、国語辞典で調べるようにしている。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (86) | 国語の授業で、文章の書き方のよい例を参考にして書くことがある。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (87) | 国語の授業で、物語を作ったことがある。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (88) | 国語の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (89) | 数学（算数）の授業で、グループで協力して問題を解いて発表することがある。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (90) | 数学（算数）の授業で、文章や式、図や表などを組み合わせて自分の考えを説明したことがある。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (91) | 数学（算数）の宿題で、文章題を作ったことがある。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (92) | 数学（算数）の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (93) | 社会の授業で、テレビや電子黒板などを使って、写真や地図・グラフなどを見ることがある。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (94) | 社会の授業で、調べたことを、新聞形式でまとめたことがある。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (95) | 社会の授業で、いま、世の中で起こっていることについて、資料をもとにして考えることがある。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (96) | 社会の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (97) | 理科の授業で、実験や調査に取り組む前に、仮説を立てたり結果を予想したりしている。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (98) | 理科の授業で、テレビや電子黒板などを使って、実験や観察のようすや自然のいろいろなようすなどについて、写真や映像などを見ることがある。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (99) | 理科の授業で、実験や調査が終わったあとに、気づいたことや新しい疑問などについて、話し合ったりまとめたりしている。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |
| (100) | 理科の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている。 | 1 | — 2 | — 3 | — 4 |

■あなたのことについて、あてはまるものを右の1～4から一つ選びなさい。

		とても あてはまる	まあ あてはまる	あまり あてはまら ない	まったく あてはまら ない
(101)	私は、みんなで決めた学級目標に力を合わせて取り組んでいる。	1	2	3	4
(102)	私は、係や当番の活動に責任を持って取り組んでいる。	1	2	3	4
(103)	私は、自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや活動に、進んで取り組んでいる。	1	2	3	4
(104)	私は、生徒会で決めた活動や学校行事に、進んで取り組んでいる。	1	2	3	4
(105)	私は、学年や学校のためになる活動を提案して、進んで取り組んでいる。	1	2	3	4
(106)	私は、楽しむときとまじめに集中するときのけじめをつけることができる。	1	2	3	4
(107)	私は、集合の時間、授業開始の時間、活動終了の時間などを守っている。	1	2	3	4
(108)	私は、学級会で、司会や記録を担当して話し合いを進めたことがある。	1	2	3	4
(109)	私は、学校や授業で発言している人の話を最後までしっかり聞いている。	1	2	3	4
(110)	私は、友だちの話に賛成・反対・つけたしと、つなげるように発言している。	1	2	3	4
(111)	私は、話し合いのとき、考えや意見を進んで出している。	1	2	3	4
(112)	私は、異なる意見や提案をよく聞いて、話し合いをまとめたことがある。	1	2	3	4
(113)	私は、家庭学習や考査前学習などで、教え合いをしている。	1	2	3	4
(114)	私は、小さなけんかやトラブルは、話し合いで解決している。	1	2	3	4
(115)	私は、「ありがとう」を伝え合っている。	1	2	3	4
(116)	私は、授業中、グループ学習やグループ活動によく協力している。	1	2	3	4
(117)	私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている。	1	2	3	4
(118)	私は、友だちの間に上下関係なく、誰とでも平等に接している。	1	2	3	4
(119)	私は、友だちのよいところやがんばりを認めて伝え合っている。	1	2	3	4
(120)	私は、男女仲よく、共に学んだり活動したりしている。	1	2	3	4
(121)	私は、授業中にむだなおしゃべりをしない。	1	2	3	4

とても まあ あまり まったく
あてはまる あてはまる あてはまら あてはまら
 ない ない

- (122) 私は、あいさつ、服装、持ち物などについて、学校のきまりを守っている。 1 — 2 — 3 — 4
- (123) 私は、ろうかや教室を進んで整理整頓^{せいりせいとん}している。 1 — 2 — 3 — 4
- (124) 私は、校外でも人の迷わくにならないように考えて行動している。 1 — 2 — 3 — 4

質問は、次のページにもあります。

■あなたの家庭での学習について、あてはまるものを右の1～4から一つ選びなさい。

- | | とても
あてはまる | まあ
あてはまる | あまり
あてはま
らない | まったく
あてはま
らない |
|---|--------------|-------------|--------------------|---------------------|
| (125) 家で学習していて、わからないときは教えてくれる人がいる。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (126) 家で学習するときは、苦手な教科もしっかりと学習している。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (127) 学校の先生が出した宿題をきちんとやりとげている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (128) 次の日の授業に必要な教科書やノートなどは、前の日に準備している。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (129) 自分の得意な分野をさらにのばすために、家で自分なりに学んでいることがある。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (130) テレビやラジオをつけないで集中して学習している。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (131) 授業で習ったことは、その日のうちに復習している。 | 1 | 2 | 3 | 4 |

■あなたは将来、どの学校まで進みたいですか。下の1～6から一つ選びなさい。

(132)

- 1 高校まで
- 2 専門学校・各種学校まで
- 3 短期大学まで、
- 4 四年制大学まで
- 5 大学院まで
- 6 その他

続いて、別紙の質問に答えましょう。

調査票②

「学習意識調査」に本研究会が追加して実施した質問紙の調査票である。

●学習についてのアンケート 追加用紙

- ※ 回答はこの追加用紙から始めてください。
 ※ この用紙への回答は直接記入してください。

●●中学校 1 学年	
組	番

Q 1 あなたは現在、部活動に参加していますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-------------------------------|
| 1. 運動部に参加し、熱心に活動している | 2. 運動部に参加しているが、あまり熱心には活動していない |
| 3. 文化部に参加し、熱心に活動している | 4. 文化部に参加しているが、あまり熱心には活動していない |
| 5. 運動部と文化部の両方に参加している | 6. 部活動に参加していない |

Q 2 あなたが高校で進学したい^{がっか}学科は、次のうちどれですか。今、候補^{こうほ}として少しでも考えている番号すべてに○をつけてください。

1. 普通科^{ふつう}（国社数理英を中心に学ぶ高校）
2. 専門学科^{せんもん}（国社数理英以外を中心に学ぶ高校）
3. 総合学科^{そうごう}（関心のある科目を自由に選択する高校）
4. 高校には進学する予定だが、学科はまったく考えていない
5. 高校には進学しない予定

Q 3 あなたは、学年の中でどれくらい勉強ができるほうだと思いますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. とてもよくできる 2. よくできる 3. 普通 4. あまりできない 5. まったくできない

Q 4 次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

どちらかと どちらかと
 いえ いえ
 あてはまる あてはまる あてはまらない あてはまらない

- A. 小学校入学前までに、家の人に本の読み聞かせをしてもらった・・・1 - - - - 2 - - - - 3 - - - - 4
- B. 中学校入学前までに、
 家の人に^{びじゅつかん}美術館・^{はくぶつかん}博物館につれていってもらった・・・1 - - - - 2 - - - - 3 - - - - 4
- C. 小学校と中学校の違いで困ったことがある・・・1 - - - - 2 - - - - 3 - - - - 4
- D. 自分にはよいところがあると思う・・・1 - - - - 2 - - - - 3 - - - - 4
- E. 学校の友だちとうまくやれていると思う・・・1 - - - - 2 - - - - 3 - - - - 4
- F. 将来の夢や目標を持っている・・・1 - - - - 2 - - - - 3 - - - - 4
- G. 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする・・・1 - - - - 2 - - - - 3 - - - - 4
- H. クラスの中で馬鹿にされていると感じることがある・・・1 - - - - 2 - - - - 3 - - - - 4
- I. いつも一緒にいる友だちグループ以外の人とは、
 特に仲良くしたいとは思わない・・・1 - - - - 2 - - - - 3 - - - - 4

Q 5 あなたは^{がくしゅうじゅく}学習塾（^{かていきょうし}家庭教師の先生に教わっている場合も含みます）で勉強をしていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. ^{がくしゅうじゅく}学習塾に通っていない
2. 学校の勉強より進んだ内容や、^{むずか}難しい内容を勉強している
3. 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している
4. 上記 2, 3 の両方の内容を勉強している
5. 上記 2, 3 の両方のどちらともいえない

うらにも質問があります

Q 6 次のことは、あなたにはどれくらいあてはまりますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

	あてはまる	どちらかと いえば あてはまる	どちらかと いえば あてはまらない	あてはまらない
A. 今住んでいる ^{ちいき} 地域の行事に参加している・・・	1	2	3	4
B. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う・・・	1	2	3	4
C. 学校の先生たちの言うことは ^{しんらい} 信頼できると思う・・・	1	2	3	4
D. テストの点数で人を評価することはよくないことだと思う・・・	1	2	3	4
E. 困っている人がいたら社会みんなで助けるべきだと思う・・・	1	2	3	4
F. 少しでも学力の高い高校へ進学したい・・・	1	2	3	4
G. 高校で仕事に直接 ^{ちよくせつ} 役立つことを学びたい・・・	1	2	3	4
H. 高校に進学したら、勉強についていけるかどうか不安だ・・・	1	2	3	4
I. 将来、地位や名 ^{ち い めい} 誉のある職業につきたい・・・	1	2	3	4
J. 将来、自分の興味・関心 ^{きょうみ かんしん} をいかせる仕事につきたい・・・	1	2	3	4

Q 7 あなたは、テストの点数で測ることのできる能力以外の能力をどれくらい持っていると思いますか。まったく持っていない場合を1点、十分に持っている場合を5点として、点数に○をつけてください。

まったく持っていない	十分に持っている
1	5

Q 8 あなたは将来、どれくらい幸せに生きていけると思いますか。まったく幸せに生きていけないと思う場合を1点、とても幸せに生きていけるとする場合を6点として、点数に○をつけてください。

まったく幸せに 生きていけない	とても幸せに 生きていける
1	6

Q 9 あなたは普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、^{けいたいでんわ}携帯電話やスマートフォンで^{つうわ}通話やメール、インターネットをしますか（^{けいたいでんわ}携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます）。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | |
|---|-------------------|
| 1. 4時間以上 | 2. 3時間以上、4時間より少ない |
| 3. 2時間以上、3時間より少ない | 4. 1時間以上、2時間より少ない |
| 5. 30分以上、1時間より少ない | 6. 30分より少ない |
| 7. ^{けいたいでんわ} 携帯電話やスマートフォンを持っていない | |

Q 10 あなたは学年の中でどれくらい国語の勉強ができるほうだと思いますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. とてもよくできる 2. よくできる 3. 普通 4. あまりできない 5. まったくできない

Q 11 あなたは学年の中でどれくらい数学の勉強ができるほうだと思いますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. とてもよくできる 2. よくできる 3. 普通 4. あまりできない 5. まったくできない

付表

以下は、2015 年度中学 1 年生の「総合学力調査」の「学習意識調査」および研究会が追加した別紙の質問紙調査の結果を集計したものである。

調査結果を読むうえでの基礎的な情報として、①「単純分布」、②「性別とのクロス集計」、③「中 1 国語スコア 3 分位とのクロス集計」、④「中 1 数学スコア 3 分位とのクロス集計」の 4 つの列を作成した。これらはすべて列を集計し 100%となるよう集計されている。

なお、国語について 2 名、数学について 1 名が未受験であったため、それを③列および④列の表記から除外している。

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
性別	男子	317	53.1%	100.0%	0.0%	55.1%	54.8%	49.5%	57.5%	49.8%	52.5%
	女子	280	46.9%	0.0%	100.0%	44.9%	45.2%	50.5%	42.5%	50.2%	47.5%
友だちと外で遊んでいる	とてもあてはまる	200	33.5%	41.3%	24.6%	44.9%	35.7%	19.7%	44.1%	34.3%	23.0%
	まああてはまる	198	33.2%	30.9%	35.7%	31.8%	28.1%	39.4%	31.8%	33.3%	34.3%
	あまりあてはまらない	143	24.0%	17.7%	31.1%	16.7%	24.6%	30.8%	14.5%	23.9%	32.4%
	まったくあてはまらない	56	9.4%	10.1%	8.6%	6.6%	11.6%	10.1%	9.5%	8.5%	10.3%
	無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ゲーム機やケータイ、スマートフォンでゲームをしている	とてもあてはまる	335	56.1%	60.9%	50.7%	54.0%	61.3%	53.0%	63.1%	57.3%	48.5%
	まああてはまる	153	25.6%	25.9%	25.4%	27.3%	25.6%	24.2%	25.1%	23.5%	28.4%
	あまりあてはまらない	60	10.1%	6.9%	13.6%	10.1%	7.0%	12.6%	6.1%	12.7%	10.8%
	まったくあてはまらない	49	8.2%	6.3%	10.4%	8.6%	6.0%	10.1%	5.6%	6.6%	12.3%
	無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
本や新聞を読んでいる	とてもあてはまる	146	24.5%	20.2%	29.3%	17.2%	23.1%	33.3%	21.2%	19.7%	32.4%
	まああてはまる	190	31.8%	30.3%	33.6%	25.3%	32.2%	37.4%	25.7%	34.3%	34.3%
	あまりあてはまらない	179	30.0%	32.5%	27.1%	31.3%	31.7%	27.3%	26.3%	34.3%	28.9%
	まったくあてはまらない	82	13.7%	17.0%	10.0%	26.3%	13.1%	2.0%	26.8%	11.7%	4.4%
	無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
パソコンやインターネットを使う	とてもあてはまる	233	39.0%	39.7%	38.2%	33.8%	40.7%	42.9%	39.7%	37.6%	40.2%
	まああてはまる	160	26.8%	26.8%	26.8%	23.7%	27.1%	29.3%	22.9%	28.6%	28.4%
	あまりあてはまらない	113	18.9%	18.0%	20.0%	21.2%	16.6%	19.2%	17.3%	18.3%	21.1%
	まったくあてはまらない	89	14.9%	15.1%	14.6%	20.7%	15.1%	8.6%	20.1%	15.0%	9.8%
	無回答	2	0.3%	0.3%	0.4%	0.5%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.5%
放課後や土曜日などに、学校の活動や集まりがあれば、参加している	とてもあてはまる	281	47.1%	43.5%	51.1%	45.5%	46.7%	49.0%	41.3%	48.4%	51.0%
	まああてはまる	150	25.1%	26.2%	23.9%	22.7%	22.1%	30.8%	26.3%	22.5%	27.0%
	あまりあてはまらない	89	14.9%	14.8%	15.0%	15.7%	14.6%	14.6%	14.0%	15.5%	15.2%
	まったくあてはまらない	74	12.4%	14.8%	9.6%	15.2%	16.1%	5.6%	17.9%	12.7%	6.9%
	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%
ゲーム機やケータイ、スマートフォンでゲームをするときは、家の人と時間についてルールを決めている(ゲームをしない人は、1番を選んでください)	無回答	2	0.3%	0.3%	0.4%	1.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.5%	0.0%
	とてもあてはまる	137	22.9%	18.3%	28.2%	20.7%	20.1%	27.8%	15.6%	22.1%	30.4%
	まああてはまる	160	26.8%	30.0%	23.2%	23.2%	30.2%	26.8%	22.9%	26.8%	29.9%
	あまりあてはまらない	129	21.6%	20.5%	22.9%	17.2%	21.6%	26.3%	18.4%	24.4%	21.6%
	まったくあてはまらない	169	28.3%	30.6%	25.7%	38.4%	28.1%	18.7%	41.9%	26.8%	18.1%
ケータイやスマートフォンで電話やメールをするときは、家の人と時間を決めている(ケータイやスマートフォンで電話やメールをしない人は、1番を選んでください)	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.0%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	とてもあてはまる	220	36.9%	44.2%	28.6%	28.8%	40.2%	41.9%	29.1%	31.9%	49.0%
	まああてはまる	110	18.4%	16.1%	21.1%	16.2%	17.1%	21.7%	15.6%	21.1%	17.6%
	あまりあてはまらない	103	17.3%	12.9%	22.1%	15.2%	16.6%	20.2%	12.3%	21.6%	17.2%
家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	まったくあてはまらない	161	27.0%	26.2%	27.9%	38.9%	26.1%	15.7%	41.9%	24.9%	16.2%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	1.0%	0.0%	0.5%	1.1%	0.5%	0.0%
	とてもあてはまる	346	58.0%	59.0%	56.8%	53.5%	56.8%	63.1%	57.5%	54.0%	62.3%
	まああてはまる	168	28.1%	27.8%	28.6%	28.3%	28.1%	28.3%	25.1%	30.5%	28.4%
	あまりあてはまらない	61	10.2%	8.5%	12.1%	13.1%	11.6%	6.1%	12.3%	11.7%	6.9%
今まで教えてもらった学校の先生は、自分のことを認めてくれたと思う	まったくあてはまらない	19	3.2%	3.8%	2.5%	4.5%	3.0%	2.0%	4.5%	3.3%	2.0%
	無回答	3	0.5%	0.9%	0.0%	0.5%	0.5%	0.5%	0.6%	0.5%	0.5%
	とてもあてはまる	165	27.6%	28.7%	26.4%	28.3%	29.1%	25.3%	23.5%	29.1%	29.4%
	まああてはまる	285	47.7%	44.8%	51.1%	42.4%	45.2%	55.6%	44.1%	47.9%	51.0%
	あまりあてはまらない	106	17.8%	17.4%	18.2%	17.7%	19.1%	16.7%	17.3%	19.2%	16.7%
勉強やスポーツのことで、家の人が応えんしてくる	まったくあてはまらない	38	6.4%	8.8%	3.6%	10.6%	6.0%	2.5%	13.4%	3.8%	2.9%
	無回答	3	0.5%	0.3%	0.7%	1.0%	0.5%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%
	とてもあてはまる	374	62.6%	62.5%	62.9%	64.1%	61.8%	61.6%	62.0%	66.2%	59.3%
	まああてはまる	149	25.0%	24.3%	25.7%	19.2%	26.1%	29.8%	21.2%	22.5%	30.9%
	あまりあてはまらない	50	8.4%	8.5%	8.2%	10.1%	10.1%	5.1%	10.6%	7.5%	7.4%
将来の夢やこれからの進路について家の人と話をする	まったくあてはまらない	21	3.5%	3.8%	3.2%	5.1%	2.0%	3.5%	4.5%	3.8%	2.5%
	無回答	3	0.5%	0.9%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%
	とてもあてはまる	175	29.3%	29.0%	29.6%	29.8%	31.2%	27.3%	30.7%	31.5%	26.0%
	まああてはまる	169	28.3%	26.2%	30.7%	23.7%	25.1%	35.4%	24.6%	26.3%	33.3%
	あまりあてはまらない	161	27.0%	26.8%	27.1%	29.3%	28.1%	23.7%	24.0%	27.2%	29.4%
新聞に書かれていることについて家の人と話をする	まったくあてはまらない	90	15.1%	17.4%	12.5%	16.7%	15.1%	13.6%	19.6%	15.0%	11.3%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	とてもあてはまる	82	13.7%	14.8%	12.5%	11.6%	16.1%	13.1%	14.5%	11.7%	14.7%
	まああてはまる	110	18.4%	16.7%	20.4%	15.7%	17.1%	22.7%	15.1%	17.8%	22.1%
	あまりあてはまらない	174	29.1%	26.2%	32.5%	28.3%	27.1%	32.3%	24.6%	28.2%	34.3%
新聞に書かれていることについて家の人と話をする	まったくあてはまらない	227	38.0%	41.3%	34.3%	42.9%	39.7%	31.3%	44.1%	42.3%	28.4%
	無回答	4	0.7%	0.9%	0.4%	1.5%	0.0%	0.5%	1.7%	0.0%	0.5%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
朝食は毎日食べている	とてもあてはまる	479	80.2%	82.3%	77.9%	75.3%	80.9%	84.8%	72.1%	79.8%	87.7%
	まああてはまる	58	9.7%	7.9%	11.8%	11.6%	10.1%	7.6%	10.6%	11.7%	6.9%
	あまりあてはまらない	30	5.0%	4.7%	5.4%	6.6%	4.0%	4.5%	7.8%	3.8%	3.9%
	まったくあてはまらない	27	4.5%	4.4%	4.6%	5.1%	5.0%	3.0%	7.8%	4.7%	1.5%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	1.5%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%
朝、起こされなくても自分で起きている	とてもあてはまる	177	29.6%	32.2%	26.8%	28.3%	30.7%	30.3%	28.5%	29.6%	30.9%
	まああてはまる	165	27.6%	26.8%	28.6%	28.3%	27.1%	27.8%	24.6%	28.2%	29.9%
	あまりあてはまらない	150	25.1%	25.2%	25.0%	23.7%	22.1%	29.3%	22.3%	24.4%	27.9%
	まったくあてはまらない	104	17.4%	15.5%	19.6%	19.2%	20.1%	12.6%	24.0%	17.8%	11.3%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
夜は決まった時間になてゐる	とてもあてはまる	75	12.6%	14.5%	10.4%	11.1%	15.1%	11.6%	12.8%	8.9%	16.2%
	まああてはまる	169	28.3%	30.0%	26.4%	24.2%	29.6%	31.3%	21.2%	30.5%	32.4%
	あまりあてはまらない	167	28.0%	24.3%	32.1%	26.3%	25.6%	32.3%	21.8%	31.0%	30.4%
	まったくあてはまらない	185	31.0%	30.9%	31.1%	37.9%	29.6%	24.7%	43.6%	29.6%	21.1%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
家の人からたよりにされて、何かの役割をまかされている	とてもあてはまる	144	24.1%	23.3%	25.0%	25.8%	24.6%	21.7%	26.3%	24.9%	21.6%
	まああてはまる	189	31.7%	30.6%	32.9%	29.8%	30.2%	35.4%	26.3%	33.8%	34.3%
	あまりあてはまらない	172	28.8%	27.1%	30.7%	25.3%	27.1%	34.3%	24.0%	28.2%	33.8%
	まったくあてはまらない	90	15.1%	18.6%	11.1%	18.2%	18.1%	8.6%	22.9%	12.7%	10.3%
	無回答	2	0.3%	0.3%	0.4%	1.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.5%	0.0%
食器の後かたづけなど、自分のことは自分でしている	とてもあてはまる	178	29.8%	27.1%	32.9%	30.3%	30.7%	28.3%	30.2%	32.9%	26.5%
	まああてはまる	189	31.7%	29.0%	34.6%	30.8%	31.2%	33.3%	31.3%	29.6%	34.3%
	あまりあてはまらない	154	25.8%	27.8%	23.6%	19.7%	26.1%	31.3%	20.1%	26.3%	29.9%
	まったくあてはまらない	75	12.6%	15.8%	8.9%	18.7%	12.1%	7.1%	17.9%	11.3%	9.3%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
ふだんから「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある	とてもあてはまる	237	39.7%	42.0%	37.1%	37.9%	40.2%	41.4%	38.5%	38.5%	42.2%
	まああてはまる	175	29.3%	26.8%	32.1%	24.7%	28.1%	34.3%	27.9%	25.4%	34.3%
	あまりあてはまらない	125	20.9%	19.6%	22.5%	19.7%	23.1%	20.2%	16.8%	25.8%	19.6%
	まったくあてはまらない	58	9.7%	11.4%	7.9%	16.7%	8.5%	4.0%	16.2%	9.9%	3.9%
	無回答	2	0.3%	0.3%	0.4%	1.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.5%	0.0%
本やドラマなどを見て、人の生き方に感動することがある	とてもあてはまる	204	34.2%	24.9%	44.6%	32.3%	34.7%	35.9%	36.9%	29.6%	36.8%
	まああてはまる	176	29.5%	27.1%	32.1%	28.8%	23.6%	35.9%	23.5%	33.8%	30.4%
	あまりあてはまらない	123	20.6%	26.2%	14.3%	18.7%	26.6%	16.7%	19.0%	23.0%	19.6%
	まったくあてはまらない	90	15.1%	21.1%	8.2%	18.7%	14.6%	11.6%	20.1%	12.7%	12.7%
	無回答	4	0.7%	0.6%	0.7%	1.5%	0.5%	0.0%	0.6%	0.9%	0.5%
学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある	とてもあてはまる	248	41.5%	43.2%	39.6%	41.4%	42.7%	40.4%	38.5%	40.8%	44.6%
	まああてはまる	213	35.7%	32.8%	38.9%	32.3%	35.2%	39.4%	31.3%	35.2%	40.2%
	あまりあてはまらない	87	14.6%	12.9%	16.4%	14.1%	15.6%	14.1%	17.9%	16.4%	9.8%
	まったくあてはまらない	48	8.0%	10.7%	5.0%	11.6%	6.5%	6.1%	11.7%	7.5%	5.4%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
学習して身につけた知識は、いずれ仕事や生活の中で役に立つと思う	とてもあてはまる	301	50.4%	54.3%	46.1%	48.5%	54.3%	48.5%	46.4%	48.8%	55.4%
	まああてはまる	202	33.8%	32.2%	35.7%	30.3%	31.7%	39.4%	31.8%	35.7%	33.8%
	あまりあてはまらない	69	11.6%	9.5%	13.9%	13.6%	9.5%	11.6%	12.8%	12.7%	9.3%
	まったくあてはまらない	24	4.0%	3.8%	4.3%	7.1%	4.5%	0.5%	8.4%	2.8%	1.5%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
学習して、わかったりできたりすることが増えるのは、うれしい	とてもあてはまる	321	53.8%	51.7%	56.1%	54.0%	54.3%	53.5%	49.7%	53.1%	58.3%
	まああてはまる	192	32.2%	33.4%	30.7%	29.3%	31.7%	35.4%	33.0%	31.9%	31.4%
	あまりあてはまらない	53	8.9%	8.8%	8.9%	10.1%	10.1%	6.1%	8.9%	11.3%	6.4%
	まったくあてはまらない	30	5.0%	5.7%	4.3%	6.1%	4.0%	5.1%	7.8%	3.8%	3.9%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
学校に行くのが楽しい	とてもあてはまる	283	47.4%	41.6%	53.9%	47.5%	48.2%	46.0%	38.5%	55.4%	46.6%
	まああてはまる	189	31.7%	34.1%	28.9%	27.3%	32.7%	35.4%	30.7%	28.6%	35.8%
	あまりあてはまらない	77	12.9%	12.6%	13.2%	15.7%	11.6%	11.6%	16.8%	10.3%	12.3%
	まったくあてはまらない	47	7.9%	11.4%	3.9%	9.1%	7.5%	7.1%	13.4%	5.6%	5.4%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
同じまちがいをしないように気をつけている	とてもあてはまる	255	42.7%	41.3%	44.3%	42.9%	44.2%	41.4%	39.1%	42.3%	46.6%
	まああてはまる	262	43.9%	42.9%	45.0%	38.4%	45.7%	47.0%	36.9%	46.5%	47.1%
	あまりあてはまらない	58	9.7%	11.4%	7.9%	10.6%	8.5%	10.1%	16.2%	8.5%	5.4%
	まったくあてはまらない	19	3.2%	3.8%	2.5%	6.6%	1.5%	1.5%	7.3%	1.9%	1.0%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	1.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.9%	0.0%
努力をすれば、自分もたいていのことはできと思う	とてもあてはまる	310	51.9%	56.8%	46.4%	55.6%	57.3%	42.9%	52.5%	54.9%	48.5%
	まああてはまる	190	31.8%	27.4%	36.8%	29.3%	25.1%	40.9%	27.4%	29.6%	37.7%
	あまりあてはまらない	67	11.2%	8.8%	13.9%	9.1%	13.1%	11.6%	11.7%	10.8%	11.3%
	まったくあてはまらない	29	4.9%	6.6%	2.9%	5.6%	4.5%	4.5%	7.8%	4.7%	2.5%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
ものごとを最後までやり つけて、うれしかったことが ある	とてもあてはまる	440	73.7%	71.3%	76.4%	70.7%	74.9%	75.3%	69.8%	76.5%	74.0%
	まああてはまる	112	18.8%	19.9%	17.5%	19.2%	18.6%	18.7%	18.4%	18.3%	19.6%
	あまりあてはまらない	27	4.5%	4.7%	4.3%	5.1%	5.0%	3.5%	5.6%	4.2%	3.9%
	まったくあてはまらない	16	2.7%	3.5%	1.8%	4.5%	1.0%	2.5%	5.0%	0.9%	2.5%
	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
黒板に書かれていないこ とでも、大事なことはノー トに書きとめている	とてもあてはまる	197	33.0%	26.2%	40.7%	34.3%	28.6%	36.4%	31.8%	31.9%	35.3%
	まああてはまる	234	39.2%	38.8%	39.6%	33.3%	41.7%	42.4%	31.8%	43.7%	41.2%
	あまりあてはまらない	116	19.4%	23.0%	15.4%	20.2%	20.6%	17.2%	20.7%	19.7%	17.6%
	まったくあてはまらない	48	8.0%	11.7%	3.9%	11.1%	9.0%	4.0%	15.1%	4.2%	5.9%
	無回答	2	0.3%	0.3%	0.4%	1.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.5%	0.0%
テストでまちがえた問題 は、もう一度やり直してい る	とてもあてはまる	130	21.8%	22.1%	21.4%	21.7%	20.6%	23.2%	16.2%	22.5%	26.0%
	まああてはまる	218	36.5%	32.8%	40.7%	28.8%	38.2%	42.9%	30.2%	36.6%	42.2%
	あまりあてはまらない	169	28.3%	28.1%	28.6%	29.8%	28.1%	26.3%	29.6%	31.5%	23.5%
	まったくあてはまらない	79	13.2%	16.7%	9.3%	19.2%	13.1%	7.6%	23.5%	9.4%	8.3%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
授業で学んだことを自分 なりにノートにまとめ直し ている	とてもあてはまる	136	22.8%	21.1%	24.6%	19.2%	22.1%	26.8%	17.3%	22.1%	27.9%
	まああてはまる	154	25.8%	23.0%	28.9%	31.3%	24.1%	21.7%	27.9%	28.6%	21.1%
	あまりあてはまらない	195	32.7%	31.9%	33.6%	27.8%	33.7%	36.9%	27.9%	31.9%	37.7%
	まったくあてはまらない	109	18.3%	23.0%	12.9%	20.7%	19.6%	14.6%	26.3%	17.4%	12.3%
	無回答	3	0.5%	0.9%	0.0%	1.0%	0.5%	0.0%	0.6%	0.0%	1.0%
新しく習ったことは、何度 もくり返して練習している	とてもあてはまる	58	9.7%	11.4%	7.9%	11.1%	11.1%	7.1%	7.8%	10.3%	10.8%
	まああてはまる	172	28.8%	27.1%	30.7%	24.2%	25.1%	37.4%	19.0%	30.0%	36.3%
	あまりあてはまらない	241	40.4%	38.5%	42.5%	37.4%	44.7%	38.9%	41.3%	39.9%	40.2%
	まったくあてはまらない	123	20.6%	22.1%	18.9%	26.8%	18.6%	16.2%	31.3%	19.2%	12.3%
	無回答	3	0.5%	0.9%	0.0%	0.5%	0.5%	0.5%	0.6%	0.5%	0.5%
授業で習ったことはその まま覚えるのではなく、そ の理由や考え方もいい しょに理解しようとしてい る	とてもあてはまる	122	20.4%	21.8%	18.9%	17.2%	18.1%	25.8%	14.0%	17.4%	28.9%
	まああてはまる	204	34.2%	32.2%	36.4%	26.8%	33.7%	42.4%	26.8%	34.3%	40.7%
	あまりあてはまらない	185	31.0%	29.7%	32.5%	35.9%	33.7%	23.2%	35.2%	35.7%	22.5%
	まったくあてはまらない	84	14.1%	15.8%	12.1%	19.7%	14.6%	8.1%	23.5%	12.7%	7.4%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
授業で習ったことをふだ んの生活と結びつけて考 えている	とてもあてはまる	85	14.2%	18.0%	10.0%	15.7%	13.6%	13.1%	13.4%	13.6%	15.2%
	まああてはまる	182	30.5%	28.1%	33.2%	30.3%	28.1%	33.3%	22.3%	31.5%	36.8%
	あまりあてはまらない	228	38.2%	34.1%	42.9%	31.8%	42.2%	40.4%	34.6%	40.8%	38.7%
	まったくあてはまらない	101	16.9%	19.6%	13.9%	21.7%	16.1%	13.1%	29.1%	14.1%	9.3%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
習った内容の中で、何が まだ理解できていない か、わかっている	とてもあてはまる	228	38.2%	37.5%	38.9%	35.4%	42.2%	37.4%	34.1%	38.0%	42.2%
	まああてはまる	233	39.0%	40.1%	37.9%	33.3%	38.7%	44.9%	34.1%	42.3%	39.7%
	あまりあてはまらない	99	16.6%	14.5%	18.9%	18.2%	14.6%	16.7%	17.9%	15.5%	16.7%
	まったくあてはまらない	36	6.0%	7.6%	4.3%	12.6%	4.5%	1.0%	13.4%	4.2%	1.5%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
その日のめあてを決め て、授業や家で学習に取 り組んでいる	とてもあてはまる	89	14.9%	18.6%	10.7%	18.2%	13.1%	13.6%	16.2%	14.6%	14.2%
	まああてはまる	132	22.1%	21.1%	23.2%	25.3%	22.1%	19.2%	21.2%	22.5%	22.5%
	あまりあてはまらない	225	37.7%	33.4%	42.5%	29.3%	41.7%	41.9%	33.5%	36.2%	43.1%
	まったくあてはまらない	150	25.1%	26.5%	23.6%	26.8%	23.1%	25.3%	28.5%	26.8%	20.1%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
自分で学習の計画を立 てている	とてもあてはまる	86	14.4%	15.5%	13.2%	16.7%	15.1%	11.6%	11.2%	16.4%	15.2%
	まああてはまる	144	24.1%	24.3%	23.9%	22.7%	21.6%	28.3%	18.4%	24.4%	28.9%
	あまりあてはまらない	225	37.7%	33.8%	42.1%	34.3%	39.2%	39.4%	38.5%	36.6%	38.2%
	まったくあてはまらない	141	23.6%	26.2%	20.7%	25.8%	24.1%	20.7%	31.3%	22.5%	17.6%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
目標に向けて、ふだんか らこつこつ学習している	とてもあてはまる	89	14.9%	17.0%	12.5%	16.7%	11.6%	16.7%	12.8%	14.6%	17.2%
	まああてはまる	160	26.8%	24.9%	28.9%	23.2%	30.2%	27.3%	24.0%	25.8%	30.4%
	あまりあてはまらない	237	39.7%	37.2%	42.5%	41.4%	36.7%	40.4%	38.5%	41.8%	38.2%
	まったくあてはまらない	109	18.3%	20.2%	16.1%	18.2%	21.1%	15.7%	24.0%	17.4%	14.2%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%	0.6%	0.5%	0.0%
わからないことはそのま まにせず、わかるまで努 力している	とてもあてはまる	120	20.1%	21.8%	18.2%	16.7%	20.6%	23.2%	11.2%	19.7%	28.4%
	まああてはまる	236	39.5%	38.5%	40.7%	36.9%	39.2%	42.9%	35.2%	38.0%	45.1%
	あまりあてはまらない	171	28.6%	25.6%	32.1%	30.3%	29.1%	25.8%	33.5%	31.5%	21.1%
	まったくあてはまらない	69	11.6%	13.9%	8.9%	15.7%	11.1%	8.1%	19.6%	10.8%	5.4%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
学習を始めたら、他のこ とに気をとられないで、集 中している	とてもあてはまる	84	14.1%	16.1%	11.8%	12.6%	15.6%	13.6%	11.2%	15.0%	15.2%
	まああてはまる	201	33.7%	30.9%	36.8%	29.3%	35.7%	36.4%	27.9%	33.8%	38.7%
	あまりあてはまらない	205	34.3%	34.1%	34.6%	35.4%	32.2%	35.4%	31.3%	36.2%	35.3%
	まったくあてはまらない	106	17.8%	18.6%	16.8%	22.2%	16.6%	14.6%	29.1%	15.0%	10.8%
	無回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
かんちがいや思いこみがないか、しっかり見直しをしている	とてもあてはまる	106	17.8%	19.9%	15.4%	18.2%	18.1%	17.2%	16.8%	18.3%	18.1%
	まああてはまる	237	39.7%	37.2%	42.5%	32.8%	40.2%	46.0%	29.6%	39.4%	48.5%
	あまりあてはまらない	185	31.0%	29.7%	32.5%	29.8%	31.2%	31.8%	33.5%	31.0%	28.9%
	まったくあてはまらない	65	10.9%	12.3%	9.3%	18.2%	10.1%	4.5%	19.0%	10.8%	3.9%
	無回答	4	0.7%	0.9%	0.4%	1.0%	0.5%	0.5%	1.1%	0.5%	0.5%
正しい姿勢で学習している	とてもあてはまる	77	12.9%	11.7%	14.3%	12.6%	13.1%	12.6%	9.5%	14.1%	14.2%
	まああてはまる	231	38.7%	38.8%	38.6%	36.9%	38.2%	40.9%	30.7%	41.3%	43.1%
	あまりあてはまらない	204	34.2%	32.8%	35.7%	31.3%	35.7%	35.9%	38.0%	29.6%	35.8%
	まったくあてはまらない	83	13.9%	16.1%	11.4%	18.7%	13.1%	10.1%	21.2%	15.0%	6.4%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
必要なものをきちんとそろえてから、学習を始めている	とてもあてはまる	289	48.4%	47.3%	49.6%	49.5%	50.3%	45.5%	46.4%	51.6%	46.6%
	まああてはまる	198	33.2%	32.5%	33.9%	33.3%	30.2%	35.9%	31.3%	30.5%	37.7%
	あまりあてはまらない	80	13.4%	13.2%	13.6%	11.1%	13.1%	16.2%	11.7%	14.6%	13.7%
	まったくあてはまらない	28	4.7%	6.3%	2.9%	5.6%	6.5%	2.0%	10.1%	3.3%	1.5%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
授業を集中して受けている	とてもあてはまる	199	33.3%	33.8%	32.9%	27.3%	34.2%	38.9%	23.5%	32.9%	42.6%
	まああてはまる	262	43.9%	44.8%	42.9%	41.9%	40.7%	48.5%	36.3%	48.4%	45.6%
	あまりあてはまらない	113	18.9%	17.0%	21.1%	23.7%	21.6%	11.6%	30.2%	16.9%	11.3%
	まったくあてはまらない	21	3.5%	3.8%	3.2%	6.6%	3.5%	0.5%	9.5%	1.9%	0.0%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
調べてわかったことをもとに、考えをまとめることができる	とてもあてはまる	112	18.8%	19.6%	17.9%	14.1%	17.1%	24.7%	15.1%	16.0%	24.5%
	まああてはまる	204	34.2%	35.0%	33.2%	31.3%	32.7%	38.9%	24.0%	36.6%	40.7%
	あまりあてはまらない	214	35.8%	31.9%	40.4%	38.9%	36.7%	31.8%	36.3%	40.8%	30.4%
	まったくあてはまらない	64	10.7%	12.9%	8.2%	14.6%	13.6%	4.0%	23.5%	6.6%	3.9%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	1.0%	0.0%	0.5%	1.1%	0.0%	0.5%
筋道を立てて、ものごとを考えることができる	とてもあてはまる	103	17.3%	17.7%	16.8%	16.2%	15.6%	20.2%	15.6%	17.4%	18.6%
	まああてはまる	208	34.8%	36.9%	32.5%	30.3%	35.2%	38.9%	26.3%	33.8%	43.1%
	あまりあてはまらない	229	38.4%	33.4%	43.9%	38.4%	40.7%	35.9%	34.6%	45.1%	34.8%
	まったくあてはまらない	55	9.2%	11.4%	6.8%	14.6%	8.5%	4.5%	22.9%	3.8%	2.9%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる	とてもあてはまる	79	13.2%	13.9%	12.5%	13.6%	13.6%	12.6%	12.8%	13.1%	13.7%
	まああてはまる	194	32.5%	34.4%	30.4%	24.7%	33.2%	39.9%	22.3%	35.7%	38.2%
	あまりあてはまらない	234	39.2%	35.6%	43.2%	39.4%	39.2%	38.4%	38.0%	38.5%	40.7%
	まったくあてはまらない	88	14.7%	15.5%	13.9%	21.7%	14.1%	8.6%	26.3%	12.7%	6.9%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
調べたことを、パソコンを使ってまとめたり、発表したりすることができる	とてもあてはまる	83	13.9%	14.2%	13.6%	11.1%	10.6%	20.2%	8.9%	13.1%	19.1%
	まああてはまる	145	24.3%	26.8%	21.4%	20.7%	22.6%	29.8%	18.4%	25.8%	27.9%
	あまりあてはまらない	237	39.7%	34.1%	46.1%	34.3%	45.7%	38.4%	34.1%	43.2%	40.7%
	まったくあてはまらない	130	21.8%	24.3%	18.9%	33.3%	21.1%	11.1%	38.0%	17.8%	11.8%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
テレビのニュースや新聞などで、最近の社会のできごとをよく知っている	とてもあてはまる	156	26.1%	30.6%	21.1%	25.8%	26.6%	25.8%	27.4%	22.5%	28.4%
	まああてはまる	237	39.7%	34.7%	45.4%	31.8%	40.7%	47.0%	33.5%	42.3%	42.6%
	あまりあてはまらない	148	24.8%	24.6%	25.0%	29.3%	25.1%	19.7%	26.3%	26.3%	22.1%
	まったくあてはまらない	53	8.9%	9.1%	8.6%	12.1%	7.5%	7.1%	12.3%	8.5%	6.4%
	無回答	3	0.5%	0.9%	0.0%	1.0%	0.0%	0.5%	0.6%	0.5%	0.5%
社会で問題になっていることについて、どうすればよいか、考えたことがある	とてもあてはまる	130	21.8%	26.2%	16.8%	18.2%	23.6%	23.7%	20.1%	22.5%	22.5%
	まああてはまる	159	26.6%	26.5%	26.8%	24.7%	24.6%	30.8%	24.0%	24.4%	31.4%
	あまりあてはまらない	193	32.3%	28.4%	36.8%	30.8%	31.2%	34.8%	29.1%	34.3%	33.3%
	まったくあてはまらない	112	18.8%	18.0%	19.6%	25.3%	20.6%	10.1%	25.7%	18.8%	12.3%
	無回答	3	0.5%	0.9%	0.0%	1.0%	0.0%	0.5%	1.1%	0.0%	0.5%
自分がやらなければならないことは、責任を持ってやりぬくことができる	とてもあてはまる	203	34.0%	33.1%	35.0%	32.3%	32.7%	36.9%	26.8%	38.5%	35.3%
	まああてはまる	275	46.1%	44.8%	47.5%	39.4%	48.2%	50.5%	43.6%	42.7%	52.0%
	あまりあてはまらない	98	16.4%	16.7%	16.1%	22.2%	16.6%	10.6%	22.3%	16.9%	10.8%
	まったくあてはまらない	19	3.2%	4.7%	1.4%	5.6%	2.5%	1.5%	6.7%	1.9%	1.5%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
難しいことでも、失敗をおそれないで、取り組んでいる	とてもあてはまる	158	26.5%	28.1%	24.6%	31.3%	30.2%	18.2%	26.8%	27.7%	25.0%
	まああてはまる	229	38.4%	36.6%	40.4%	32.3%	40.2%	42.4%	35.8%	38.5%	40.7%
	あまりあてはまらない	161	27.0%	25.6%	28.6%	23.2%	23.6%	33.8%	21.2%	28.6%	29.9%
	まったくあてはまらない	46	7.7%	9.1%	6.1%	12.1%	6.0%	5.1%	15.6%	4.7%	3.9%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	1.0%	0.0%	0.5%	0.6%	0.5%	0.5%
いつも新しいアイデアを考えたたり、工夫したりしている	とてもあてはまる	142	23.8%	28.7%	18.2%	24.7%	23.6%	23.2%	21.8%	26.3%	23.0%
	まああてはまる	193	32.3%	28.4%	36.8%	29.8%	32.7%	34.8%	27.4%	32.4%	36.8%
	あまりあてはまらない	210	35.2%	32.5%	38.2%	32.8%	35.2%	36.9%	35.8%	32.9%	36.8%
	まったくあてはまらない	49	8.2%	9.8%	6.4%	11.6%	8.5%	4.5%	14.5%	8.0%	2.9%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	1.0%	0.0%	0.5%	0.6%	0.5%	0.5%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
自分とちがう意見も尊重している	とてもあてはまる	158	26.5%	30.6%	21.8%	27.8%	23.6%	28.3%	27.4%	24.9%	27.5%
	まああてはまる	266	44.6%	37.9%	52.1%	30.8%	49.7%	53.0%	31.3%	46.5%	53.9%
	あまりあてはまらない	125	20.9%	22.7%	18.9%	24.7%	22.6%	15.2%	26.3%	23.9%	13.2%
	まったくあてはまらない	44	7.4%	7.9%	6.8%	15.2%	4.0%	3.0%	14.0%	4.2%	4.9%
	無回答	4	0.7%	0.9%	0.4%	1.5%	0.0%	0.5%	1.1%	0.5%	0.5%
自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある	とてもあてはまる	254	42.5%	44.2%	40.7%	41.9%	42.2%	43.9%	38.0%	41.3%	48.0%
	まああてはまる	181	30.3%	29.7%	31.1%	26.8%	28.6%	35.4%	27.9%	32.9%	29.9%
	あまりあてはまらない	112	18.8%	15.5%	22.5%	22.2%	19.6%	14.1%	20.7%	18.3%	17.2%
	まったくあてはまらない	47	7.9%	10.1%	5.4%	8.1%	9.5%	6.1%	12.8%	7.0%	4.4%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	1.0%	0.0%	0.5%	0.6%	0.5%	0.5%
自分の力をできるだけのばしたいと思う	とてもあてはまる	425	71.2%	73.2%	68.9%	67.7%	69.3%	76.3%	65.4%	70.9%	76.5%
	まああてはまる	126	21.1%	18.0%	24.6%	19.2%	24.1%	20.2%	19.0%	23.5%	20.6%
	あまりあてはまらない	27	4.5%	4.4%	4.6%	7.1%	4.5%	2.0%	9.5%	3.3%	1.5%
	まったくあてはまらない	16	2.7%	3.8%	1.4%	5.1%	2.0%	1.0%	5.6%	1.9%	1.0%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	1.0%	0.0%	0.5%	0.6%	0.5%	0.5%
教科の好き嫌い :国語	とても好き	83	13.9%	13.6%	14.3%	13.1%	12.1%	16.7%	15.1%	9.9%	17.2%
	まあ好き	227	38.0%	29.7%	47.5%	32.3%	40.7%	40.4%	36.9%	39.0%	37.7%
	あまり好きでない	184	30.8%	35.3%	25.7%	33.3%	27.6%	31.8%	26.3%	35.2%	30.4%
	まったく好きでない	101	16.9%	20.8%	12.5%	20.7%	19.6%	10.6%	21.2%	16.0%	14.2%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
教科の好き嫌い :社会	とても好き	125	20.9%	26.2%	15.0%	18.7%	20.6%	23.7%	18.4%	20.7%	23.5%
	まあ好き	225	37.7%	43.2%	31.4%	36.9%	37.7%	38.4%	35.8%	36.2%	41.2%
	あまり好きでない	142	23.8%	16.7%	31.8%	23.7%	21.6%	25.8%	22.9%	26.8%	21.1%
	まったく好きでない	103	17.3%	13.2%	21.8%	20.2%	20.1%	11.6%	22.3%	16.4%	13.7%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
教科の好き嫌い :数学	とても好き	142	23.8%	29.0%	17.9%	21.7%	21.6%	27.8%	16.2%	23.0%	30.9%
	まあ好き	204	34.2%	36.3%	31.8%	32.3%	33.2%	37.4%	28.5%	35.2%	38.2%
	あまり好きでない	137	22.9%	18.9%	27.5%	24.2%	21.6%	23.2%	24.0%	25.4%	19.6%
	まったく好きでない	112	18.8%	15.1%	22.9%	21.2%	23.6%	11.1%	30.7%	16.4%	10.8%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
教科の好き嫌い :理科	とても好き	185	31.0%	37.2%	23.9%	30.8%	29.6%	32.8%	30.2%	30.0%	32.8%
	まあ好き	191	32.0%	34.1%	29.6%	27.8%	36.7%	31.8%	31.3%	30.0%	34.8%
	あまり好きでない	127	21.3%	18.9%	23.9%	20.7%	18.1%	24.7%	16.8%	25.4%	21.1%
	まったく好きでない	90	15.1%	8.8%	22.1%	19.7%	15.6%	9.6%	21.2%	14.1%	10.3%
	無効回答	2	0.3%	0.3%	0.4%	0.5%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.5%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
教科の好き嫌い :音楽	とても好き	141	23.6%	13.9%	34.6%	25.3%	21.1%	24.2%	24.6%	23.0%	23.5%
	まあ好き	179	30.0%	26.8%	33.6%	25.8%	30.2%	34.3%	27.9%	28.2%	33.8%
	あまり好きでない	163	27.3%	34.4%	19.3%	31.3%	26.6%	23.7%	30.7%	29.1%	22.1%
	まったく好きでない	112	18.8%	24.3%	12.5%	17.2%	22.1%	17.2%	16.2%	19.7%	20.1%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
教科の好き嫌い :美術	とても好き	169	28.3%	22.4%	35.0%	34.3%	25.6%	25.3%	30.7%	27.7%	27.0%
	まあ好き	190	31.8%	27.4%	36.8%	26.3%	35.7%	33.3%	31.8%	30.0%	33.8%
	あまり好きでない	153	25.6%	30.0%	20.7%	23.2%	25.1%	28.8%	20.1%	28.6%	27.5%
	まったく好きでない	83	13.9%	19.6%	7.5%	15.7%	13.6%	12.1%	16.8%	13.6%	11.3%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
教科の好き嫌い :保健体育	とても好き	250	41.9%	48.9%	33.9%	51.0%	43.7%	30.3%	50.3%	45.5%	30.4%
	まあ好き	168	28.1%	26.5%	30.0%	22.2%	28.6%	33.8%	24.0%	26.8%	33.3%
	あまり好きでない	122	20.4%	15.5%	26.1%	17.2%	18.6%	25.8%	16.2%	17.8%	27.0%
	まったく好きでない	54	9.0%	8.2%	10.0%	9.1%	8.5%	9.6%	8.9%	9.9%	8.3%
	無回答	3	0.5%	0.9%	0.0%	0.5%	0.5%	0.5%	0.6%	0.0%	1.0%
教科の好き嫌い :技術	とても好き	180	30.2%	35.6%	23.9%	36.4%	24.6%	29.8%	29.6%	29.6%	31.4%
	まあ好き	193	32.3%	33.1%	31.4%	25.3%	36.7%	35.4%	28.5%	31.9%	36.3%
	あまり好きでない	143	24.0%	17.0%	31.8%	22.7%	26.1%	22.7%	25.1%	24.9%	22.1%
	まったく好きでない	79	13.2%	13.6%	12.9%	15.2%	12.6%	11.6%	16.2%	13.6%	9.8%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
教科の好き嫌い :家庭	とても好き	137	22.9%	17.4%	29.3%	25.8%	22.6%	20.7%	27.4%	24.4%	17.6%
	まあ好き	198	33.2%	31.2%	35.4%	31.8%	32.2%	34.8%	30.2%	31.9%	36.8%
	あまり好きでない	163	27.3%	30.0%	24.3%	25.8%	29.6%	26.8%	25.1%	25.8%	30.9%
	まったく好きでない	81	13.6%	17.0%	9.6%	15.2%	12.6%	13.1%	15.1%	14.6%	11.3%
	無回答	18	3.0%	4.4%	1.4%	1.5%	3.0%	4.5%	2.2%	3.3%	3.4%
教科の好き嫌い :英語	とても好き	157	26.3%	24.3%	28.6%	28.8%	21.6%	28.3%	22.9%	25.4%	29.9%
	まあ好き	195	32.7%	30.0%	35.7%	25.3%	33.2%	39.9%	27.9%	31.0%	38.7%
	あまり好きでない	127	21.3%	23.7%	18.6%	18.2%	27.1%	18.7%	17.9%	25.4%	20.1%
	まったく好きでない	116	19.4%	21.5%	17.1%	27.3%	18.1%	12.6%	30.7%	18.3%	10.8%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
教科の好き嫌い :総合的な学習の時間	とても好き	204	34.2%	29.3%	39.6%	41.4%	34.2%	26.3%	38.0%	36.2%	28.4%
	まあ好き	209	35.0%	34.7%	35.4%	26.8%	35.2%	43.4%	27.9%	31.9%	44.6%
	あまり好きでない	122	20.4%	21.8%	18.9%	19.7%	21.1%	20.7%	20.1%	21.6%	19.6%
	まったく好きでない	58	9.7%	13.2%	5.7%	11.1%	9.5%	8.6%	12.8%	10.3%	6.4%
	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	0.5%	0.0%	1.0%	0.6%	0.0%	1.0%
教科の好き嫌い :道徳	とても好き	157	26.3%	24.3%	28.6%	32.8%	26.6%	19.2%	35.8%	23.9%	20.1%
	まあ好き	203	34.0%	33.1%	35.0%	28.8%	35.2%	37.9%	31.3%	34.3%	36.3%
	あまり好きでない	154	25.8%	25.2%	26.4%	25.8%	24.6%	27.3%	19.0%	29.1%	28.4%
	まったく好きでない	81	13.6%	16.7%	10.0%	12.1%	13.6%	15.2%	13.4%	12.7%	14.7%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
教科の好き嫌い :学級活動	とても好き	204	34.2%	30.6%	38.2%	36.4%	34.2%	31.3%	37.4%	31.5%	33.8%
	まあ好き	194	32.5%	30.9%	34.3%	26.3%	33.7%	37.9%	25.7%	32.9%	38.2%
	あまり好きでない	129	21.6%	23.0%	20.0%	24.2%	21.1%	19.7%	22.9%	22.5%	19.6%
	まったく好きでない	68	11.4%	14.8%	7.5%	12.6%	11.1%	10.6%	13.4%	13.1%	7.8%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
教科の理解度 :国語	よくわかっている	87	14.6%	11.4%	18.2%	10.1%	11.6%	21.7%	7.8%	11.3%	23.5%
	まあわかっている	328	54.9%	53.9%	56.1%	42.4%	58.3%	64.1%	45.3%	57.7%	60.8%
	あまりわかっている	138	23.1%	26.5%	19.3%	33.8%	23.1%	12.6%	30.7%	24.4%	15.2%
	まったくわかっている	38	6.4%	6.9%	5.7%	12.1%	6.0%	1.0%	14.0%	6.1%	0.0%
	無回答	6	1.0%	1.3%	0.7%	1.5%	1.0%	0.5%	2.2%	0.5%	0.5%
教科の理解度 :社会	よくわかっている	106	17.8%	20.5%	14.6%	15.2%	12.6%	25.8%	12.8%	15.5%	24.5%
	まあわかっている	253	42.4%	47.9%	36.1%	31.8%	48.7%	46.5%	30.2%	42.7%	52.9%
	あまりわかっている	181	30.3%	23.3%	38.2%	39.4%	29.6%	22.2%	40.8%	33.3%	18.1%
	まったくわかっている	54	9.0%	7.3%	11.1%	13.1%	8.5%	5.1%	15.1%	8.5%	3.9%
	無回答	3	0.5%	0.9%	0.0%	0.5%	0.5%	0.5%	1.1%	0.0%	0.5%
教科の理解度 :数学	よくわかっている	193	32.3%	37.5%	26.4%	22.7%	31.7%	42.9%	15.6%	30.5%	49.0%
	まあわかっている	231	38.7%	38.8%	38.6%	36.9%	36.7%	42.4%	31.8%	43.2%	39.7%
	あまりわかっている	123	20.6%	16.1%	25.7%	25.3%	24.6%	11.6%	34.1%	20.2%	9.3%
	まったくわかっている	48	8.0%	6.9%	9.3%	14.6%	7.0%	2.5%	17.9%	6.1%	1.5%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
教科の理解度 :理科	よくわかっている	141	23.6%	27.1%	19.6%	23.2%	19.6%	28.3%	15.6%	23.0%	31.4%
	まあわかっている	271	45.4%	48.9%	41.4%	34.3%	50.8%	51.0%	38.5%	48.8%	47.5%
	あまりわかっている	133	22.3%	18.3%	26.8%	24.7%	25.1%	16.7%	28.5%	20.7%	18.6%
	まったくわかっている	50	8.4%	5.0%	12.1%	17.2%	4.5%	3.5%	16.8%	7.5%	2.0%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
教科の理解度 :音楽	よくわかっている	129	21.6%	12.6%	31.8%	19.2%	20.1%	25.3%	17.3%	21.1%	26.0%
	まあわかっている	211	35.3%	33.8%	37.1%	33.3%	30.2%	42.9%	34.1%	33.3%	38.7%
	あまりわかっている	183	30.7%	34.7%	26.1%	29.8%	38.2%	23.7%	30.7%	33.3%	27.5%
	まったくわかっている	70	11.7%	17.7%	5.0%	16.7%	11.1%	7.6%	16.8%	12.2%	6.9%
	無回答	4	0.7%	1.3%	0.0%	1.0%	0.5%	0.5%	1.1%	0.0%	1.0%
教科の理解度 :美術	よくわかっている	165	27.6%	22.4%	33.6%	30.8%	28.1%	23.7%	28.5%	27.2%	27.0%
	まあわかっている	262	43.9%	41.0%	47.1%	34.3%	46.2%	51.0%	33.5%	45.1%	52.0%
	あまりわかっている	117	19.6%	24.3%	14.3%	22.7%	17.1%	19.2%	23.5%	20.2%	15.7%
	まったくわかっている	50	8.4%	11.4%	5.0%	11.6%	8.5%	5.1%	14.0%	7.5%	4.4%
	無回答	3	0.5%	0.9%	0.0%	0.5%	0.0%	1.0%	0.6%	0.0%	1.0%
教科の理解度 :保健体育	よくわかっている	185	31.0%	31.5%	30.4%	40.4%	29.1%	23.2%	36.3%	31.0%	26.0%
	まあわかっている	263	44.1%	43.5%	44.6%	34.8%	43.2%	54.0%	35.2%	45.1%	51.0%
	あまりわかっている	111	18.6%	17.7%	19.6%	15.7%	21.6%	18.7%	18.4%	17.8%	19.6%
	まったくわかっている	35	5.9%	6.3%	5.4%	8.6%	5.5%	3.5%	8.9%	6.1%	2.9%
	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
教科の理解度 :技術	よくわかっている	144	24.1%	26.5%	21.4%	25.8%	21.1%	25.8%	20.1%	23.5%	28.4%
	まあわかっている	236	39.5%	41.6%	37.1%	32.8%	41.7%	44.4%	33.5%	37.6%	47.1%
	あまりわかっている	153	25.6%	21.8%	30.0%	26.3%	27.6%	22.2%	29.6%	28.6%	18.6%
	まったくわかっている	61	10.2%	9.5%	11.1%	14.6%	9.5%	6.6%	16.2%	9.9%	5.4%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	0.5%	0.0%	1.0%	0.6%	0.5%	0.5%
教科の理解度 :家庭	よくわかっている	122	20.4%	17.4%	23.9%	22.2%	21.1%	18.2%	22.9%	22.5%	16.2%
	まあわかっている	237	39.7%	35.0%	45.0%	36.4%	34.7%	48.0%	34.6%	36.2%	47.5%
	あまりわかっている	164	27.5%	31.2%	23.2%	27.8%	31.2%	23.2%	26.3%	28.2%	27.9%
	まったくわかっている	57	9.5%	12.0%	6.8%	12.1%	10.1%	6.6%	14.0%	10.3%	4.9%
	無回答	17	2.8%	4.4%	1.1%	1.5%	3.0%	4.0%	2.2%	2.8%	3.4%
教科の理解度 :英語	よくわかっている	166	27.8%	26.8%	28.9%	22.2%	24.6%	36.4%	16.2%	26.3%	39.2%
	まあわかっている	222	37.2%	36.3%	38.2%	28.8%	39.7%	43.4%	28.5%	38.0%	44.1%
	あまりわかっている	116	19.4%	18.3%	20.7%	21.7%	22.1%	14.6%	27.4%	22.1%	9.8%
	まったくわかっている	91	15.2%	18.0%	12.1%	26.8%	13.6%	5.1%	27.4%	13.6%	6.4%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
あなたは、この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか(教科書や参考書、マンガは数にこれません)	0冊	97	16.2%	21.1%	10.7%	25.3%	16.1%	7.6%	19.0%	20.7%	9.3%
	1,2冊	260	43.6%	43.5%	43.6%	40.4%	48.2%	41.9%	40.2%	42.7%	47.1%
	3,4冊	117	19.6%	17.4%	22.1%	18.2%	18.1%	22.7%	20.7%	18.8%	19.6%
	5,6冊	50	8.4%	7.6%	9.3%	5.6%	8.0%	11.6%	7.3%	7.5%	10.3%
	7,8冊	19	3.2%	2.8%	3.6%	3.0%	3.5%	3.0%	4.5%	2.8%	2.5%
	9,10冊	12	2.0%	1.3%	2.9%	1.0%	1.5%	3.0%	2.2%	1.9%	2.0%
	11冊以上	38	6.4%	5.4%	7.5%	5.1%	4.5%	9.6%	5.0%	5.2%	8.8%
	無効回答	1	0.2%	0.0%	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	無回答	3	0.5%	0.9%	0.0%	1.0%	0.0%	0.5%	0.6%	0.5%	0.5%
あなたは、学校の授業がある月曜日から金曜日に、1日にどれくらいテレビを見ますか	ほとんど見なかった	28	4.7%	4.4%	5.0%	5.6%	3.5%	5.1%	5.6%	2.8%	5.9%
	30分くらい	51	8.5%	8.5%	8.6%	8.1%	6.5%	11.1%	6.7%	7.0%	11.8%
	1時間くらい	96	16.1%	14.5%	17.9%	10.1%	16.6%	21.2%	11.7%	12.7%	23.0%
	1時間30分くらい	78	13.1%	14.5%	11.4%	6.6%	13.6%	19.2%	7.3%	15.0%	16.2%
	2時間くらい	104	17.4%	17.7%	17.1%	16.2%	17.6%	18.7%	15.1%	20.2%	16.7%
	2時間30分くらい	55	9.2%	6.9%	11.8%	11.6%	7.5%	8.1%	11.7%	8.0%	8.3%
	3時間以上	180	30.2%	32.2%	27.9%	39.9%	34.7%	16.2%	40.8%	33.3%	17.6%
	無回答	5	0.8%	1.3%	0.4%	2.0%	0.0%	0.5%	1.1%	0.9%	0.5%
あなたは、土曜日や日曜日など、学校が休みの日に、1日にどれくらいテレビを見ますか	ほとんど見なかった	25	4.2%	3.8%	4.6%	6.1%	2.0%	4.0%	5.0%	4.2%	2.9%
	30分くらい	33	5.5%	5.7%	5.4%	6.6%	5.5%	4.5%	8.4%	3.3%	5.4%
	1時間くらい	53	8.9%	9.5%	8.2%	5.6%	11.1%	9.6%	5.6%	8.0%	12.7%
	1時間30分くらい	62	10.4%	12.3%	8.2%	10.1%	10.1%	11.1%	11.2%	9.9%	10.3%
	2時間くらい	105	17.6%	17.0%	18.2%	12.1%	17.1%	23.7%	13.4%	16.4%	22.5%
	2時間30分くらい	64	10.7%	9.1%	12.5%	10.6%	7.5%	14.1%	6.7%	11.7%	13.2%
	3時間以上	251	42.0%	41.6%	42.5%	47.5%	46.7%	32.3%	49.2%	45.5%	32.4%
	無回答	4	0.7%	0.9%	0.4%	1.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.9%	0.5%
あなたは、学校の授業がある月曜日から金曜日に、1日にどれくらい勉強していますか(じゅくで勉強している時間や、家庭教師の先生にみてもらっている時間もふくみます)	ほとんどしなかった	94	15.7%	16.4%	15.0%	19.2%	16.6%	11.6%	22.3%	13.6%	12.3%
	30分くらい	105	17.6%	20.2%	14.6%	18.7%	18.6%	15.7%	20.7%	18.3%	14.2%
	1時間くらい	109	18.3%	18.0%	18.6%	16.2%	15.6%	22.7%	15.1%	21.1%	18.1%
	1時間30分くらい	85	14.2%	15.5%	12.9%	12.6%	12.6%	17.2%	14.0%	13.6%	14.7%
	2時間くらい	98	16.4%	13.6%	19.6%	12.1%	19.1%	18.2%	13.4%	14.6%	21.1%
	2時間30分くらい	49	8.2%	6.6%	10.0%	7.6%	9.0%	8.1%	3.9%	9.4%	10.8%
	3時間以上	54	9.0%	9.1%	8.9%	13.1%	8.5%	5.6%	10.1%	9.4%	7.8%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	0.5%	0.0%	1.0%	0.6%	0.0%	1.0%
あなたは、土曜日や日曜日など、学校が休みの日に、1日にどれくらい勉強していますか(じゅくで勉強している時間や、家庭教師の先生にみてもらっている時間もふくみます)	ほとんどしなかった	175	29.3%	30.6%	27.9%	33.3%	30.7%	23.7%	35.2%	29.1%	24.0%
	30分くらい	120	20.1%	21.8%	18.2%	21.2%	19.6%	19.2%	25.1%	21.1%	14.7%
	1時間くらい	116	19.4%	17.0%	22.1%	13.6%	26.1%	18.7%	16.2%	18.3%	23.5%
	1時間30分くらい	63	10.6%	10.7%	10.4%	8.1%	10.1%	13.6%	7.8%	9.9%	13.7%
	2時間くらい	49	8.2%	6.0%	10.7%	8.6%	5.5%	10.6%	5.6%	9.4%	9.3%
	2時間30分くらい	27	4.5%	4.1%	5.0%	3.0%	4.0%	6.6%	2.8%	4.7%	5.9%
	3時間以上	44	7.4%	9.1%	5.4%	11.6%	4.0%	6.6%	6.7%	7.5%	7.8%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	0.5%	0.0%	1.0%	0.6%	0.0%	1.0%
あなたは、学校の授業がある月曜日から金曜日に、1日にどれくらいゲームをしますか	ほとんどしなかった	169	28.3%	16.4%	41.8%	26.3%	25.6%	32.8%	22.3%	29.1%	32.8%
	30分くらい	120	20.1%	19.2%	21.1%	17.2%	19.6%	23.2%	15.6%	19.2%	24.5%
	1時間くらい	95	15.9%	18.3%	13.2%	16.2%	14.6%	17.2%	12.3%	16.9%	18.1%
	1時間30分くらい	63	10.6%	13.2%	7.5%	10.6%	11.1%	10.1%	10.6%	11.7%	9.3%
	2時間くらい	52	8.7%	10.7%	6.4%	9.1%	11.6%	5.6%	9.5%	9.4%	7.4%
	2時間30分くらい	15	2.5%	3.2%	1.8%	3.0%	2.5%	2.0%	4.5%	2.3%	1.0%
	3時間以上	79	13.2%	18.3%	7.5%	16.7%	14.6%	8.6%	24.6%	11.3%	5.4%
	無回答	4	0.7%	0.6%	0.7%	1.0%	0.5%	0.5%	0.6%	0.0%	1.5%
あなたは、土曜日や日曜日など、学校が休みの日に、1日にどれくらいゲームをしますか	ほとんどしなかった	150	25.1%	15.5%	36.1%	29.3%	20.6%	24.7%	22.9%	25.8%	26.0%
	30分くらい	72	12.1%	8.8%	15.7%	8.1%	15.1%	13.1%	6.7%	15.0%	13.7%
	1時間くらい	84	14.1%	15.1%	12.9%	12.6%	11.6%	18.2%	10.6%	12.7%	18.6%
	1時間30分くらい	54	9.0%	10.4%	7.5%	9.1%	9.0%	9.1%	7.8%	8.9%	10.3%
	2時間くらい	62	10.4%	12.3%	8.2%	8.1%	12.6%	10.6%	10.6%	10.3%	10.3%
	2時間30分くらい	40	6.7%	7.6%	5.7%	9.6%	7.0%	3.5%	9.5%	6.6%	4.4%
	3時間以上	133	22.3%	29.7%	13.9%	22.7%	24.1%	20.2%	31.3%	20.7%	16.2%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%
国語の授業で、わからない言葉があれば、国語辞典で調べるようにしている	とてもあてはまる	75	12.6%	13.9%	11.1%	11.1%	11.1%	15.2%	7.8%	13.1%	15.7%
	まああてはまる	177	29.6%	25.9%	33.9%	25.3%	30.7%	33.3%	28.5%	23.9%	36.8%
	あまりあてはまらない	206	34.5%	32.5%	36.8%	32.8%	36.7%	34.3%	30.2%	39.4%	33.3%
	まったくあてはまらない	136	22.8%	27.1%	17.9%	30.3%	21.6%	16.7%	32.4%	23.5%	13.7%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	0.5%	0.0%	0.5%	1.1%	0.0%	0.5%
国語の授業で、文章の書き方のよい例を参考にして書くことがある	とてもあてはまる	122	20.4%	18.3%	22.9%	14.6%	23.1%	23.2%	16.8%	16.9%	27.0%
	まああてはまる	244	40.9%	39.4%	42.5%	37.4%	39.7%	46.0%	35.2%	45.1%	41.7%
	あまりあてはまらない	153	25.6%	27.8%	23.2%	31.8%	24.1%	21.2%	28.5%	25.4%	23.5%
	まったくあてはまらない	76	12.7%	13.9%	11.4%	15.7%	13.1%	9.1%	19.0%	12.7%	7.4%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
国語の授業で、物語を作ったことがある	とてもあてはまる	157	26.3%	22.1%	31.1%	21.2%	25.6%	31.8%	23.5%	22.5%	32.4%
	まああてはまる	137	22.9%	23.3%	22.5%	25.3%	24.1%	19.7%	19.0%	25.4%	24.0%
	あまりあてはまらない	155	26.0%	27.4%	24.3%	28.3%	24.1%	25.3%	27.9%	29.6%	20.6%
	まったくあてはまらない	144	24.1%	26.2%	21.8%	24.2%	25.6%	22.7%	29.1%	21.6%	22.5%
	無回答	4	0.7%	0.9%	0.4%	1.0%	0.5%	0.5%	0.6%	0.9%	0.5%
国語の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている	とてもあてはまる	175	29.3%	26.5%	32.5%	28.3%	27.1%	32.3%	24.0%	30.5%	32.4%
	まああてはまる	223	37.4%	34.1%	41.1%	31.3%	41.2%	39.9%	34.1%	39.0%	38.7%
	あまりあてはまらない	136	22.8%	26.5%	18.6%	22.2%	22.6%	23.2%	24.6%	22.1%	22.1%
	まったくあてはまらない	58	9.7%	12.0%	7.1%	16.7%	8.5%	4.0%	15.6%	8.0%	6.4%
	無効回答	1	0.2%	0.0%	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
数学の授業で、グループで協力して問題を解いて発表することがある	とてもあてはまる	188	31.5%	30.9%	32.1%	29.8%	28.6%	35.4%	22.9%	30.0%	40.2%
	まああてはまる	195	32.7%	30.3%	35.4%	32.3%	33.7%	32.3%	33.0%	35.7%	29.4%
	あまりあてはまらない	143	24.0%	26.8%	20.7%	21.7%	25.1%	25.3%	25.7%	24.4%	22.1%
	まったくあてはまらない	65	10.9%	10.7%	11.1%	15.2%	12.6%	5.1%	17.3%	8.9%	7.4%
	無回答	6	1.0%	1.3%	0.7%	1.0%	0.0%	2.0%	1.1%	0.9%	1.0%
数学の授業で、文章や式、図や表などを組み合わせて自分の考えを説明したことがある	とてもあてはまる	95	15.9%	18.0%	13.6%	12.6%	16.6%	18.7%	12.3%	16.4%	18.6%
	まああてはまる	155	26.0%	28.4%	23.2%	19.7%	28.6%	29.3%	19.6%	22.5%	34.8%
	あまりあてはまらない	202	33.8%	31.2%	36.8%	35.4%	33.7%	32.3%	33.0%	39.0%	29.4%
	まったくあてはまらない	142	23.8%	21.8%	26.1%	31.3%	21.1%	19.2%	34.6%	21.6%	16.7%
	無回答	3	0.5%	0.6%	0.4%	1.0%	0.0%	0.5%	0.6%	0.5%	0.5%
数学の宿題で、文章題を作ったことがある	とてもあてはまる	118	19.8%	18.9%	20.7%	17.7%	19.6%	21.7%	13.4%	20.7%	24.0%
	まああてはまる	127	21.3%	22.4%	20.0%	18.2%	25.6%	20.2%	17.9%	19.2%	26.5%
	あまりあてはまらない	180	30.2%	26.8%	33.9%	31.8%	28.1%	30.3%	31.3%	32.9%	26.5%
	まったくあてはまらない	168	28.1%	30.9%	25.0%	30.8%	26.6%	27.3%	36.3%	26.8%	22.5%
	無回答	4	0.7%	0.9%	0.4%	1.5%	0.0%	0.5%	1.1%	0.5%	0.5%
数学の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている	とてもあてはまる	259	43.4%	39.7%	47.5%	35.4%	43.2%	51.0%	28.5%	44.6%	54.9%
	まああてはまる	173	29.0%	28.7%	29.3%	28.3%	28.6%	30.3%	26.3%	31.5%	28.9%
	あまりあてはまらない	109	18.3%	20.8%	15.4%	21.2%	19.6%	14.1%	26.8%	17.4%	11.8%
	まったくあてはまらない	53	8.9%	9.8%	7.9%	14.6%	8.5%	3.5%	17.9%	6.1%	3.9%
	無回答	3	0.5%	0.9%	0.0%	0.5%	0.0%	1.0%	0.6%	0.5%	0.5%
社会の授業で、テレビや電子黒板などを使って、写真や地図・グラフなどを見ることがある	とてもあてはまる	164	27.5%	27.8%	27.1%	26.8%	29.6%	25.8%	22.3%	31.0%	27.9%
	まああてはまる	124	20.8%	20.2%	21.4%	28.3%	19.1%	14.6%	25.1%	19.7%	18.1%
	あまりあてはまらない	137	22.9%	21.5%	24.6%	15.7%	24.1%	29.3%	21.8%	20.7%	26.5%
	まったくあてはまらない	166	27.8%	29.0%	26.4%	28.3%	26.6%	28.8%	29.6%	27.7%	26.5%
	無回答	6	1.0%	1.6%	0.4%	1.0%	0.5%	1.5%	1.1%	0.9%	1.0%
社会の授業で、調べたことを、新聞形式でまとめたことがある	とてもあてはまる	111	18.6%	17.7%	19.6%	15.7%	22.6%	17.2%	15.1%	20.2%	19.6%
	まああてはまる	122	20.4%	21.8%	18.9%	21.7%	21.6%	18.2%	17.9%	23.0%	20.1%
	あまりあてはまらない	166	27.8%	24.6%	31.4%	27.8%	27.1%	28.8%	30.2%	28.6%	25.0%
	まったくあてはまらない	192	32.2%	34.4%	29.6%	33.3%	27.6%	35.4%	34.6%	27.7%	34.8%
	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
社会の授業で、いま、世の中で起きていることについて、資料をもとにしていることがある	とてもあてはまる	93	15.6%	16.1%	15.0%	17.2%	14.6%	15.2%	15.1%	18.3%	13.2%
	まああてはまる	155	26.0%	25.6%	26.4%	24.7%	24.6%	28.8%	24.0%	28.6%	25.0%
	あまりあてはまらない	202	33.8%	31.9%	36.1%	31.3%	39.2%	30.3%	33.5%	31.9%	35.8%
	まったくあてはまらない	143	24.0%	25.6%	22.1%	25.8%	21.1%	25.3%	26.3%	20.7%	25.5%
	無回答	4	0.7%	0.9%	0.4%	1.0%	0.5%	0.5%	1.1%	0.5%	0.5%
社会の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている	とてもあてはまる	152	25.5%	27.8%	22.9%	26.3%	21.6%	28.3%	19.0%	29.1%	27.0%
	まああてはまる	171	28.6%	26.2%	31.4%	25.8%	34.7%	25.3%	30.2%	28.2%	27.9%
	あまりあてはまらない	160	26.8%	25.6%	28.2%	27.8%	23.6%	29.3%	25.7%	26.3%	28.4%
	まったくあてはまらない	108	18.1%	19.2%	16.8%	18.7%	19.6%	16.2%	24.0%	15.0%	16.2%
	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%
理科の授業で、実験や調査に取り組む前に、仮説を立てたり結果を予想したりしている	とてもあてはまる	165	27.6%	29.0%	26.1%	24.7%	30.7%	27.3%	22.3%	28.6%	30.9%
	まああてはまる	214	35.8%	35.6%	36.1%	32.3%	33.7%	41.9%	29.1%	36.6%	41.2%
	あまりあてはまらない	156	26.1%	24.3%	28.2%	25.3%	27.1%	25.8%	29.1%	26.8%	23.0%
	まったくあてはまらない	58	9.7%	10.1%	9.3%	16.7%	8.0%	4.5%	18.4%	7.5%	4.4%
	無回答	4	0.7%	0.9%	0.4%	1.0%	0.5%	0.5%	1.1%	0.5%	0.5%
理科の授業で、テレビや電子黒板などを使って、実験や観察のようすや自然のいろいろなようすなどについて、写真や映像などを見ることがある	とてもあてはまる	131	21.9%	22.4%	21.4%	18.7%	28.1%	19.2%	17.3%	26.8%	21.1%
	まああてはまる	179	30.0%	26.8%	33.6%	30.3%	30.7%	29.3%	29.1%	29.6%	31.4%
	あまりあてはまらない	161	27.0%	26.2%	27.9%	28.3%	23.1%	29.3%	26.8%	27.2%	27.0%
	まったくあてはまらない	121	20.3%	23.3%	16.8%	21.2%	17.6%	21.7%	25.1%	16.0%	20.1%
	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	無回答	4	0.7%	0.9%	0.4%	1.0%	0.5%	0.5%	1.1%	0.5%	0.5%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
理科の授業で、実験や調査が終わったあとに、気づいたことや新しい疑問などについて、話し合ったりまとめている	とてもあてはまる	108	18.1%	19.2%	16.8%	15.2%	18.6%	20.7%	12.8%	21.6%	19.1%
	まああてはまる	201	33.7%	32.8%	34.6%	33.3%	33.7%	34.3%	34.1%	31.5%	35.8%
	あまりあてはまらない	190	31.8%	31.5%	32.1%	30.8%	31.2%	32.8%	30.7%	33.3%	30.9%
	まったくあてはまらない	94	15.7%	15.5%	16.1%	19.7%	16.1%	11.6%	21.2%	13.1%	13.7%
	無回答	4	0.7%	0.9%	0.4%	1.0%	0.5%	0.5%	1.1%	0.5%	0.5%
理科の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている	とてもあてはまる	146	24.5%	25.9%	22.9%	27.3%	26.1%	19.7%	26.3%	21.1%	26.0%
	まああてはまる	185	31.0%	26.8%	35.7%	28.3%	33.2%	31.3%	25.7%	35.2%	31.4%
	あまりあてはまらない	172	28.8%	31.2%	26.1%	26.3%	26.6%	33.8%	27.9%	30.0%	28.4%
	まったくあてはまらない	90	15.1%	15.1%	15.0%	17.2%	13.6%	14.6%	19.0%	13.1%	13.7%
	無回答	4	0.7%	0.9%	0.4%	1.0%	0.5%	0.5%	1.1%	0.5%	0.5%
私は、みんなで決めた学級目標に力を合わせて取り組んでいる	とてもあてはまる	167	28.0%	25.2%	31.1%	27.8%	30.2%	25.8%	24.6%	30.0%	28.4%
	まああてはまる	305	51.1%	48.9%	53.6%	49.0%	47.2%	57.1%	49.7%	51.6%	52.0%
	あまりあてはまらない	90	15.1%	18.9%	10.7%	15.7%	17.1%	12.6%	16.2%	14.6%	14.7%
	まったくあてはまらない	30	5.0%	6.0%	3.9%	6.6%	4.5%	4.0%	7.8%	3.3%	4.4%
	無回答	5	0.8%	0.9%	0.7%	1.0%	1.0%	0.5%	1.7%	0.5%	0.5%
私は、係や当番の活動に責任を持って取り組んでいる	とてもあてはまる	302	50.6%	45.4%	56.4%	47.0%	53.8%	51.0%	45.8%	51.6%	53.9%
	まああてはまる	224	37.5%	39.1%	35.7%	36.9%	35.7%	39.9%	34.1%	38.5%	39.2%
	あまりあてはまらない	50	8.4%	11.0%	5.4%	11.6%	6.5%	7.1%	12.8%	7.5%	5.4%
	まったくあてはまらない	16	2.7%	3.5%	1.8%	3.5%	3.0%	1.5%	5.6%	1.9%	1.0%
	無回答	5	0.8%	0.9%	0.7%	1.0%	1.0%	0.5%	1.7%	0.5%	0.5%
私は、自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや活動に、進んで取り組んでいる	とてもあてはまる	117	19.6%	22.4%	16.4%	19.2%	19.6%	19.7%	15.1%	19.2%	23.5%
	まああてはまる	252	42.2%	36.0%	49.3%	39.4%	40.2%	47.0%	41.3%	42.3%	43.1%
	あまりあてはまらない	173	29.0%	30.3%	27.5%	28.3%	31.2%	27.8%	27.9%	31.0%	27.9%
	まったくあてはまらない	49	8.2%	10.4%	5.7%	11.6%	8.0%	5.1%	14.0%	6.6%	4.9%
	無効回答	1	0.2%	0.0%	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%
私は、生徒会で決めた活動や学校行事に、進んで取り組んでいる	とてもあてはまる	129	21.6%	18.9%	24.6%	17.7%	22.6%	24.2%	16.8%	22.1%	25.0%
	まああてはまる	256	42.9%	40.1%	46.1%	38.9%	41.7%	48.0%	35.2%	42.7%	50.0%
	あまりあてはまらない	147	24.6%	26.8%	22.1%	26.3%	27.1%	20.7%	31.8%	23.9%	19.1%
	まったくあてはまらない	60	10.1%	13.2%	6.4%	16.2%	7.5%	6.6%	14.5%	10.8%	5.4%
	無回答	5	0.8%	0.9%	0.7%	1.0%	1.0%	0.5%	1.7%	0.5%	0.5%
私は、学年や学校のためになる活動を提案して、進んで取り組んでいる	とてもあてはまる	63	10.6%	12.6%	8.2%	11.1%	9.5%	11.1%	10.6%	10.3%	10.8%
	まああてはまる	158	26.5%	26.5%	26.4%	27.8%	24.6%	26.8%	24.0%	25.8%	29.4%
	あまりあてはまらない	244	40.9%	36.6%	45.7%	33.8%	45.7%	42.9%	39.1%	40.8%	42.2%
	まったくあてはまらない	127	21.3%	23.3%	18.9%	26.3%	19.1%	18.7%	24.6%	22.5%	17.2%
	無回答	5	0.8%	0.9%	0.7%	1.0%	1.0%	0.5%	1.7%	0.5%	0.5%
私は、楽しむときとまじめに集中するときのけじめをつけることができる	とてもあてはまる	170	28.5%	27.4%	29.6%	29.3%	29.1%	27.3%	22.3%	28.6%	33.8%
	まああてはまる	261	43.7%	45.1%	42.1%	36.4%	45.7%	49.0%	44.7%	40.4%	46.1%
	あまりあてはまらない	138	23.1%	21.8%	24.6%	27.8%	20.6%	20.7%	25.1%	27.2%	17.2%
	まったくあてはまらない	23	3.9%	4.7%	2.9%	5.6%	3.5%	2.5%	6.1%	3.3%	2.5%
	無回答	5	0.8%	0.9%	0.7%	1.0%	1.0%	0.5%	1.7%	0.5%	0.5%
私は、集合の時間、授業開始の時間、活動終了の時間などを守っている	とてもあてはまる	251	42.0%	39.1%	45.4%	41.9%	43.7%	40.4%	34.1%	46.0%	44.6%
	まああてはまる	245	41.0%	42.9%	38.9%	34.3%	39.2%	49.5%	41.9%	36.6%	45.1%
	あまりあてはまらない	71	11.9%	12.3%	11.4%	14.6%	13.1%	8.1%	14.0%	13.1%	8.8%
	まったくあてはまらない	24	4.0%	4.7%	3.2%	7.6%	3.0%	1.5%	8.4%	3.3%	1.0%
	無回答	6	1.0%	0.9%	1.1%	1.5%	1.0%	0.5%	1.7%	0.9%	0.5%
私は、学級会で、司会や記録を担当して話し合いを進めたことがある	とてもあてはまる	96	16.1%	15.8%	16.4%	11.1%	14.1%	22.7%	12.3%	15.0%	20.6%
	まああてはまる	98	16.4%	16.7%	16.1%	18.7%	17.6%	13.1%	17.3%	16.0%	16.2%
	あまりあてはまらない	159	26.6%	23.3%	30.4%	26.8%	26.6%	26.8%	29.6%	25.4%	25.5%
	まったくあてはまらない	236	39.5%	42.9%	35.7%	41.9%	40.2%	36.4%	38.5%	42.7%	36.8%
	無回答	8	1.3%	1.3%	1.4%	1.5%	1.5%	1.0%	2.2%	0.9%	1.0%
私は、学校や授業で発言している人の話を最後までしっかり聞いている	とてもあてはまる	197	33.0%	29.7%	36.8%	32.8%	32.7%	33.3%	30.2%	31.0%	37.7%
	まああてはまる	259	43.4%	44.5%	42.1%	35.9%	46.2%	48.0%	35.2%	46.0%	47.5%
	あまりあてはまらない	105	17.6%	19.9%	15.0%	20.7%	16.6%	15.7%	22.3%	18.3%	12.7%
	まったくあてはまらない	29	4.9%	5.0%	4.6%	9.1%	3.0%	2.5%	10.6%	3.3%	1.5%
	無回答	7	1.2%	0.9%	1.4%	1.5%	1.5%	0.5%	1.7%	1.4%	0.5%
私は、友だちの語に賛成・反対・つけたしと、つなげるように発言している	とてもあてはまる	82	13.7%	14.8%	12.5%	17.7%	12.6%	11.1%	15.6%	14.1%	11.8%
	まああてはまる	167	28.0%	28.1%	27.9%	23.7%	28.1%	32.3%	24.6%	26.8%	32.4%
	あまりあてはまらない	235	39.4%	37.2%	41.8%	34.3%	42.2%	40.9%	36.3%	37.6%	43.6%
	まったくあてはまらない	106	17.8%	18.9%	16.4%	22.7%	15.6%	15.2%	21.8%	20.2%	11.8%
	無回答	7	1.2%	0.9%	1.4%	1.5%	1.5%	0.5%	1.7%	1.4%	0.5%
私は、話し合いのとき、考えや意見を進んで出している	とてもあてはまる	96	16.1%	17.7%	14.3%	14.1%	16.1%	17.7%	12.3%	15.0%	20.1%
	まああてはまる	190	31.8%	32.2%	31.4%	27.8%	28.1%	39.9%	29.1%	31.5%	34.8%
	あまりあてはまらない	217	36.3%	33.4%	39.6%	34.8%	41.7%	32.3%	31.8%	40.4%	36.3%
	まったくあてはまらない	86	14.4%	15.5%	13.2%	21.2%	13.1%	9.1%	24.6%	12.2%	7.8%
	無回答	8	1.3%	1.3%	1.4%	2.0%	1.0%	1.0%	2.2%	0.9%	1.0%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
私は、異なる意見や提案をよく聞いて、話し合いをまとめたことがある	とてもあてはまる	85	14.2%	14.2%	14.3%	16.7%	8.5%	17.7%	12.3%	15.5%	14.7%
	まああてはまる	165	27.6%	26.2%	29.3%	23.2%	28.1%	30.8%	24.6%	26.8%	30.9%
	あまりあてはまらない	213	35.7%	37.5%	33.6%	33.8%	39.2%	34.3%	35.8%	37.1%	34.3%
	まったくあてはまらない	128	21.4%	21.1%	21.8%	24.7%	23.1%	16.7%	25.7%	19.7%	19.6%
	無回答	6	1.0%	0.9%	1.1%	1.5%	1.0%	0.5%	1.7%	0.9%	0.5%
私は、家庭学習や考前学習などで、教え合いをしている	とてもあてはまる	63	10.6%	12.6%	8.2%	12.1%	8.5%	11.1%	7.3%	14.6%	9.3%
	まああてはまる	143	24.0%	22.7%	25.4%	22.7%	23.6%	25.8%	21.2%	24.4%	26.0%
	あまりあてはまらない	235	39.4%	37.2%	41.8%	35.9%	41.7%	39.9%	41.3%	35.7%	41.2%
	まったくあてはまらない	150	25.1%	26.5%	23.6%	27.8%	25.1%	22.7%	28.5%	24.4%	23.0%
	無回答	6	1.0%	0.9%	1.1%	1.5%	1.0%	0.5%	1.7%	0.9%	0.5%
私は、小さなげんかや、トラブルは、話し合いで解決している	とてもあてはまる	170	28.5%	27.4%	29.6%	28.3%	26.1%	30.3%	27.4%	27.2%	30.4%
	まああてはまる	224	37.5%	36.6%	38.6%	28.8%	39.2%	44.9%	29.1%	38.0%	44.6%
	あまりあてはまらない	123	20.6%	20.8%	20.4%	24.2%	20.6%	17.2%	24.0%	22.1%	16.2%
	まったくあてはまらない	74	12.4%	14.2%	10.4%	17.2%	13.1%	7.1%	17.9%	11.7%	8.3%
	無回答	6	1.0%	0.9%	1.1%	1.5%	1.0%	0.5%	1.7%	0.9%	0.5%
私は、「ありがとう」を伝え合っている	とてもあてはまる	316	52.9%	47.3%	59.3%	52.0%	53.3%	53.5%	49.7%	53.1%	55.4%
	まああてはまる	185	31.0%	30.9%	31.1%	29.8%	32.7%	30.3%	30.7%	30.0%	32.4%
	あまりあてはまらない	69	11.6%	15.8%	6.8%	10.6%	12.1%	12.1%	10.1%	14.6%	9.8%
	まったくあてはまらない	19	3.2%	4.7%	1.4%	5.6%	1.0%	3.0%	7.3%	1.4%	1.5%
	無回答	8	1.3%	1.3%	1.4%	2.0%	1.0%	1.0%	2.2%	0.9%	1.0%
私は、授業中、グループ学習やグループ活動によく協力している	とてもあてはまる	174	29.1%	27.1%	31.4%	27.8%	27.6%	31.8%	25.1%	25.8%	35.8%
	まああてはまる	247	41.4%	39.1%	43.9%	36.4%	42.7%	45.5%	36.3%	44.1%	43.1%
	あまりあてはまらない	139	23.3%	26.5%	19.6%	25.3%	25.1%	19.2%	26.8%	25.4%	18.1%
	まったくあてはまらない	28	4.7%	5.7%	3.6%	9.1%	3.0%	2.0%	9.5%	3.8%	1.5%
	無回答	9	1.5%	1.6%	1.4%	1.5%	1.5%	1.5%	2.2%	0.9%	1.5%
私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている	とてもあてはまる	171	28.6%	25.6%	32.1%	36.9%	27.6%	21.2%	32.4%	30.5%	23.0%
	まああてはまる	277	46.4%	44.5%	48.6%	36.4%	46.2%	56.6%	38.5%	44.1%	55.9%
	あまりあてはまらない	114	19.1%	23.3%	14.3%	15.7%	22.6%	19.2%	17.9%	22.1%	17.2%
	まったくあてはまらない	25	4.2%	5.0%	3.2%	8.1%	2.5%	2.0%	8.4%	1.9%	2.9%
	無回答	10	1.7%	1.6%	1.8%	3.0%	1.0%	1.0%	2.8%	1.4%	1.0%
私は、友だちの間に上下関係なく、誰とも平等に接している	とてもあてはまる	212	35.5%	31.5%	40.0%	36.9%	34.7%	34.3%	35.8%	34.3%	36.3%
	まああてはまる	233	39.0%	40.1%	37.9%	34.8%	39.7%	42.9%	38.0%	37.6%	41.7%
	あまりあてはまらない	114	19.1%	21.1%	16.8%	18.2%	21.6%	17.7%	15.6%	22.5%	18.6%
	まったくあてはまらない	29	4.9%	5.7%	3.9%	7.6%	3.0%	4.0%	8.4%	4.2%	2.5%
	無回答	9	1.5%	1.6%	1.4%	2.5%	1.0%	1.0%	2.2%	1.4%	1.0%
私は、友だちのよいところやがんばりを認めて伝え合っている	とてもあてはまる	206	34.5%	31.2%	38.2%	35.9%	35.7%	31.8%	34.6%	36.2%	32.4%
	まああてはまる	223	37.4%	36.3%	38.6%	29.3%	39.7%	42.9%	33.5%	37.1%	41.2%
	あまりあてはまらない	130	21.8%	24.0%	19.3%	24.7%	19.6%	21.2%	20.7%	23.0%	21.6%
	まったくあてはまらない	27	4.5%	6.6%	2.1%	7.6%	3.0%	3.0%	8.9%	1.9%	3.4%
	無回答	11	1.8%	1.9%	1.8%	2.5%	2.0%	1.0%	2.2%	1.9%	1.5%
私は、男女仲よく、共に学んだり活動している	とてもあてはまる	198	33.2%	28.1%	38.9%	35.4%	32.7%	30.8%	31.8%	32.4%	34.8%
	まああてはまる	219	36.7%	35.6%	37.9%	27.3%	40.2%	42.9%	29.1%	36.2%	44.1%
	あまりあてはまらない	132	22.1%	25.6%	18.2%	24.7%	20.6%	21.2%	24.0%	25.4%	17.2%
	まったくあてはまらない	38	6.4%	8.8%	3.6%	10.1%	5.0%	4.0%	12.8%	4.7%	2.5%
	無回答	10	1.7%	1.9%	1.4%	2.5%	1.5%	1.0%	2.2%	1.4%	1.5%
私は、授業中にむだなおしゃべりをしない	とてもあてはまる	103	17.3%	20.2%	13.9%	16.7%	19.1%	16.2%	14.0%	16.9%	20.6%
	まああてはまる	237	39.7%	35.3%	44.6%	34.3%	33.2%	51.5%	33.0%	36.6%	48.5%
	あまりあてはまらない	184	30.8%	30.9%	30.7%	32.8%	33.7%	26.3%	30.2%	35.7%	26.5%
	まったくあてはまらない	65	10.9%	12.3%	9.3%	14.1%	12.6%	5.6%	20.1%	9.9%	3.9%
	無回答	8	1.3%	1.3%	1.4%	2.0%	1.5%	0.5%	2.8%	0.9%	0.5%
私は、あいさつ、服装、持ち物などについて、学校のきまりを守っている	とてもあてはまる	351	58.8%	59.0%	58.6%	51.0%	65.8%	59.1%	50.8%	59.6%	64.7%
	まああてはまる	181	30.3%	32.5%	27.9%	29.8%	25.6%	35.9%	31.8%	29.6%	29.9%
	あまりあてはまらない	41	6.9%	4.4%	9.6%	12.6%	4.5%	3.5%	8.9%	7.0%	4.9%
	まったくあてはまらない	16	2.7%	2.8%	2.5%	4.5%	2.5%	1.0%	5.6%	2.8%	0.0%
	無回答	8	1.3%	1.3%	1.4%	2.0%	1.5%	0.5%	2.8%	0.9%	0.5%
私は、ろうかや教室を進んで整理整頓している	とてもあてはまる	107	17.9%	17.4%	18.6%	21.2%	15.6%	17.2%	17.3%	16.9%	19.6%
	まああてはまる	201	33.7%	31.2%	36.4%	32.3%	33.2%	35.9%	31.8%	36.2%	32.8%
	あまりあてはまらない	218	36.5%	36.6%	36.4%	29.3%	40.2%	39.4%	30.2%	38.0%	40.2%
	まったくあてはまらない	63	10.6%	13.6%	7.1%	15.2%	9.5%	7.1%	17.9%	8.0%	6.9%
	無回答	8	1.3%	1.3%	1.4%	2.0%	1.5%	0.5%	2.8%	0.9%	0.5%
私は、校外でも人の迷わくにならないように考えて行動している	とてもあてはまる	227	38.0%	36.6%	39.6%	36.4%	41.7%	35.9%	32.4%	41.8%	38.7%
	まああてはまる	262	43.9%	42.6%	45.4%	38.9%	39.2%	54.0%	39.7%	39.0%	52.9%
	あまりあてはまらない	74	12.4%	12.9%	11.8%	15.2%	15.1%	7.1%	16.2%	15.5%	5.9%
	まったくあてはまらない	25	4.2%	6.3%	1.8%	7.6%	2.5%	2.0%	8.9%	2.3%	2.0%
	無回答	9	1.5%	1.6%	1.4%	2.0%	1.5%	1.0%	2.8%	1.4%	0.5%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
家で学習していて、わからないときは教えてくれる人がいる	とてもあてはまる	334	55.9%	55.2%	56.8%	54.0%	55.8%	58.1%	54.7%	52.6%	60.3%
	まああてはまる	150	25.1%	24.9%	25.4%	23.7%	26.1%	25.3%	21.2%	29.6%	24.0%
	あまりあてはまらない	61	10.2%	9.8%	10.7%	12.1%	8.5%	10.1%	10.6%	10.3%	9.8%
	まったくあてはまらない	42	7.0%	8.2%	5.7%	7.1%	8.0%	6.1%	10.1%	6.1%	5.4%
	無回答	10	1.7%	1.9%	1.4%	3.0%	1.5%	0.5%	3.4%	1.4%	0.5%
家で学習するときは、苦手な教科もしっかりと学習している	とてもあてはまる	231	38.7%	38.8%	38.6%	32.3%	38.7%	44.9%	29.1%	39.4%	46.1%
	まああてはまる	215	36.0%	32.2%	40.4%	35.9%	38.7%	33.8%	34.1%	35.2%	38.7%
	あまりあてはまらない	110	18.4%	20.2%	16.4%	21.7%	16.1%	17.2%	24.0%	19.7%	12.3%
	まったくあてはまらない	30	5.0%	6.6%	3.2%	7.1%	5.0%	3.0%	9.5%	4.2%	2.0%
	無回答	11	1.8%	2.2%	1.4%	3.0%	1.5%	1.0%	3.4%	1.4%	1.0%
学校の先生が出した宿題をきちんとやり上げている	とてもあてはまる	299	50.1%	43.8%	57.1%	38.4%	49.7%	62.1%	33.0%	48.4%	66.7%
	まああてはまる	187	31.3%	34.4%	27.9%	31.3%	35.2%	27.3%	36.9%	31.5%	26.5%
	あまりあてはまらない	75	12.6%	13.9%	11.1%	18.2%	11.1%	8.6%	16.8%	15.5%	5.9%
	まったくあてはまらない	25	4.2%	5.7%	2.5%	9.1%	2.5%	1.0%	10.1%	3.3%	0.0%
	無回答	11	1.8%	2.2%	1.4%	3.0%	1.5%	1.0%	3.4%	1.4%	1.0%
次の日の授業に必要な教科書やノートなどは、前の日に準備している	とてもあてはまる	307	51.4%	42.9%	61.1%	47.5%	47.7%	58.6%	41.3%	51.2%	60.3%
	まああてはまる	135	22.6%	26.5%	18.2%	22.7%	26.6%	18.7%	26.3%	23.5%	18.6%
	あまりあてはまらない	86	14.4%	16.1%	12.5%	13.6%	16.1%	13.6%	16.2%	15.0%	12.3%
	まったくあてはまらない	57	9.5%	12.3%	6.4%	13.1%	8.0%	7.6%	12.3%	8.9%	7.8%
	無回答	12	2.0%	2.2%	1.8%	3.0%	1.5%	1.5%	3.9%	1.4%	1.0%
自分の得意な分野をさらにのびすために、家で自分なりに学んでいることがある	とてもあてはまる	182	30.5%	31.2%	29.6%	31.8%	31.7%	28.3%	30.2%	32.4%	28.9%
	まああてはまる	182	30.5%	27.1%	34.3%	26.8%	28.6%	36.4%	22.3%	32.9%	35.3%
	あまりあてはまらない	154	25.8%	25.2%	26.4%	24.2%	27.1%	26.3%	26.8%	23.9%	27.0%
	まったくあてはまらない	67	11.2%	13.9%	8.2%	13.6%	11.1%	8.1%	16.8%	9.4%	7.8%
	無回答	12	2.0%	2.5%	1.4%	3.5%	1.5%	1.0%	3.9%	1.4%	1.0%
テレビやラジオをつけないうで集中して学習している	とてもあてはまる	187	31.3%	34.4%	27.9%	23.2%	36.2%	34.3%	25.7%	30.5%	36.8%
	まああてはまる	158	26.5%	25.9%	27.1%	27.3%	27.1%	25.3%	22.3%	30.0%	26.5%
	あまりあてはまらない	152	25.5%	22.1%	29.3%	26.8%	20.6%	29.3%	26.8%	23.5%	26.5%
	まったくあてはまらない	86	14.4%	15.1%	13.6%	18.7%	14.1%	10.1%	20.7%	14.1%	9.3%
	無回答	14	2.3%	2.5%	2.1%	4.0%	2.0%	1.0%	4.5%	1.9%	1.0%
授業で習ったことは、その日のうちに復習している	とてもあてはまる	58	9.7%	11.4%	7.9%	11.6%	9.5%	8.1%	9.5%	11.3%	8.3%
	まああてはまる	131	21.9%	20.5%	23.6%	19.2%	24.1%	22.7%	19.0%	19.7%	27.0%
	あまりあてはまらない	243	40.7%	36.3%	45.7%	36.9%	39.2%	46.0%	38.0%	40.8%	42.6%
	まったくあてはまらない	153	25.6%	29.7%	21.1%	29.3%	25.1%	22.2%	30.2%	26.3%	21.1%
	無回答	12	2.0%	2.2%	1.8%	3.0%	2.0%	1.0%	3.4%	1.9%	1.0%
あなたは将来、どの学校まで進みたいですか	高校まで	108	18.1%	23.7%	11.8%	31.8%	17.1%	5.6%	33.5%	13.6%	9.3%
	専門学校・各種学校まで	124	20.8%	9.5%	33.6%	19.7%	24.1%	18.7%	20.1%	23.0%	19.1%
	短期大学まで	72	12.1%	10.7%	13.6%	12.6%	13.6%	9.1%	12.8%	14.6%	8.3%
	四年制大学まで	171	28.6%	33.1%	23.6%	13.1%	23.6%	49.5%	10.1%	29.1%	44.6%
	大学院まで	54	9.0%	10.1%	7.9%	7.6%	10.6%	9.1%	6.7%	7.5%	12.7%
	その他	50	8.4%	9.1%	7.5%	10.1%	8.0%	7.1%	10.1%	10.3%	4.9%
	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
興味を持ったことや疑問に思ったことについて、文章を書くのが好きである	よくあてはまる	62	10.4%	9.5%	11.4%	10.6%	10.1%	10.6%	10.1%	10.8%	10.3%
	ややあてはまる	154	25.8%	25.6%	26.1%	26.8%	25.6%	25.3%	32.4%	19.7%	26.5%
	あまりあてはまらない	275	46.1%	42.9%	49.6%	43.4%	45.2%	50.0%	34.6%	52.6%	49.5%
	まったくあてはまらない	100	16.8%	20.5%	12.5%	17.2%	19.1%	14.1%	20.1%	16.9%	13.7%
	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	無回答	3	0.5%	0.9%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%
	未受験	2	0.3%	0.3%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
自分のものの見方や考え方を広げるために、読書をするのが好きである	よくあてはまる	148	24.8%	17.0%	33.6%	12.6%	25.6%	36.4%	16.8%	21.6%	35.3%
	ややあてはまる	224	37.5%	36.9%	38.2%	34.8%	37.2%	40.9%	35.8%	37.6%	39.2%
	あまりあてはまらない	167	28.0%	33.4%	21.8%	35.9%	29.1%	19.2%	30.2%	32.4%	21.6%
	まったくあてはまらない	52	8.7%	11.0%	6.1%	14.6%	8.0%	3.5%	14.5%	8.5%	3.9%
	無効回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	未受験	2	0.3%	0.3%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
新しく習った漢字は、くり返して練習するようにしている	よくあてはまる	67	11.2%	12.6%	9.6%	12.1%	9.5%	12.1%	7.3%	15.0%	10.8%
	ややあてはまる	230	38.5%	33.1%	44.6%	33.8%	37.7%	44.4%	30.2%	37.6%	47.1%
	あまりあてはまらない	212	35.5%	36.6%	34.3%	33.3%	42.7%	30.8%	37.4%	36.2%	33.3%
	まったくあてはまらない	82	13.7%	16.1%	11.1%	18.7%	10.1%	12.6%	22.3%	11.3%	8.8%
	無効回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	未受験	2	0.3%	0.3%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
話し合いをするときに、相手の立場や考えを尊重している	よくあてはまる	136	22.8%	25.2%	20.0%	21.7%	23.6%	23.2%	20.7%	17.8%	29.9%
	ややあてはまる	295	49.4%	49.2%	49.6%	45.5%	48.7%	54.5%	41.3%	58.2%	47.5%
	あまりあてはまらない	127	21.3%	18.3%	24.6%	21.7%	24.1%	18.2%	24.0%	20.2%	20.1%
	まったくあてはまらない	33	5.5%	5.7%	5.4%	9.1%	3.5%	4.0%	11.2%	3.8%	2.5%
	無効回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
話し合いをするときに、相手の立場や考えを尊重して、話を聞いている	よくあてはまる	206	34.5%	32.5%	36.8%	31.3%	34.7%	37.9%	27.4%	31.0%	44.6%
	ややあてはまる	288	48.2%	49.8%	46.4%	44.4%	50.8%	50.0%	41.9%	54.5%	47.5%
	あまりあてはまらない	77	12.9%	12.9%	12.9%	15.7%	13.6%	9.6%	20.7%	13.1%	5.9%
	まったくあてはまらない	19	3.2%	2.8%	3.6%	6.1%	1.0%	2.5%	6.7%	1.4%	2.0%
	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	無回答	4	0.7%	1.3%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%
新しく覚えた言葉を、ふんだんからできるだけ使うようにしている	よくあてはまる	139	23.3%	27.8%	18.2%	22.7%	26.1%	21.2%	25.1%	23.9%	21.1%
	ややあてはまる	211	35.3%	31.9%	39.3%	30.8%	34.2%	41.4%	29.6%	40.4%	35.3%
	あまりあてはまらない	200	33.5%	31.2%	36.1%	36.4%	33.2%	31.3%	34.6%	29.1%	37.3%
	まったくあてはまらない	41	6.9%	7.6%	6.1%	8.1%	6.5%	6.1%	7.8%	6.6%	6.4%
	無効回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
知らない言葉があったときは、国語辞典や漢和辞典(漢字辞典)で調べようになっている	よくあてはまる	108	18.1%	18.3%	17.9%	16.2%	16.1%	22.2%	12.3%	18.8%	22.5%
	ややあてはまる	196	32.8%	27.8%	38.6%	23.7%	38.2%	36.9%	29.1%	26.3%	43.1%
	あまりあてはまらない	179	30.0%	30.0%	30.0%	29.8%	31.2%	29.3%	27.4%	38.0%	24.0%
	まったくあてはまらない	108	18.1%	22.4%	13.2%	28.3%	14.6%	11.6%	28.5%	16.9%	10.3%
	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	無回答	3	0.5%	0.9%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%
計算をするときは、簡単に計算できる方法がないか考えている	よくあてはまる	227	38.0%	43.8%	31.4%	31.3%	42.2%	40.9%	28.5%	36.6%	48.0%
	ややあてはまる	236	39.5%	33.8%	46.1%	34.8%	41.7%	42.4%	41.9%	38.5%	38.7%
	あまりあてはまらない	92	15.4%	14.2%	16.8%	22.2%	13.1%	11.1%	17.3%	18.8%	10.3%
	まったくあてはまらない	32	5.4%	5.7%	5.0%	8.1%	3.0%	5.1%	8.4%	5.2%	2.9%
	無効回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	無回答	7	1.2%	1.6%	0.7%	2.5%	0.0%	0.5%	2.8%	0.9%	0.0%
コンパスと定規を用いて、さまざまな作図をするのはおもしろいと思う	よくあてはまる	172	28.8%	32.8%	24.3%	27.8%	29.6%	29.3%	24.0%	28.6%	33.3%
	ややあてはまる	187	31.3%	29.7%	33.2%	26.8%	34.2%	33.3%	24.0%	31.0%	38.2%
	あまりあてはまらない	153	25.6%	22.1%	29.6%	26.3%	24.6%	26.3%	30.7%	24.4%	22.5%
	まったくあてはまらない	75	12.6%	12.9%	12.1%	15.7%	11.6%	10.6%	17.3%	15.0%	5.9%
	無効回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	無回答	7	1.2%	1.6%	0.7%	2.5%	0.0%	0.5%	2.8%	0.9%	0.0%
日常生活の中で、これは数学(算数)の授業で学習したことだなと思うことがある	よくあてはまる	146	24.5%	26.2%	22.5%	22.7%	26.1%	24.7%	19.6%	25.4%	27.9%
	ややあてはまる	250	41.9%	39.4%	44.6%	41.9%	39.7%	44.4%	36.3%	41.3%	47.5%
	あまりあてはまらない	146	24.5%	22.4%	26.8%	24.7%	25.1%	23.7%	27.9%	26.3%	19.6%
	まったくあてはまらない	45	7.5%	9.5%	5.4%	7.1%	9.0%	6.6%	12.3%	6.1%	4.9%
	無効回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	無回答	7	1.2%	1.6%	0.7%	2.5%	0.0%	0.5%	2.8%	0.9%	0.0%
わからなかった問題や、テストで間違えた問題は、くり返し練習して、間違えないようにしている	よくあてはまる	91	15.2%	15.5%	15.0%	14.6%	13.6%	17.7%	12.3%	15.5%	17.6%
	ややあてはまる	257	43.0%	38.2%	48.6%	35.9%	45.7%	48.0%	31.3%	45.5%	51.0%
	あまりあてはまらない	178	29.8%	31.2%	28.2%	32.3%	30.2%	27.3%	33.0%	31.0%	26.0%
	まったくあてはまらない	61	10.2%	12.6%	7.5%	13.6%	10.6%	6.6%	19.6%	7.0%	5.4%
	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	無回答	8	1.3%	1.9%	0.7%	3.0%	0.0%	0.5%	3.4%	0.9%	0.0%
数学(算数)の問題を解いたあと、ミスがないか見直すようにしている	よくあてはまる	182	30.5%	30.6%	30.4%	24.2%	29.6%	37.9%	19.6%	30.5%	40.2%
	ややあてはまる	266	44.6%	41.6%	47.9%	38.9%	51.3%	43.9%	43.0%	45.5%	45.1%
	あまりあてはまらない	100	16.8%	18.0%	15.4%	20.7%	14.6%	15.2%	20.7%	16.9%	13.2%
	まったくあてはまらない	38	6.4%	6.9%	5.7%	12.6%	4.0%	2.5%	12.8%	5.6%	1.5%
	無効回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%	0.6%	0.5%	0.0%
	無回答	8	1.3%	1.9%	0.7%	3.0%	0.0%	0.5%	3.4%	0.9%	0.0%
	よくあてはまる	182	30.5%	30.6%	30.4%	24.2%	29.6%	37.9%	19.6%	30.5%	40.2%
	ややあてはまる	266	44.6%	41.6%	47.9%	38.9%	51.3%	43.9%	43.0%	45.5%	45.1%
	あまりあてはまらない	100	16.8%	18.0%	15.4%	20.7%	14.6%	15.2%	20.7%	16.9%	13.2%
	まったくあてはまらない	38	6.4%	6.9%	5.7%	12.6%	4.0%	2.5%	12.8%	5.6%	1.5%
	無効回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%	0.6%	0.5%	0.0%
	無回答	8	1.3%	1.9%	0.7%	3.0%	0.0%	0.5%	3.4%	0.9%	0.0%
	よくあてはまる	182	30.5%	30.6%	30.4%	24.2%	29.6%	37.9%	19.6%	30.5%	40.2%
	ややあてはまる	266	44.6%	41.6%	47.9%	38.9%	51.3%	43.9%	43.0%	45.5%	45.1%
	あまりあてはまらない	100	16.8%	18.0%	15.4%	20.7%	14.6%	15.2%	20.7%	16.9%	13.2%
	まったくあてはまらない	38	6.4%	6.9%	5.7%	12.6%	4.0%	2.5%	12.8%	5.6%	1.5%
	無効回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%	0.6%	0.5%	0.0%
	無回答	8	1.3%	1.9%	0.7%	3.0%	0.0%	0.5%	3.4%	0.9%	0.0%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
数学(算数)の問題に取り組むとき、問題を図や表に表して整理し、考えるようにしている	よくあてはまる	68	11.4%	12.3%	10.4%	10.1%	11.6%	12.6%	8.4%	12.7%	12.7%
	ややあてはまる	226	37.9%	34.7%	41.4%	33.8%	39.7%	40.4%	29.1%	39.0%	44.6%
	あまりあてはまらない	224	37.5%	37.5%	37.5%	38.9%	35.2%	38.9%	41.3%	37.1%	34.8%
	まったくあてはまらない	69	11.6%	12.9%	10.0%	13.6%	13.6%	7.6%	17.3%	10.3%	7.8%
	無効回答	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	無回答	8	1.3%	1.9%	0.7%	3.0%	0.0%	0.5%	3.4%	0.9%	0.0%
	未受験	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
数学(算数)の問題を解くとき、いろいろな方法で考えるようにしている	よくあてはまる	162	27.1%	29.3%	24.6%	23.2%	29.1%	29.3%	19.6%	23.9%	37.3%
	ややあてはまる	201	33.7%	35.6%	31.4%	26.8%	35.7%	38.9%	27.4%	36.6%	36.3%
	あまりあてはまらない	162	27.1%	22.7%	32.1%	29.8%	27.6%	24.2%	31.8%	28.2%	22.1%
	まったくあてはまらない	62	10.4%	9.8%	11.1%	16.7%	7.5%	7.1%	17.3%	10.3%	4.4%
	無効回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	無回答	7	1.2%	1.6%	0.7%	2.5%	0.0%	0.5%	2.8%	0.9%	0.0%
	未受験	1	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
現在、部活動に参加していますか	運動部に参加し、熱心に活動している	402	67.3%	74.8%	58.9%	63.6%	70.4%	68.2%	59.2%	71.8%	70.1%
	運動部に参加しているが、あまり熱心には活動していない	40	6.7%	6.9%	6.4%	10.1%	6.5%	3.5%	12.3%	3.8%	4.9%
	文化部に参加し、熱心に活動している	90	15.1%	4.7%	26.8%	11.1%	14.6%	19.7%	10.1%	17.4%	17.2%
	文化部に参加しているが、あまり熱心には活動していない	11	1.8%	1.3%	2.5%	2.5%	0.0%	3.0%	3.9%	0.9%	1.0%
	運動部と文化部の両方に参加している	4	0.7%	0.9%	0.4%	1.5%	0.0%	0.5%	1.7%	0.0%	0.5%
	部活動に参加していない	45	7.5%	10.1%	4.6%	10.1%	8.0%	4.0%	11.7%	5.2%	5.9%
	無回答	5	0.8%	1.3%	0.4%	1.0%	0.5%	1.0%	1.1%	0.9%	0.5%
高校で進学したい学科／普通科	候補でない	417	69.8%	70.3%	69.3%	72.2%	71.9%	65.2%	72.6%	73.7%	63.2%
	候補である	175	29.3%	28.1%	30.7%	25.3%	28.1%	34.8%	25.1%	25.8%	36.8%
	無回答	5	0.8%	1.6%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	2.2%	0.5%	0.0%
高校で進学したい学科／専門学科	候補でない	500	83.8%	88.3%	78.6%	79.3%	85.9%	86.4%	79.3%	83.1%	88.2%
	候補である	92	15.4%	10.1%	21.4%	18.2%	14.1%	13.6%	18.4%	16.4%	11.8%
	無回答	5	0.8%	1.6%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	2.2%	0.5%	0.0%
高校で進学したい学科／総合学科	候補でない	467	78.2%	77.3%	79.3%	78.3%	77.9%	78.3%	78.2%	73.7%	82.8%
	候補である	125	20.9%	21.1%	20.7%	19.2%	22.1%	21.7%	19.6%	25.8%	17.2%
	無回答	5	0.8%	1.6%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	2.2%	0.5%	0.0%
高校で進学したい学科／高校には進学する予定だが、学科はまったく考えていない	候補でない	325	54.4%	50.8%	58.6%	56.1%	53.3%	54.0%	54.7%	58.2%	50.5%
	候補である	267	44.7%	47.6%	41.4%	41.4%	46.7%	46.0%	43.0%	41.3%	49.5%
	無回答	5	0.8%	1.6%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	2.2%	0.5%	0.0%
高校で進学したい学科／高校には進学しない予定	候補でない	590	98.8%	97.8%	100.0%	96.5%	100.0%	100.0%	96.6%	99.5%	100.0%
	候補である	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	無回答	5	0.8%	1.6%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	2.2%	0.5%	0.0%
学年の中でどれくらい勉強ができるほうだと思いますか	とてもよくできる	15	2.5%	4.1%	0.7%	2.0%	2.0%	3.5%	1.7%	1.9%	3.9%
	よくできる	77	12.9%	15.5%	10.0%	3.5%	7.5%	27.8%	1.7%	8.0%	27.9%
	普通	287	48.1%	47.3%	48.9%	34.3%	53.3%	56.6%	30.7%	54.5%	56.4%
	あまりできない	161	27.0%	24.0%	30.4%	40.4%	30.2%	10.6%	44.1%	29.6%	9.3%
	まったくできない	55	9.2%	8.5%	10.0%	18.7%	7.0%	1.5%	20.7%	6.1%	2.5%
	無回答	2	0.3%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
小学校入学前までに、家の人に本の読み聞かせをしてもらった	あてはまる	301	50.4%	44.8%	56.8%	39.4%	52.8%	59.6%	41.9%	51.2%	57.4%
	どちらかといえばあてはまる	136	22.8%	24.6%	20.7%	19.2%	22.1%	26.8%	19.0%	24.4%	24.0%
	どちらかといえばあてはまらない	74	12.4%	12.3%	12.5%	14.6%	13.1%	9.6%	15.6%	10.8%	11.3%
	あてはまらない	78	13.1%	17.4%	8.2%	24.2%	11.1%	3.5%	21.2%	12.7%	6.4%
	無回答	8	1.3%	0.9%	1.8%	2.5%	1.0%	0.5%	2.2%	0.9%	1.0%
中学校入学前までに、家の人に美術館・博物館につれていってもらった	あてはまる	202	33.8%	34.4%	33.2%	23.7%	38.2%	39.9%	28.5%	34.3%	38.2%
	どちらかといえばあてはまる	108	18.1%	19.6%	16.4%	18.7%	15.6%	20.2%	18.4%	15.5%	20.6%
	どちらかといえばあてはまらない	91	15.2%	13.6%	17.1%	16.2%	13.1%	16.7%	15.6%	16.4%	13.7%
	あてはまらない	192	32.2%	32.2%	32.1%	39.4%	33.2%	23.2%	36.9%	32.9%	27.0%
	無回答	4	0.7%	0.3%	1.1%	2.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.9%	0.5%
小学校と中学校の違いで困ったことがある	あてはまる	126	21.1%	22.4%	19.6%	25.3%	18.1%	19.2%	24.0%	21.1%	18.1%
	どちらかといえばあてはまる	169	28.3%	27.4%	29.3%	23.7%	30.7%	30.8%	21.8%	30.5%	31.9%
	どちらかといえばあてはまらない	149	25.0%	21.1%	29.3%	22.2%	24.1%	28.8%	21.8%	23.9%	28.9%
	あてはまらない	137	22.9%	26.5%	18.9%	24.2%	24.6%	20.2%	29.1%	21.1%	19.6%
	無回答	16	2.7%	2.5%	2.9%	4.5%	2.5%	1.0%	3.4%	3.3%	1.5%
自分にはよいところがあると思う	あてはまる	160	26.8%	30.3%	22.9%	27.3%	26.6%	26.8%	22.9%	27.2%	29.9%
	どちらかといえばあてはまる	255	42.7%	41.0%	44.6%	38.9%	43.2%	46.0%	41.3%	42.3%	44.6%
	どちらかといえばあてはまらない	115	19.3%	17.4%	21.4%	18.7%	20.6%	18.2%	18.4%	20.7%	18.1%
	あてはまらない	59	9.9%	9.8%	10.0%	12.6%	8.0%	9.1%	14.0%	8.9%	7.4%
	無回答	8	1.3%	1.6%	1.1%	2.5%	1.5%	0.0%	3.4%	0.9%	0.0%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
学校の友だちとうまくやれていると思う	あてはまる	312	52.3%	54.3%	50.0%	55.1%	53.8%	48.5%	53.6%	54.9%	48.5%
	どちらかといえばあてはまる	216	36.2%	36.0%	36.4%	28.3%	37.7%	41.9%	30.7%	34.3%	42.6%
	どちらかといえばあてはまらない	44	7.4%	5.4%	9.6%	9.6%	5.5%	7.1%	8.9%	7.0%	6.4%
	あてはまらない	16	2.7%	3.8%	1.4%	4.5%	1.5%	2.0%	5.6%	1.4%	1.5%
	無回答	9	1.5%	0.6%	2.5%	2.5%	1.5%	0.5%	1.1%	2.3%	1.0%
将来の夢や目標を持っている	あてはまる	362	60.6%	58.0%	63.6%	67.7%	63.3%	50.5%	68.2%	62.0%	52.5%
	どちらかといえばあてはまる	107	17.9%	15.8%	20.4%	15.2%	18.6%	20.2%	13.4%	20.7%	19.1%
	どちらかといえばあてはまらない	70	11.7%	12.9%	10.4%	8.6%	10.6%	16.2%	11.2%	7.5%	16.7%
	あてはまらない	53	8.9%	12.3%	5.0%	6.6%	7.5%	12.6%	5.6%	8.9%	11.8%
	無回答	5	0.8%	0.9%	0.7%	2.0%	0.0%	0.5%	1.7%	0.9%	0.0%
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする	あてはまる	302	50.6%	41.3%	61.1%	48.0%	47.2%	56.1%	45.8%	51.2%	53.9%
	どちらかといえばあてはまる	170	28.5%	31.9%	24.6%	27.3%	30.2%	28.3%	25.7%	32.9%	26.5%
	どちらかといえばあてはまらない	64	10.7%	13.6%	7.5%	9.6%	12.1%	10.6%	10.1%	8.9%	13.2%
	あてはまらない	52	8.7%	11.7%	5.4%	12.1%	9.5%	4.5%	14.5%	6.6%	5.9%
	無回答	9	1.5%	1.6%	1.4%	3.0%	1.0%	0.5%	3.9%	0.5%	0.5%
クラスの中で馬鹿にされていると感じることがある	あてはまる	49	8.2%	10.4%	5.7%	9.6%	9.0%	6.1%	8.9%	8.9%	6.9%
	どちらかといえばあてはまる	98	16.4%	17.4%	15.4%	19.2%	13.6%	16.7%	17.3%	15.5%	16.7%
	どちらかといえばあてはまらない	196	32.8%	31.9%	33.9%	25.3%	37.2%	35.9%	28.5%	32.4%	37.3%
	あてはまらない	240	40.2%	38.8%	41.8%	44.4%	37.7%	38.4%	43.0%	39.9%	37.7%
	無回答	14	2.3%	1.6%	3.2%	1.5%	2.5%	3.0%	2.2%	3.3%	1.5%
いつも一緒にいる友だちグループ以外の人とは、特に仲良くしたいとは思わない	あてはまる	33	5.5%	6.9%	3.9%	8.1%	6.5%	2.0%	10.1%	4.7%	2.5%
	どちらかといえばあてはまる	68	11.4%	12.9%	9.6%	10.6%	15.1%	8.6%	14.5%	8.9%	11.3%
	どちらかといえばあてはまらない	221	37.0%	40.4%	33.2%	35.9%	32.2%	43.4%	31.8%	39.0%	39.7%
	あてはまらない	271	45.4%	39.1%	52.5%	44.4%	46.2%	44.9%	43.0%	46.9%	45.6%
	無回答	4	0.7%	0.6%	0.7%	1.0%	0.0%	1.0%	0.6%	0.5%	1.0%
学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合も含みます)で勉強をしていますか	学習塾に通っていない	298	49.9%	50.8%	48.9%	51.0%	50.8%	48.0%	53.6%	52.6%	44.1%
	学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している	94	15.7%	19.2%	11.8%	14.6%	17.1%	15.2%	12.8%	14.6%	19.1%
	学校の勉強でよく分らなかった内容を勉強している	48	8.0%	7.3%	8.9%	11.6%	8.5%	4.0%	10.6%	8.5%	5.4%
	両方の内容を勉強している	114	19.1%	13.9%	25.0%	10.6%	18.1%	28.8%	9.5%	17.4%	29.4%
	両方のどちらともいえない	37	6.2%	7.3%	5.0%	9.6%	5.5%	3.5%	10.1%	7.0%	2.0%
	無回答	6	1.0%	1.6%	0.4%	2.5%	0.0%	0.5%	3.4%	0.0%	0.0%
今住んでいる地域の行事に参加している	あてはまる	112	18.8%	19.9%	17.5%	19.2%	19.6%	17.7%	21.8%	17.8%	17.2%
	どちらかといえばあてはまる	164	27.5%	24.0%	31.4%	21.7%	26.1%	34.8%	22.9%	26.3%	32.8%
	どちらかといえばあてはまらない	175	29.3%	27.4%	31.4%	31.8%	28.1%	28.3%	29.6%	27.7%	30.9%
	あてはまらない	130	21.8%	25.2%	17.9%	22.7%	24.1%	17.7%	22.9%	24.4%	17.6%
	無回答	16	2.7%	3.5%	1.8%	4.5%	2.0%	1.5%	2.8%	3.8%	1.5%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	あてはまる	457	76.5%	70.7%	83.2%	76.3%	78.4%	75.3%	72.6%	77.5%	78.9%
	どちらかといえばあてはまる	87	14.6%	16.7%	12.1%	12.6%	15.6%	15.7%	15.6%	15.5%	12.7%
	どちらかといえばあてはまらない	21	3.5%	5.0%	1.8%	3.5%	2.0%	5.1%	3.4%	2.8%	4.4%
	あてはまらない	16	2.7%	3.8%	1.4%	3.5%	2.0%	2.0%	5.6%	0.9%	2.0%
	無回答	16	2.7%	3.8%	1.4%	4.0%	2.0%	2.0%	2.8%	3.3%	2.0%
学校の先生たちの言うことは信頼できると思う	あてはまる	164	27.5%	29.7%	25.0%	33.8%	28.1%	20.7%	29.6%	25.4%	27.9%
	どちらかといえばあてはまる	289	48.4%	44.5%	52.9%	36.4%	51.3%	57.6%	36.9%	54.0%	52.5%
	どちらかといえばあてはまらない	91	15.2%	15.5%	15.0%	17.7%	14.6%	13.1%	22.3%	11.7%	12.7%
	あてはまらない	31	5.2%	6.0%	4.3%	6.6%	3.5%	5.6%	7.8%	3.8%	4.4%
	無回答	22	3.7%	4.4%	2.9%	5.6%	2.5%	3.0%	3.4%	5.2%	2.5%
テストの点数で人を評価することはよくないことだと思う	あてはまる	309	51.8%	47.9%	56.1%	56.6%	50.3%	48.5%	61.5%	48.8%	46.1%
	どちらかといえばあてはまる	193	32.3%	33.4%	31.1%	28.8%	32.2%	36.4%	23.5%	35.7%	36.8%
	どちらかといえばあてはまらない	54	9.0%	9.1%	8.9%	8.1%	9.5%	9.6%	7.3%	9.4%	10.3%
	あてはまらない	25	4.2%	5.7%	2.5%	2.0%	6.0%	4.0%	4.5%	2.8%	5.4%
	無回答	16	2.7%	3.8%	1.4%	4.5%	2.0%	1.5%	3.4%	3.3%	1.5%
困っている人がいたら社会みんなで助けるべきだと思う	あてはまる	336	56.3%	54.9%	57.9%	56.1%	59.3%	54.0%	56.4%	54.0%	58.8%
	どちらかといえばあてはまる	203	34.0%	31.9%	36.4%	30.8%	32.7%	37.9%	33.0%	33.3%	35.3%
	どちらかといえばあてはまらない	29	4.9%	6.9%	2.5%	4.0%	5.5%	5.1%	3.9%	7.0%	3.4%
	あてはまらない	9	1.5%	2.2%	0.7%	3.0%	0.0%	1.5%	3.4%	0.5%	1.0%
	無回答	20	3.4%	4.1%	2.5%	6.1%	2.5%	1.5%	3.4%	5.2%	1.5%
少しでも学力の高い高校へ進学したい	あてはまる	333	55.8%	59.3%	51.8%	51.0%	59.3%	57.1%	49.2%	57.3%	59.8%
	どちらかといえばあてはまる	161	27.0%	24.6%	29.6%	26.3%	25.1%	29.8%	25.7%	26.8%	28.4%
	どちらかといえばあてはまらない	57	9.5%	6.9%	12.5%	10.1%	12.1%	6.6%	11.7%	9.9%	7.4%
	あてはまらない	30	5.0%	5.7%	4.3%	8.1%	1.5%	5.1%	10.6%	2.3%	2.9%
	無回答	16	2.7%	3.5%	1.8%	4.5%	2.0%	1.5%	2.8%	3.8%	1.5%

質問	選択肢	単純集計(列%)		性別とのクロス(列%)		中1国語スコア3分位とのクロス(列%)			中1数学スコア3分位とのクロス(列%)		
		N (597)	% (100%)	男子 (N=317)	女子 (N=280)	下位 (N=198)	中位 (N=199)	上位 (N=198)	下位 (N=179)	中位 (N=213)	上位 (N=204)
高校で仕事に直接役立つことを学びたい	あてはまる	273	45.7%	45.4%	46.1%	44.9%	49.2%	43.4%	45.3%	47.9%	44.1%
	どちらかといえばあてはまる	211	35.3%	35.0%	35.7%	32.3%	38.2%	35.4%	33.5%	36.6%	35.8%
	どちらかといえばあてはまらない	74	12.4%	10.1%	15.0%	12.6%	8.5%	15.7%	12.8%	10.3%	13.7%
	あてはまらない	21	3.5%	5.4%	1.4%	5.1%	1.5%	4.0%	4.5%	1.9%	4.4%
	無回答	18	3.0%	4.1%	1.8%	5.1%	2.5%	1.5%	3.9%	3.3%	2.0%
高校に進学したら、勉強についていけるかどうか不安だ	あてはまる	338	56.6%	53.6%	60.0%	60.6%	63.8%	46.0%	64.8%	58.7%	47.5%
	どちらかといえばあてはまる	174	29.1%	29.3%	28.9%	24.7%	24.6%	37.4%	22.9%	27.2%	36.3%
	どちらかといえばあてはまらない	48	8.0%	8.5%	7.5%	5.1%	7.5%	11.6%	5.0%	7.5%	11.3%
	あてはまらない	18	3.0%	4.4%	1.4%	4.0%	2.0%	3.0%	3.9%	1.9%	3.4%
	無回答	19	3.2%	4.1%	2.1%	5.6%	2.0%	2.0%	3.4%	4.7%	1.5%
将来、地位や名誉のある職業につきたい	あてはまる	169	28.3%	33.1%	22.9%	26.3%	32.7%	26.3%	25.7%	32.4%	26.5%
	どちらかといえばあてはまる	174	29.1%	29.7%	28.6%	26.3%	32.2%	29.3%	27.9%	28.6%	30.9%
	どちらかといえばあてはまらない	161	27.0%	20.8%	33.9%	25.3%	23.1%	32.3%	26.3%	23.9%	30.9%
	あてはまらない	75	12.6%	12.3%	12.9%	16.7%	10.1%	10.6%	16.8%	10.8%	10.3%
	無回答	18	3.0%	4.1%	1.8%	5.6%	2.0%	1.5%	3.4%	4.2%	1.5%
将来、自分の興味・関心をいかにせる仕事につきたい	あてはまる	412	69.0%	65.0%	73.6%	67.2%	68.3%	71.7%	68.7%	66.2%	72.1%
	どちらかといえばあてはまる	120	20.1%	20.2%	20.0%	16.7%	22.1%	21.2%	18.4%	20.2%	21.6%
	どちらかといえばあてはまらない	30	5.0%	6.6%	3.2%	7.6%	4.0%	3.5%	6.1%	5.6%	3.4%
	あてはまらない	17	2.8%	4.1%	1.4%	3.5%	3.0%	2.0%	3.4%	4.2%	1.0%
	無回答	18	3.0%	4.1%	1.8%	5.1%	2.5%	1.5%	3.4%	3.8%	2.0%
テストの点数で測ることのできる能力以外の能力をどれくらい持っていると思いますか	1点:まったく持っていない	28	4.7%	4.4%	5.0%	8.6%	3.5%	2.0%	8.9%	4.2%	1.5%
	2点:持っていない	91	15.2%	12.6%	18.2%	21.7%	9.5%	14.1%	19.0%	13.6%	13.7%
	3点:普通	275	46.1%	43.2%	49.3%	39.4%	55.3%	43.4%	45.3%	47.9%	44.6%
	4点:持っている	133	22.3%	24.0%	20.4%	16.2%	21.6%	29.3%	13.4%	22.1%	30.4%
	5点:十分に持っている	53	8.9%	12.0%	5.4%	9.1%	8.0%	9.6%	10.1%	8.5%	8.3%
	無回答	17	2.8%	3.8%	1.8%	5.1%	2.0%	1.5%	3.4%	3.8%	1.5%
将来、どれくらい幸せに生きていけると思いますか	1点:まったく幸せに生きていけない	16	2.7%	3.8%	1.4%	3.5%	1.5%	3.0%	6.1%	0.9%	1.5%
	2点	34	5.7%	7.3%	3.9%	5.6%	4.5%	7.1%	6.1%	4.7%	6.4%
	3点	105	17.6%	17.0%	18.2%	20.2%	19.6%	13.1%	22.3%	18.8%	12.3%
	4点	164	27.5%	27.4%	27.5%	21.7%	28.6%	31.8%	21.8%	27.7%	31.9%
	5点	142	23.8%	19.9%	28.2%	20.2%	24.6%	26.3%	19.6%	23.5%	27.9%
	6点:とても幸せに生きていける	120	20.1%	21.1%	18.9%	24.2%	19.1%	17.2%	21.2%	20.7%	18.6%
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか	4時間以上	59	9.9%	6.0%	14.3%	16.2%	10.6%	3.0%	17.9%	9.4%	3.4%
	3時間以上、4時間より少ない	44	7.4%	7.3%	7.5%	10.6%	5.0%	6.6%	11.7%	6.6%	4.4%
	2時間以上、3時間より少ない	61	10.2%	7.9%	12.9%	14.6%	7.0%	9.1%	10.6%	12.2%	7.8%
	1時間以上、2時間より少ない	102	17.1%	16.4%	17.9%	16.7%	15.6%	19.2%	12.8%	20.2%	17.6%
	30分以上、1時間より少ない	81	13.6%	14.2%	12.9%	8.6%	18.1%	13.6%	10.6%	14.6%	14.7%
	30分より少ない	88	14.7%	15.8%	13.6%	10.1%	15.6%	18.2%	13.4%	15.5%	15.2%
	携帯電話やスマートフォンを持っていない	146	24.5%	29.0%	19.3%	18.7%	26.1%	28.8%	20.1%	17.8%	35.3%
	無回答	16	2.7%	3.5%	1.8%	4.5%	2.0%	1.5%	2.8%	3.8%	1.5%
学年の中でどれくらい国語の勉強ができるほうだと思いますか	とてもよくできる	10	1.7%	2.2%	1.1%	1.5%	1.0%	2.5%	1.7%	0.9%	2.5%
	よくできる	76	12.7%	12.0%	13.6%	5.1%	9.0%	24.2%	5.6%	7.5%	24.5%
	普通	266	44.6%	40.4%	49.3%	36.9%	46.2%	50.5%	38.0%	46.0%	48.5%
	あまりできない	171	28.6%	28.7%	28.6%	37.9%	30.7%	17.2%	33.0%	33.8%	19.6%
	まったくできない	59	9.9%	13.2%	6.1%	14.6%	11.1%	4.0%	19.0%	8.5%	3.4%
	無回答	15	2.5%	3.5%	1.4%	4.0%	2.0%	1.5%	2.8%	3.3%	1.5%
学年の中でどれくらい数学の勉強ができるほうだと思いますか	とてもよくできる	28	4.7%	7.6%	1.4%	3.0%	5.5%	5.6%	2.2%	4.2%	7.4%
	よくできる	135	22.6%	28.1%	16.4%	14.6%	19.6%	33.8%	9.5%	18.8%	38.2%
	普通	238	39.9%	37.2%	42.9%	34.8%	38.2%	46.5%	28.5%	46.5%	42.6%
	あまりできない	124	20.8%	15.1%	27.1%	26.8%	25.6%	10.1%	35.2%	21.1%	7.8%
	まったくできない	57	9.5%	8.5%	10.7%	16.7%	9.0%	2.5%	21.8%	6.1%	2.5%
	無回答	15	2.5%	3.5%	1.4%	4.0%	2.0%	1.5%	2.8%	3.3%	1.5%

執筆者一覧

堤孝晃 東京大学社会科学研究所 助教
須藤康介 明星大学教育学部 助教
中西啓喜 早稲田大学人間科学学術院 助教
小黒恵 東京大学大学院教育学研究科 博士課程
豊永耕平 東京大学大学院教育学研究科 修士課程

[付記]

本報告書は、日本学術振興会の2015～2017年度科学研究費助成事業基盤研究C「学校教育が学力・学習意欲に与える因果的効果—X市中学生悉皆パネル調査から—」（研究課題番号：15K04377、研究代表：須藤康介）の研究成果の一部である。

2016年3月31日発行（非売品）

東京大学社会科学研究所研究シリーズ No. 60
X市中学生パネル学力調査——第一次調査報告
堤孝晃・須藤康介 編著

発行所 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
TEL: 03-5841-4908 FAX: 03-5841-4905
東京大学社会科学研究所
印刷所 三鈴印刷株式会社

Panel Survey on Academic Achievement of Junior High School Students in X City: First Wave Report

Edited by Takaaki TSUTSUMI and Kosuke SUDO

ISS Research Series No. 60

INSTITUTE OF SOCIAL SCIENCE UNIVERSITY OF TOKYO